

創刊大正十三年三月一日發行（毎月一日發行）
令和五年三月一日發行（毎月一日發行）

川柳塔



日川協加盟

No.1150

三月号

ご注文は下記へ、ハガキかFAXにて。お支払いは
到着後で結構です。

新家完司・著



川柳理論との実践

実践を意識した豊富な例句で学ぶ作句法・選句法・心得
初心者はもちろん、中級者やベテランにも役立つ

〒689-2303 鳥取県東伯郡琴浦町徳万597 新家完司
326頁。送料+消費税=2,000円 FAX 0858-52-2449

「各地句会だより」募集

一月号から14年ぶりに「各地句会だより」を再開しています。

川柳塔社グループの川柳会は、ぜひご参加ください。原稿は川柳塔社事務所まで。

内 容 一 会の特色・様子・行事・

今後の予定など自由

19字×50行以内（本文のみ）

締 写 字 数
切 真 数

一 隨時

なお、掲載月・文章の添削については編集部に一任願います。

大切な一冊

小島蘭幸

私には、川柳塔の指導、作句欲を高めるために常に身近に置いて参考にしている一冊の柳誌があります。それは昭和53年8月1日発行の川柳展望、14、夏の号です。

川柳展望は、昭和50年5月1日に創刊号が発行されています。時実新子46歳の時です。

創刊して3年を経過したこの夏の号の目次には、作品、特集、論文、鑑賞、発言、読み物の項目があります。

特集は、昭和53年3月26日に名古屋市で開催された20題句会です。出席者は男性102名、女性53名、全国から著名作家が出席されています。課題、選者、入選句ともに素晴らしいのです。川柳塔から橋高薰風が選者として出席されています。

秀　　課題「紫」　　橋高　薰風　選
　　紫の山青年は老い易し　　東野　大八

日を閉じると放射線状の虹が見える。虹は、よく見ると一本一本の糸。それが私に向かって発射され、私は小さな手いっぱいにその糸を握りしめている。糸は一本として同じ色のものはない。そして、一本一本が常に私と一対一でつながっている。昭和50年3月発足以来、この感覚は私の中で不動である。から始まる新子の巻頭言「天行は健なり」繰り返し繰り返し読んで元気をいただいています。憧れの好作家の作品も多く掲載されています。

新子へんぺん

れんげ菜の花この世の旅もあと少し
墓の下の男の下に眠りたや

定金冬二作品

なにも捨てられなくて男は風に舞う
指を一本風にかざして寂しいおとな

蒟蒻　中村富一

千人の爪　のびてゆく　静けさ
易者がひとり砲丸投げをしていたな

どの頁を開いても、川柳愛、情熱が溢れている川柳展望夏の号、経年変化して表紙は破れ、はがれていますが私の大切な一冊です。

座右の句

東京にいると日本が分からぬ

佐道

正

私の句

花束を駅に忘れる退職日

東定生

川柳塔 三月号 目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田尋「ヴォーリズ・旧水口図書館」

■巻頭言 大切な一冊

小島蘭幸 (1)

短い物語

水野黒兎 (2)

川柳塔 (同人吟)

小島蘭幸選 (4)

波蘿草の花

野沢省悟 (35)

誹風柳多留一三篇研究

31

吉村侑久代 (38)

橘高薰風句集『肉眼』

垂井葵水 (39)

自選集 (40)

句集の森 (43)

温故知新 (44)

愛染抄 (44)

木本朱夏選 (44)

水煙抄

新家完司選 (62)

理恵

短い物語

水野黒兎

同人の川柳一句を最後の締めくくりに置く短い物語二編をお届けします。

(二)

さあ今日はいつもの老人ホームを訪問する日だ。幸いにも雨は上がった。晚秋としては穏やかな陽気。温かそうなセーターが手土産である。前に来たときは好物のリンクを土産にした。のどに詰まるような食べ物は避けねばならない。

子供たちは巣立つて遠くに赴任。母から引き継いだ子供向けの英語教室はまずまず順調である。

老人ホームへは毎週のようによつているので係の方たちには軽く挨拶して部屋に向かう。さあ着いた。

早速、はらせーターようと手渡す。

「あらあら嬉しいわ、いつも優しくしてくれてありがとう。こんな優しい人を育てたあなたのお母さんに会つてみたいわ」とセーターを抱きしめるように持ちにこにしながら私に言う。

「何言つてゐるの、いつものことじやないの、お母さん」

運かれ早かれ認知症とか痴呆とか

一路集（「耕す」）……………梅澤盛夫選：(70)

「パワフル」……………柏原夕胡選：(71)

初歩教室「スーザン」……………水野黒兎：(72)

インスピレーション・ナビ 印象吟：(74)

川柳塔鑑賞……………内藤憲彦：(76)

水煙抄鑑賞……………福西茶子：(78)

せんりゅう飛行船(10)……………新家完司：(79)

最近、郵便着くの遅くない？……………藤田武人：(80)

「初心者の知らねばならぬこと」より……………藤田武人：(81)

二月本社句会……………共同通信社 上野敦：(82)

各地柳壇（佳句地十選／笠重耕三・雪本珠子）……………藤田武人：(83)

柳界展望……………道夫・眞澄・憲彦：(84)

三月各地句会案内……………道夫・眞澄・憲彦：(85)

■編集後記（ひとつこと／きとうこみつ）……………道夫・眞澄・憲彦：(86)

（106）……………道夫・眞澄・憲彦：(90)

（104）……………道夫・眞澄・憲彦：(103)

（102）……………道夫・眞澄・憲彦：(104)

座右の句

銃は捨てなさい口笛吹きなさい

上野 多恵子

私の句

伸びたかな川柳学び頭脳線

荒牧 孝子

（二）
うつとうしい梅雨がまだ終りそうもない
ある日父がちょっと部屋に来いと言う。きっとまたあの話に違いないと予想はしたが
観念して部屋に行つた。案の定難しい顔を
して父が座つていた。
わしはお前のことが憎くて言つているの
ではないよ、一人娘のお前の幸せを願うか
らこそ反対するのだ。あの男は定職につい
ているのかね。なに、まだ大学院生で就職
もしてないのか、どうやつて生活するつも
りなんだ。生活をするというのは簡単なこ
とでない。若いもんはすぐ愛があればなん
て言うが愛では物は買えないことはお前も
分かつてはいるはずだ。
でも、と言うと、でももへちまもあるも
んかとまた大声になる父であった。
こんなやりとりがあつたのはかれこれ四
年ほど前、私はかたくなに父の反対を押し
切つて彼と一緒になつた。式も挙げずに。
彼の就職が決まるまで懸命に働きやがて男
の子が生まれた。
そんな四月のある日、実家から荷物が届
いた。手紙などは何も入つていなかつたが、
宛名の文字は明らかに明治生まれの無骨な
父の筆文字であつた。
許すとは言わずに届くこいのぼり

小島蘭幸選

川柳

和歌山市 柏原夕胡

行く末を心配しても始まらぬ
目覚めない朝が来る日を望みます

優子ちゃんとやさしく話す娘と暮らす

動けるかぎり娘の役に立ちたくて
子孝行たんと尽くしてから惚ける
老いる娘よ自分が老いるより哀し
取り敢えず笑う何とかなるだろう

大阪市 平井美智子

ふる里の雪を伝えているラジオ
よく染みたおでん絆のあたたかさ
「しあわせ」と書いてすこしうれぐむ
手の平の海をときどきよぎる船

ビル街の死角に落ちてゆく夕日
冬を越すためにひたすら水を飲む

土佐清水市 辻内次根

波頭光る岬の早い春
咀嚼する音をしみじみ聞く夕餉

小島蘭幸選

冬の陽を十分吸った布団敷く
一汁一菜麦のご飯を腹八分

体調は何時もおなかが空いている
思案してみると確かな明日がある

尼崎市 山田耕治

中学になつても肩叩き券くれる
お隣でバイエルが鳴る午後三時
本閉じて目薬さして今日終わる

赤ちゃんが退屈そうな乳母車
お寺にもポインセチアが置いてある

ハムスターが待つてるので帰ります
下手な字は生きてるし賀状書く

晴れた日に検査結果を聞きに行く
「小さな図書館」月木やつてます
Mサイズのころの写真は宝物
笑点の懐かし版がお気に入り

世話焼きがもらつて帰る「ありがとう」

箕面市 中山春代

倉吉市 牧野芳光

一円玉よう頑張ると褒めてやる
人間は動かなければ生きられぬ

散り散りになつてしまつた子猫たち
遠い目の幼なじみの影がある

つまずいてからは真下を見て歩く
脛に傷負つて大人になつていく

鳥取市 吉田弘子

少し飛ばう年相応の幕が開く
再読の寂聴長生きも楽し

歩幅合わす人も居なくてマイペース
簡単に乗れた自転車だが恐い

バーゲンで売りたい土地を持つてはいる
冬眠の花にも水を絶やさない

枚方市 栢尾奏子

同じ日に生まれたお隣のアイツ
クラス替えここまで来たら腐れ縁

ふと気付く幼馴染は美しい
初めての恋は最後の恋になり

二軒長屋のプリンセスストーリー
幸せはきっと半径1キロだ

神戸市 上田和宏

恙なし駅伝三日全部見た
百均で間に合うほどのお正月
しっかりと尻に敷かれている安堵

深夜便話し上手で聞き上手

断捨離はまた持ち越しの長期戦
縦列駐車出来る返さぬ免許証

犬山市 金子美千代

空つ風鈴しか浮かばない夕餉
W杯タトゥーが目立つお国柄

うれしくはない大雪のクリスマス
これから指針にしたい本に会う
生きている限り出る出る煤払い
穏やかな正月ウクライナを想う

黒石市 石澤はる子

ジョーカーは使い果たした残り時間
積もる雪見知らぬ街にしてしまう
ドロップ缶残り一ヶの存在感
大さじで褒める苦言は小さじ一
米よりもお世話になつてはいるバナナ
雪掻きに老いの足腰試される

横浜市 川島良子

断捨離の宿題残し年の暮れ
時代は変つた紅白も変つた

デイサービス坊主めくりの初笑い
餅入りの七草粥です亡母の味
カレンダーめくれば後期高齢者
大家族育ちでいつも作り過ぎ

上尾市 中 村 伸 子

戦下の子光るあの目を忘れない
飾るたび私らしさに遠くなる
お返事はメールなどと洒落臭い

堺市今井万紗子

ご来光今年もテレビ画面にて
ドラマあり箱根の山にいる魔物
ラツキーカラー嫌いな色は無視をする
雨戸繰る生きてますよは大袈裟か
何故だらう川柳聞くと寝落ちする

転院の付き添いに行く車椅子

香芝市 大 内 朝 子

朝日吸うハートにひまわりが咲いた
忘れてた口紅をさす初鏡

世渡りへ老人力がものを言う

ふる里の夢を見たのよ泣いたのよ

着膨れて脹雀のおばあさん

日向ぼこ過去振り返る万華鏡

鳥取県 福 西 茶 子

オンオフはスロー予定は今日も無い
電気水もつたないネ独居風呂

当然を感謝と読めば腹立たぬ

お日さまと一緒に起きてますお風呂

名前すら読めぬ紅白出場者

南部屋 洗濯物と日向ぼこ

岸和田市 岩 佐 ダン吉

すぐメモを出しはる人だ身構える

赤字路線東海ひとり笑つてる

損得を離れて筋を通したい

コタツ抱き猫とテレビと熱爛と
瞬きをしただけで後期高齢者
バス・電車・新幹線で帰省の子
大掃除頑張りすぎて寝正月
お年玉集金に来た高二の孫
ちゃつかりと助手席狙う赤いバラ

和歌山市 松 原 寿 子

趣味あつて教わることに感謝する
自然体で引き込まれそうお人柄
ひと思いに手紙だつたら書けるのに
母うさぎ追いかけたのは初夢か

着地するまでの命か風花よ
結び昆布リボンのように盛りつける

東京都 川本 真理子

越谷市 久保田 千代

守備範囲どんどん狭くなる冬日

昨日より歩幅を広く保つこと

二人だと少しさびしくなるケーキ

持ち分はわずかでも気になる未来

鉢植えで終わらせないよミカンの木

八王子市 川名洋子

名古屋市 山本 三樹夫

神々しいつもと違う初日の出

息子たち家族と今年も新年会

冬ごもり温いけれども人恋し

意地悪をしているような瓶の蓋

別の途送れたかもと想う人

横浜市 菊地政勝

犬山市 関本かつ子

子が巣立ち針がゆつくり回り出す

五線譜をはずした声が良く通る

飲みたいと思つた時に来た仲間

病む人を優しくつつむ千羽鶴

どこでどう貧乏神を掴んだか

朝霞市 前田洋子

愛知県 早川遡行

正月や猫を注射に連れて行く

正月の気分半減ブーチンよ

防衛費増やせば安堵できますか

恩人よ友よ貴女時間でいいんです

來たんだね後期高齢ドアの前

荷物まだ残し曆は薄くなる
時きざむ命を刻む寒の入り
胸の中しまった憶い鎮まらぬ
立ち上がる勇気をくれた向い風
夕茜もう逆転は無理だろう

駅伝のタスキ届かぬまま走る
ご先祖を守つて生きる一軒家
傘寿に来た危うい膝の立ち上がり
七草粥食べてピヨンとうさぎ歳
物価高年金上げる善政を

久々に子供の声と雪だるま
気がかりな越後の義兄の雪降ろし
意氣込んで見る家康は我が地元
座布団を追加意外なお正月
新年会連絡網がひと回り

現状を維持することの難しさ
いざという時に足りない力瘤
思い切つて勿体ないを処分する
老醜など曝したくはないマスク
節分の豆を誰に投げようか

可児市 板山 まみ子

食卓は寄せ集めです安い物

値上がりに暖房温度一度下げ

地続きでなくてよかつたでもロシア

少子化の大もと独り者だらけ

ゴールまで元気でいたい八十四

神戸市 奥澤 洋次郎

コロナ四年目世間はちょっと様変り

暇なのに追われるよう生きている

同じこと聞いても違う妻の味

作りとうないが思案のマイナンバー

生きていたなはないのだ初日の出

神戸市 興水 弘

うろうろだつて生きてる証し八十路坂

周り賑やかいつもむつり目立つて

ぶつぶつ五分婆の祈りに足揃え

妄想湧くいいシグナルと言いかかせ

ビールポン目覚めもこんな感じいい

神戸市 近藤 勝正

お若いね言われ八十の背ピンとする

軽々しい総理の言葉素通りす

強い国望む人々急増中

通行人国旗表札見て通る

ありがたい平和な時に生まれ生き

神戸市 斎藤 隆浩

昔郵便今はスマホでおめでとう

父卒寿母は米寿で俺還暦

容赦なく合否が決まる一点差

そことでルンバに言われ苦笑い

息抜きに始めたゲーム今やプロ

神戸市 敏森 廣光

真っ白な雪が時には悪さする

ウサギ年の妻だが跳べぬ水たまり

ご近所から正月の音消えました

年賀状友の添え書き揺れている

三つの神に福競わせる初詣で

神戸市 富永 恭子

内と外夫婦で窓を拭く晦日

三日ほどオカリナ吹いてみたけれど

暖かい人のレジには列できる

やめとこか言うて今年もまたおせち

ため息をついてはするミルクティー

神戸市 能勢 利子

百二歳の寝顔を見たら匂が二、三

寒い日はすーっとベッドで寝てる振り

これから介護ひとりで無理になる

チユーリップ咲くまで家で頑張ろね

私の二十五年先を歩く母

神戸市 松倉 正美

芦屋市 新阜 義明

愛子さま凜となされた佇まい
屠蘇氣分抜け切れぬまま鉄初め
正月は朝酒飲むも咎め無し

元旦は始発に乗つて初詣で
七草がすらすら言えて脳達者

神戸市 山口光久

尼崎市 近兼敦子

欲に目が眩んではまる蟻地獄
家計簿が袋小路に入りました
幸せな人は静かにして欲しい
病院を三か所巡る老夫婦
諍いは起こしませんと低姿勢

明石市 糀谷和郎

尼崎市 永田紀惠

顔色を読み合うジョーカーの居場所
無理をせず狙いを少し下げてみる
耳鳴りの合間に響く除夜の鐘
気まぐれな風だあおつてばかりいる
コロナ禍の鉢緒を振れぬ初詣

芦屋市 荒牧孝子

尼崎市 藤井宏造

いい予感彩雲見れた新年に
初夢で青春時代満喫す

ハグした孫背が伸びていた私より
まあ楽し紙とベンある老後です

嫌いです一つ年とるお正月

ポイントで見事つり上げマイナンバ
40年妻と拌んだ初日の出

迫り来る健康寿命もがいてる
マスクでも寒さ対策成る一助
忙しい最中に浮かぶ何故秀句

淋しいと酔いが回るの早いこと
おばちゃんはささいな事に動じない
そうなんやあテレビに私喋つてる

メロディーをやつと覚えてくれた指
言いにくい事が夫に三つある

カラスさえつかぬウチのゴミ袋
料理人他人に教えぬ隠し味

本棚の飾りで終る広辞苑
ギブアップしないさせないウクライナ
千円札見せびらかしてお賽錢

尼崎市 藤井宏造

施設の母せめて我が家で三が日
懐の寒い同士でワンカップ
子や孫が帰るガラガラ冷蔵庫
好奇心はパンクするほど持つてゐる

後期高齢横目でにらみ突き進む

尼崎市 藤田雪菜

三田市足立つな子

久しぶり入浴の背にゆずかおり
喧しうがいをしたら治る風邪
不六合な事は忘れた方が勝ち
シクラメン窓際族で映えます
歌クラブ大声ひびく渦にいる

尼崎市 森 菊江

休耕田何とかせねば自給率
ぐつすりと眠りたいから八千歩
風呂で歌えば外から拍手パチパチと
受け入れ先なくて走れぬ救急車
後期高齢契約ごとは子の同伴

加西市 山端なつみ

耳に目と歯医者行き入り暮忙し
甘酒を主食とするか歯の欠けで
痛み消え横になつたらすぐ寝息
御節作りへスイッチが入る午前二時
子は鋤焼孫は唐揚げ御節残

川西市 山口不動

初詣三三五五と村社
じいさんが孫の縄跳び眺めてる
マドンナの今年限りという賀状
余生の日変らずこなすルーティーン
参道に花はざんか赤と白

風雪のマスクに帽子おかいもの
保育士のパワハラまさかダメヨダメ
胃のもたれリンゴ一個で休ませる
あれこれと逸る思いもすすまない
ゆつたりと楽しめないの高齢者

日の丸は平和の空によく似合う
朝鏡さらり本音が現れる
ほどほどに汚れ人間らしくいる
お別れはタワーの灯消えるまで
春の海眺めてこころ豊かなり

何とかして探すあなたの長所
特別なものを持つてはいけません
かと言つて禪僧になるはずもなく
たんたんとさらさら暮す意地がある
残したいものなどなくて幸せで

三田市 上田ひとみ

帽子にマスク普通の人か変装か
子と孫ら毛嫌い煙草止められぬ
お品書何の料理か魚へん
胃袋を掴みはなさぬ亡妻の味
ワクチン接種半袖シャツの瘦せ我慢

三田市 尾崎一子

三田市 中山昭美

令和五年寿ぐ富士の峰高く
山も人もすこうしはなれて美しい
老いる母そこはかとなく皆やさし
いい知らせ静かに待つてある祈り
精いっぱい生きてやさしい人になる

三田市 九村義徳

三田市 野口真桜子

ピンチには護つてくれた父の傘
祝い箸今年一膳増えました
過疎の村みんなで祝うランドセル
鈍行で駅弁巡り古稀の旅
古稀祝い十八切符買いました

三田市 住吉美和子

三田市 村田博

突然の喪中ハガキに浮かぶ友
我慢強い母の涙で知る苦労
生かすのも殺すのも僕脚本家
抱きしめてくれれば治る不安感
年の功軽いジョークで切り抜ける

カレンダー善き一年を印したい
第九を背筋伸ばして歌つたよ
好きなこと自然に動く身の軽さ
抜きたての大根泥の化粧して
寒いベンチで誰を待つのかおじいちゃん

三田市 多田雅尚

三田市 堀正和

春の七草言えても秋は浮かばない
福袋當てに日本に来るツバ一
美味しいと褒めれば増える酒の燭
正月は一日で良い老夫婦
七草粥作れど誰も手を付けず

三年目コロナに負けず生きている
久し振り麻雀もしたお正月

美味しくと褒めれば増える酒の燭
正月は一日で良い老夫婦
七草粥作れど誰も手を付けず

小判でもこれほどいらぬ落ち葉掃き
まあいいか寝坊スタートお正月
寒からう終戦願い寄付をする
冬日さす方へ席替え受診待つ
何でだろ会いたくないがまた出会う

令和五年寿ぐ富士の峰高く

まあいいか寝坊スタートお正月

寒からう終戦願い寄付をする

冬日さす方へ席替え受診待つ

何でだろ会いたくないがまた出会う

高砂市 松尾 柳右子

感染を避ける高齢出歩けず
戎さん人混み避けてテレビから

通じない電話今度は話し中
外出は最小限にして生きる

献立がいつも嬉しいデイの昼

宝塚市 丸山 孔一

故愛犬を想う天国での散歩
城崎の宿で「城崎にて」を読む
ミサイルが来ても日本にや術も無し
風まかせ気まぐれ枯葉旅に出る
真面目です防犯カメラ気にしない

丹波篠山市 北澤 稲民

明日あると信じて予約してきたが

ちぐはぐな返事で笑う老人会
幸せと思えば空気軽くなる

一芸と悟り無心の鉄を振る

またひとつ歳を重ねて生く山河

丹波篠山市 酒井 健二

絶叫で朝のあいさつ登校児

シャンソンにコーヒ付いて三百円

神仏かはたまた葉に生かされる

善人が死ぬとしばらく気が滅いる

また年を妻にいとわれ誕生日

丹波篠山市 藤井 美智子

初日の出今年の運へまっすぐに
いい笑顔ひ孫に新春癒される

年賀状今年も書いて無事感謝

手づくりのおせちに今年も亡母想う

考えを少しゆるめて楽に生き

西宮市 緒方 美津子

Uターン嬉しい過疎の鬼瓦

年初めいいたいことがわんざあり
名が出ないあたりさわりのない話

年賀状がたんと減つて思うこと

ちよつとした気づかいうれし車椅子

西宮市 亀岡 哲子

集い今日卒寿の春を祝われる

タブレットに過去満載のプレゼント

大家族のおかげ想い出たんとあり

それぞれになんとかなつて大家族

バジヤマ買う今もピンクの花柄で

西宮市 福島 弘子

長老と言われ驚く年女

兎跳び汗びっしよりの友も居た

三年振り願いが叶う女子会へ

願つたり叶つたりランチ誘われる

べんちやらを笑顔でかわし角立たぬ

南あわじ市 萩原狸月

奈良市 高橋敬子

少子化加速赤紙の亡靈が

少子化に僕の介護の人有りや

八十半ば悪事の如く免許証

マスクした顔しか知らぬ孫の友

明るい句詠める今年を願う屠蘇

奈良市 東 定生

奈良市 辻内 げんえい

一年間巻かれたままのカレンダー

演歌にも街のゴミにもなる落葉

駅のホーム立ち食いソバが消えていく

増えていく一人住まいと墓じまい

動くほど道から逸れる遭難者

奈良市 大久保 真澄

奈良市 山本昌代

スイーツと呼ばれ焼き芋熱くなる

美魔女は無理だが魔女にはなりたいな

いい子やでとうわざの人は六十五

イケズにも磨きがかかる年功

熱が出たら診てもらえるか医者に聞く

奈良市 加藤 江里子

奈良市 米田恭昌

愛読書を知つて解つた君のこと

人は皆女優であれといふ教え

小さき声も心に響くことがあり

大晦日息子と語る一年分

お嫁さんに段々似てくる孫娘

初詣で子らに留守番頼まれる
映る賑わい留守番役であたつてた
御下がりの棒だら私だけ賞味

この頃はマジシャンほどに物が消せ

核を消す魔法今かと待つて

いる

孫去つて今年も疲れどつと出る

来る帰る孫子なかなか揃わない

好き好きと告られはしゃぐ孫五歳

オレの孫もつとできると期待する

試し打ちでは全部まつすぐ飛ぶボール

奈良市 山本昌代

大根干す風と太陽コラボさせ

物価高シミユレーションをする財布

あつたかいそれぞれ違う思いやり

応援にやる気出てきた足や腰

思い出の多くは母の膝のうえ

奈良市 米田恭昌

人波に押されて進む初詣で

餅をつく兎は月にもう居ない

英智結集してコロナと対峙する

レジ前で小銭ひろげて妻も老い

まだ「今年こそは」と虎キチこりもせず

生駒市 飛永 ふりこ

ブランボーが響いて皆のハイテンション
スヌーピーの財布があれすぐ空に
3年ぶり踊り出る笑みイヤリング
絵手紙にふんわり浮かぶ温かさ

吉と出た神籠びよんびよん出るパワー

香芝市 山下 じゅん子

書き初めに孫の名を書く祝箸
帆上げの孫には負けぬ喜寿の技
母百寿ブランボー覚えさわがしい
老夫婦恋人つなぎの眩しさ
幸せのオーラあふれるイヤリング

奈良県 安土理恵

聞き納め令和四年の鐘の音
買い出しへ息子出陣ありがとう
おとなしい顔でうさぎの立てる耳
嫁の手づくりおせちに文句つけられぬ
六〇年なじんだ味を乞う夫

奈良県 安福和夫

国背負いたがる思いで歓喜呼ぶ
若者の愛国心に安堵する
祖国愛過ぎれば排他にも走る
排他主義つねに諸悪の根源に
孤高なる眞の政治家絶滅か

シンプルな問い合わせ答え難しい
年賀状互いの元気確かめる

原発の不安が消えぬ地震国
世界の武器地球滅ぼしなお余る

古里の豊かな海は宝物

奈良県 中原 比呂志

太平洋岬へどんとぶちかまし
舟盛りに世界の刺身少しづつ
万物のいのち戴く手を合わせ
免許捨てマイナンバーに加入する
マスクした曇り眼鏡で蹴躊躇

奈良県 中堀 優

人生道負けては泣かん勝つて泣く
撒き餌して意見を通す人集め
さあ行くぞこの世第二の始発駅
老いたとて出来ないものは何もない
平伏してコロナ終息薬師さま

奈良県 長谷川 崇明

核もあり地球上止まぬ虎落笛
間際まで響く人生送りたい
新年の願いはひとつ穏やかに
許し出て人の波でお正月
羽子板になつて翔平飛ばす羽根

奈良県 谷川 憲

奈良県 渡辺富子

京都市 清水英旺

打つて出る覚悟の息子瞳が光る

ふる里の話の弾むきりたんば

何もかも捨てて親友ホーム入り

思い出をかなぐり捨てて友ホーム

水仙と春の話をしてなごむ

和歌山市 上田紀子

京都市 藤井文代

絵本から飛び出すかわい白兎

潔い未練残さず椿散る

うぐいすの声固い蕾が眼を覚ます

二つ誉め一つ叱つて伸びゆく芽

水の流れと世の流れには逆らわず

和歌山市 藤原ほのか

長岡京市 山田葉子

年金日こんなに待つたことがない

リハビリは自分のためだと言いきかす

こんなにも風を感じて歩く道

そめられてみたくて白く咲く

人はみなどう生きるかをかんがえる

橋本市 石田隆彦

大阪市 東敏郎

この冬は重ね着をしてダンゴ虫

暖を取る術はこたつと老夫婦

里の頃思い出させる雪景色

雪景色めじろに柿を差し入れし

柿一つ巡つて野鳥争いを

老眼鏡さらにルーペで活字追う
病院へ行く日忘れることはない
戦闘が染みる背広を始末する
寝静まる刻さあ一句ものにせん

戦時下にXマスツリーとはゆとり

しなかつた事した事よりも呵責です
スマートに攻めてくるから勘違い

宵寝してやる気本気を目覚めさせ
衣食住足るが足腰泣く疲弊

病んでから探し始めた悔いの日々

子や孫のふるさと私の居るところ
しみシワも愛嬌となるお年頃
コロナ後はどんな私に会えるかな
エネルギー不足気力で補えぬ
毎日が母の日ごめんねありがとう

長岡京市 山田葉子

妻と声合わせて今朝も起き上がる
計画は妻に忖度して決める

メイドインジャパン信じる浅蜊汁
天からの声降つてくる「まだ早い」

誕生日祝つて貰いピンコロリ

行く道を変える今年の初詣

大阪市 石田孝純

初期化して夢は新たにフルコース

緩緩の老いの体操ルーティーン

階段は手摺りしつかり手に力

透き通る緋色の風を身に纏う

便利グッズ使いすぎてか思考ゼロ

雪雲と一期一会のウォーキング

やめてんか何回物価上げますか

手には地図胸には恋のいろはには

愛しててる地球をもつと考えよ

十八歳二年お預け祝盃は

つるし柿たくさん出来たお裾分け

コロナにめげず新年句会輝きて

初生りを添えて新年祝う朝

孫結婚寡婦の娘にお疲れさん

年賀状今年は五枚減りました

病床の友見舞えず快癒祈るのみ

一心寺亡母の教えを守り抜く

産んでくれた母に感謝のバースデー

寒い冬暮し見直す物価高

やさしい人だつたハンドル握るまで

助つ人に亡母の指輪を連れていく

味も値も期待通りの地味な店

淋しさとベストマッチのビターチョコ

空財布拾つた場所へ捨てに行く

大丈夫小銭がたんとポケットに

美辞麗句並べて断りのメール

元気な婆ちゃんエンジンは川柳

動じない振りをしてても鼻の汗

晴れた正月家族で草野球

小豆島オリーブの花いい香り

コロナ禍で使つた切手二千枚

停戦の兆しないまま春の風

原発を動かせなどと言う族

リハビリを八年続けデイに慣れ

戦争知らぬ奴らが軍拡論

さい果ての北の国からでかい鮭

ともかくも隣国とは仲よくしよう

敬老のバス更新でもう五年

国境はコンバス引いて決めましょ

大阪市

岩崎公誠

大阪市 江島谷勝弘

大阪市

磯島福貴子

大阪市 宇都満知子

大阪市 岩崎玲子

大阪市 榎 本 舞 夢

大阪市 小 野 雅 美

仕事始め右脳左脳を全開す

御褒美か玉三郎の招待券

正月気分友と満喫松竹座

健康を七草粥に心込め

初句会元気賑やか集います

大阪市 大 川 桃 花

大阪市 笠 嶋 惠 美

我が家では主人の上に猫が居る

ローソンの小分け御節でお正月

足腰を鍛えるスーパー梯子して

ブーチンの生きてるうちは眠れない

美容院の予約コロナに邪魔される

大阪市 大 沢 のり子

大阪市 川 端 一 歩

大吉が出た失せ物はまだ先か

阿鼻叫喚機械オニチの女です

ガタガタの歯ですマスクは外せない

冗談は好きですきつねうどん食う

鳥の声きいたさみしくなりました

大阪市 奥 村 五 月

大阪市 古今堂 蕉 子

高齢化言うが友達皆あの世

父叱咤間をおき母の助け船

神様もコロナと値上げ止められぬ

年玉も値上げしてねと孫は言う

越せないと言つた正月早や四日

聞かれたら幸せとでも言つておく

心配性の月が見守る初デート

沈黙が続く平気になってきた

伐採の樹木無念と匂い立つ

自分へのダメ出し続き眠れない

大阪市 古今堂 蕉 子

大阪市 古今堂 蕉 子

淀川の水のささやき「おめでとう」

生かされているなと思う波が来る

いただいてよばれることのありがたさ

西大寺の手ぬぐいもらい元気出る

無理をせずゆっくり生きて楽しまん

大阪市 川 端 一 歩

新しい希望と出合う春が好き

いい話持つて初春墓参り

絵もいいが魁夷の文をしみじみと

人間も遊びがないとすぐ折れる

老春という花もあり水をやる

大阪市 古今堂 蕉 子

米寿とて通過点になるこの世

バトンタッチ嫁の作った節料理

二時間も並んで食べる趣味はない

物価高に牛より豚の旨さ知る

おばあちゃん小さくなつたねと言わわれ

初春に十七人の家族会

大阪市 近 藤

正

小豆粥食べて健康祈ります

大阪市 田 中 廣 子

言うこととやることちばはぐな總理

フクシマの復興人の姿なし

十八歳未来をつくる開拓者

マイナカード保険証まで召し上げる

大阪市

坂

裕 之

まだ遺れるもう少しだが楽しもう

温かい町に居るからのんびりと

会うたびに大人になつてゐる孫だ

誰とでも眞面目に話す人が好き

出来ること遣つていけるの有難い

大阪市

高 杉

力

「ド」「ミ」と来た後は「ソ」でなきやダメですか

ブランコに乗つた何年ぶりだろう

黙つてゐるうちに流線型になる

何をしゃべろう自己紹介は右回り

借景になつて見守ることにする

大阪市

高 杉 千 歩

歩

新しい靴下嬉しお正月

お正月なのに戦争終わらない

起きてるか介護士覗きさつと消え

コンニチハアメチャンコウカンシマセンカ

優しさに慣れて文句が増えてくる

朝餉には梅干ひとつ今日の活

遠く来て心も癒えるいろいろ端

三世代

ワイワイワイ

と

バーベキュー

焼芋がほつこり風の子寄つといで

冬ざれにぶり大根がおいしけ

大阪市

津 村 志華子

志

少しすつ忘ることは寂しいな

モノクロのあの日に戻れない記憶

年毎に亡母に近付く背恰好

春近く友の回復兆しみえ

里の味伝える母の荷が届く

大阪市

寺 井 弘 子

子

歩くことノルマ達成大変だ

雨止んで歩きに行こう元気出し

腰痛をかかえて歩く情けなさ

背かがみガラスにうつる老いの影

大阪市

田 中 ゆみ子

初明かりも少し此處で生きてゆく

牛丼を大盛輝く十八歳

戦争の画面を消して祝成人

まず舐めて赤子は社会味見する

まつとうなこと真つ當に主張する

大阪市

坂

之

朝餉には梅干ひとつ今日の活

遠く来て心も癒えるいろいろ端

三世代

ワイワイワイ

と

バーベキュー

焼芋がほつこり風の子寄つといで

冬ざれにぶり大根がおいしけ

大阪市

高 杉 千 歩

歩

お正月なのに戦争終わらない

起きてるか介護士覗きさつと消え

コンニチハアメチャンコウカンシマセンカ

優しさに慣れて文句が増えてくる

大阪市 寺 本 実

赤紙が来ぬだけ今をよしとする

断捨離と言いつつ家具は増えている

公園で鳩も雀も俺を待つ

外人の声がふたたび嵐山

俳優が大統領に脱皮する

大阪市 中 井 萌

いただいたおまけの時間丁寧に

日本海凶器の様な雪が降る

朝晩食べる事なら忘れない

視野が欠け耳鳴りしても負けへんで

天には根気で負けて口で勝つ

大阪市 原 田 すみ子

家計簿も句帳も筆が進まない

コロナ慣れ出掛ける足も迷わない

茜の空今日の失敗ドンマイと

氏神様家族それぞれ違う運

孫三人パワー全開家踊る

大阪市 平 賀 国 和

新春に大阪城へ散歩する

梅林に花がちらほら春近し

異国語も飛び交い出した大阪城

天守閣へ歩いて上るまだ元気

大阪城彬の句碑に挨拶す

大阪市 降 幡 弘 美

回数券買った直後に閉店す

一月だけきちんと書いてある手帳

くつ脱ぐとびつくりされる背の高さ

気づいたら声に出してたパワード

体力がないと入れぬサウナ風呂

大阪市 宮 崎 シマ子

今日寒い地蔵に着せるチャンチャンコ

内緒内緒ヘルパーの長が菓子くれた

窓あけても道行く人は皆知らぬ

できることならココで笑つて暮したい

ドジをして娘に叱られて帰れば涙ボロボロ

大阪市 山 本 加 お 里

ほどほどに爺寿の耳で聞こえてる

星空にあなたのそばを予約する

今にして無駄でなかつたまわり道

寝たきりにならないようにならぬ

老いの坂方向音痴ここはどこ

大阪市 横 山 里 子

老骨をすくと晒し冬木立

陽を吸つた布団に蜂も仮眠中

二足歩行まだまだできる姉卒寿

カニ鍋に久方ぶりの笑い声

衣裳替え通天閣も忙しい

堺市柿花和夫

堺市内藤憲彦

乳母車高価な犬が鎮座する

日中の対話パンダも待つてゐる

化粧品買う時妻は値切らない

贅沢な健康食だ麦御飯

ライバルのお世辞肴に苦い酒

堺市源田八千代

池田市太田省三

入れ替り親類が来る三ヶ日

戦争とコロナ終結初詣で

夫々の添え書き嬉し年賀状

四月には曾孫一人になる知らせ

願わくはこの枠掛けをお手判に

堺市齋藤さくら

河内長野市石田ひろ子

正月に見たい番組見当たらず

どっこいしょ元気な振りをしてるだけ

があちゃんの手抜きに慣れて共白髪

うしろから押されてやつと気が付いた

うつかりもちやつかりもして共白髪

サンタまでマスクしていたクリスマス

十字架を背負つて歩む人の道

コロナより人懐かしい初句会

幸せだなあ神のごほうび第六感

フェイスマークまだ爺ちゃんに通じない

友でありライバルである宝物

人生はとんとんで良いベース

日本の平和を祈る初詣

奥様に逆らつてゐる暇はない

今年こそ開幕ダッシュタイガース

河内長野市大島ともこ

久し振り非婚の子らと囲む鍋

妻は留守たい焼き二つ食べられる

おでん屋に練馬と太くお品書き

菜園は先ず農具から買い揃え

クラス会これが最後に安堵する

初詣で願いそれぞれ三世帯

百均の探検ちょっとわくわくと

笑い合う家族を糧にして生きる

朝刊の最後運勢欄を見る

コロナ禍の恐怖に馴れてくる怖さ

河内長野市大島ともこ

巡り巡るまづ梅を愛で桜待つ

飛び越えてみたらなあんて事無くて

返信メール待ちくたびれた有頂天

手心を加えた自分許せない

はてあれは夢か宙ぶらりんのまま

河内長野市 梶原弘光

河内長野市 村上直樹

いつまでも相合傘でいたいもの

人生の機微味わいつ春を待つ

果物野菜皮は捨てずに食べるべし

初雪にふれて命の温かさ

カラオケでハッスルした夜よく眠れ

糸余曲折輝きを増すダイヤ婚

ロスタイル無いから面白い野球

いざ米寿越えて卒寿へまつしへら

この齢になつて氣付いた裏鬼門

氣をつける君もとつくに粗大ゴミ

河内長野市

木見谷 孝代

堺市坂上淳司

三年経ち違う景色が見えてきた

グラジオラスの水栽培に初挑戦

プレミアになつた亡夫のウイスキー

球根にも慌て者とのんびり屋

大晦日子と酌み交わす酒旨し

賀状終いの賀状次々老い淋し

初詣記念写真の背が縮む

泣き虫もお客様で乗せた縄電車

年始め鏽つく脳を振り起こす

丸くなつたワイフの背に侘びている

河内長野市

中島一彌

河内長野市 森田旅人

何だかだあつたが丸くおさまつた

寿げる新年の来るありがたさ

指先が勝手に動く今年の字

振袖を着る子にパパは少し引き

百歳の母にちゃん付けされる喜寿

富士を見るただそれだけの一人旅

賑わいの時が止まつて空き家

初春の富士その懐で蘇生する

それぞれの家のルールにある駄

母の歳越えて未知への第一歩

河内長野市

藤塚克三

岸和田市 雪本珠子

麻酔醒め生きる尊さしみじみと

川柳で人生の師にめぐり会う

悔しさを夜の深さが抱きしめる

川柳は人生の良きパートナー

遺言状書いたら派手に遊びたい

川柳で心の財産増やして

のんびりと夢を追うのもいいもんだ

豊かさの中で寂しさ抱えてる

口煩い妻が無口になる鏡

吹田市 太田 昭

一直線に歩く男に影が無い

いつまでも括弧の中に居て孤独

自惚れて心の錆びに気が付かず

延命の電池必要ありません

返り血を浴びて戻ったブーメラン

高槻市

片山 かずお

ワクチン5回コロナの壁に對峙する

加齢ですと言われてホッとする齧

仕える身の器だったと今気づく

一つのものは二つに分ける夫婦愛

駿かつぎ今日も出出しは左足

高槻市

島田 千鶴子

福袋買いたい気持失せて老い

夫婦喧嘩もう過去形になりました

力仕事アンドロイドに任せたい

春の種蒔いてあなたの帰り待つ

昭和演歌遠い記憶を呼び起こそ

高槻市

初代 正彦

坪庭もそつと芽吹きのそこかしこ

吹つ切れで互いに熱い語り口

まつすぐな孫のことばにほつとする

爺ちゃんにも決断せまる削除キー

荒れる日も笑みを忘れずマイウェイ

長き冬楽しみ見つけ読書です

リハビリで戦う命ある限り

今年こそ嘘をかかない日記帳

いい人と言われお掃除しています

オシャレ着にかなり勇気のいる歳に

高槻市 松岡 篤

篤

ご愛敬大吉と凶同じ日に

バトンタッチすると息子はぐんと伸び

楽隠居時間に金が見合つたら

かけ放題妻には便利だろうけど

節酒する小正月まで続いてる

豊中市 池田 純子

純子

やがて来る春を兎と待つている

夜の病室いびき怪獣やつて来る

退院が決まり歩幅が広くなる

お茶断ちを忘れうつかりティータイム

皆が居てお雑煮食べてお正月

豊中市 上出 修

修

うさぎつくお餅を食べに月旅行

祭りの夜ついに見つけた赤い糸

買った株波に乗つたかいい予感

超音波腹の色まで写し出す

また出たゾ老人本で老い学ぶ

高槻市 富田 保子

豊中市 きとう こみつ

豊中市 水野 黒兎

日本の薬を背負う道修町

世界を混沌に追いやったのはブーチンだ
情け深い亡父だったと母が言う

愛情を浴びてまつかになるトマト

日本人の喪中ハガキの風物詩

衣替えの時期さえずらす温暖化

豊中市 藤井 則彦

富田林市 中村 恵

後悔は変身をするいいチャンス

スマホ持たぬ暮らしの何と好き勝手

思い切り笑つて楽になる余生

ストレスが溜まつたままの休肝日

明日よりも生きてる今日がベストの日

豊中市 松尾 美智代

富田林市 山野 寿之

エクササイズの効果きつちり汗の量

夜に支度をして朝を待つおみそ汁

先に行く友の足跡風が消す

いつものおせち今年も出来て祝酒

今年も庭に苔ふくらむ福寿草

豊中市 松田 蟻日路

寝屋川市 川本 信子

さつま芋焼き火で焼いた良き昭和

落ち葉焼き警察が飛んで来る令和

近隣に気を使いつつ鳴らす鐘

昨夜来のパジャマで旨し昼間酒

何につけ大変と言える平穏

青信号に早く歩けと叱咤され
ふる里に忘れたままの志
あれこれのぼくの宝は妻の邪魔
岬から夕日見るため一人旅

幸せが嘘でなかつたあの笑顔
明け放つ窓には今日の風の彩
分別が邪魔するボクの恋未満
傷だらけの翼自由になれたのに

五十年元は他人と割り切れず

富田林市 山野 寿之

菜園の手塩が光つているサラダ

支援旅財布の紐を締め忘れ

逆上がりトライ重ねる児のファイト

物価高特価ばかりを狙い撃ち

皮煮手間暇かけた妻の味

寝屋川市 川本 信子

衝動買い誘うマネキンのスカーフ

家具移動壁にレブリカシャガール画

床暖で朝晩腰のストレッチ

三食にパンチ効かせる柚子一個

まだ眠る桜並木で句を作る

寝屋川市 富山 ルイ子

おどろかされる五年になつた令和はや

ねやがわ句会最長老になつたかも

寒の入りこれから寒い寒い冬

ウクライナ暖房設備こわされる

お年玉にカシミヤ二枚ありがとう

寝屋川市 平松 かすみ

ひな祭り捨てて写真でなつかしみ

お道具のタンス一棹だけ残し

何を買うかな孫からのお年玉

ハルカイロ送りたいなあウクライナ

私の余生自分で決められず

寝屋川市 廣田 和織

職退いて愛想笑いが上手くなる

ミステリーツアーのような古いの道

胡散臭い話じつくりと煮込む

ポケットに劇薬として嘘ひとつ

靴箱の上に肩書き置いてある

羽曳野市 磯本 洋一

卯年なり良い話だけ耳ジャンボ

初デート雨降りなのに傘持たず

出合う人皆んな笑顔の傘寿今

妻に似た優しき娘四人居て

朝日見て平和日本涙する

羽曳野市 宇都宮 ちづる

賀状来ぬ友の安否を思う歳

巣籠もりが長くもたつく旅仕度

ハンドルを娘に奪われて旅をする

無意識のドヤ顔孫に指摘され

目耳脚美年齢を自覚する

羽曳野市 徳山 みつこ

救急車の中で安堵の息をつく

点滴がポツリポツリと命の零

配膳車の音に胃袋が踊る

血管の太さナースに褒められる

あのあたりわが家の屋根だ日なたぼこ

羽曳野市 藤原 大子

老化すすむ町に園児の声嬉し

涙まみれ汗まみれから湧く奮起

老化防止ペンを走らせ脳刺激

余生とて緩めすぎずに締めすぎず

出来ること喜ばなんて歳になり

羽曳野市 三好 専平

知らん顔閻魔が舌をもてあまし

知らん顔しているけれどほとけさま

知らん顔あなたの方が悪いんです

知らん顔してはおれないウクライナ

知らん顔私をにらみつけている

羽曳野市 吉 村 久仁雄

枚方市 藤 田 武 人

待ち人があの世に一人いる余裕

病気には抗い今日の花に酔う

飲んで寝て今日の不幸をすぐ忘れ

あと出しジャンケンしてはいつでも児に負ける

気の利いた言葉じゃないが好つきやねん

東大阪市 北 村 賢 子

藤井寺市 太 田 扶美代

合掌へ世界平和を一番に

鏡開き幸せな年明けるよう

ありがたいいつもと同じい目覚め

姉妹で句会臨めるありがたさ

穏やかな日射しへ鳩も群れ遊ぶ

東大阪市 佐々木 満 作

藤井寺市 鈴 木 いさお

日を分けて年始参りの子の家族

年々に簡素化になる節料理

川柳とパズルと脳トレの境地

三年も会わぬと顔も名も薄れ

動物の画像に癒やされる茶の間

枚方市 丹後屋 肇

箕面市 大 浦 初 音

プーチンの核発言に腰が引く

第一線銃を逆さに担ぐ兵

泥沼戦線ニッヂもサツチも動けない

クロコダイル口を開けない物価高

渋滞路血走つて いる里帰り

前向きにしつかり立てといふ家訓
無防備な私に指先が触れる
ライバルが既にいてます呱呱の声
定位置が決まっています初電車
天国と地獄一度は下見する

コーヒー飲む仕草懐かしお父ちゃん
一枚の写真を抱いてファナーレ
三行に足らぬ日記を書きつづけ
悪筆が直らないまま八十路なか

生きてます砂の月日を重ねつつ

気合いを入れないと今日が始まらぬ
幹事を辞めたいが後任がいない
甲斐性がない分家族には優しい
いい人を演じることはもう止そう
ゴール間際でいつも息切れしてしまふ

夢の中足がからんで進めない

一日中家にいたけど顔洗う

四角い紙あるといつでも鶴を折る

子育ても介護も同じ愛あれば

介護する方も成長お互い様

箕面市 酒井紀華

月曜日を待つ楽しみがあるポスト

今日の事今日で忘れて髪洗う

百歳の兄の別れを祝う家族葬

外反拇指足に叶つた靴を買う

寡黙な父電話の向こう咳払い

箕面市 出口セツ子

コロナ以来夫婦で温泉癒し旅

血圧の薬夫忘れたから不安

入浴から戻らぬ夫気にかかる

観光はせずにのんびりこもる宿

心配をよそに夫は露天風呂

箕面市 広島巴子

スタートは三福まいりありがたや

孫の声鶯のごと春を告げ

友年賀ラインの兎ピヨンと跳ね

ご近所の絆深まる防災日

本年も湿布貼り合いよろしくね

八尾市 寺川はじむ

新年のめでたさ萎むウクライナ

四季の装い着こなす富士の鮮やかさ

苦と樂が染みついてる作業服

激動の昭和を知らぬ子の軽さ

経済とコロナ舵取り風任せ

八尾市 村上ミツ子

定番のこたつにみかんないわが家

赤みその雑煮おもちは二つです

自分のことばで打ちたいホームラン

歩きはじめたらあるき続けねばならぬ

ガラス戸越しのお日さまに癒される

大阪府 米澤淑子

今をどう生きるか今を深呼吸

もの忘れ科のある病院のご案内

ふんだんにあつた時間もあと僅か

鉢植えにたつた一個のレモン成る

アリガトウ増えて感謝のことばかり

松江市 松本知恵子

卯年孫わたしで向かう夢がある

鯛焼きがのどぐろ焼に進化する

背伸び止め今はスローな女坂

あの事は岬の波に碎け散る

悪友がきつぱりと言うアドバイス

出雲市 伊藤玲峰

若人の箱根駅伝力もらう

くちやくちやの笑顔で弾む美肌の湯

子や孫の書き初め楽し筆の文字

婆ちゃんも仲間になつて色紙書く

日本人です筆を持つ手も楽しそう

岡山市 大石洋子

岡山県 藤澤照代

野良猫が艶よくかけるお正月
縄張りに平和がもどり静かです
野良猫と回覧板とまわる三組
お裾分けミカン半分枝にさす
落とし所見つけながらの一生です

岡山市 丹下凱夫

黎明の空元日を深く吸う
初日の出金波銀波に浮く日本
一年の出発点の初詣で
転た寝の怖さ知らせるウサギ年
古里の訛に浸る初電話

三原市 笹重耕三

空元気だけでは越せぬ八十の坂
年暮れてスッテンテンの旅鳥
渋い茶を時に飲みたいこともある
靴底に砂丘の砂を持ち帰る
酒のアテないか冷蔵庫をのぞく

岡山市 前田恵美子

また歳を取ったと幸せな寝言
三密を死語にゴーゴー旅プラン
志望校へ鎮守の社をひと回り
踊り場が悶える団塊のカルテ
実印を翳して首を出す忌日

岩国市 上村夢香

良い年が来るよう折り豆を煮る
大掃除風邪を引くので「ハイ終り」
お願いは一つだけだと神が言う
生きるもの命は大事一つだけ
卯の年も私は亀でコツコツと

笠岡市 藤井智史

防府市 坂本加代

海と空バックに映える朱の鳥居
実朝の和歌口づさむこれ日課
鎌倉に学び直しをさせられて
久々に会うワンちゃんに吠えられる
朝シャンは怠け心に活くれる

へっぽこの酔い方寝めでくれますか
不凍液どうぞとギヤグを言うボクへ
妻という芋焼酎と三年目

幸せの弊害に胃もたれの愛
来年のお祓いにするジャンボくじ

朗読のソフトな声に寝落ちする
デジタルに弱い老人子が頼り
顔見ても名前が出ないにこやかに
階段よりスロープが好き車椅子
健康な今を大事に生きている

鳥取市 池澤大鯰

鳥取市 倉益一瑤

コンビニに合わせ生活リズムつけ

助かるわあコンビニで間に合わせ

上司が走るなんか大事あつたらしい

愚図だけどゆつくりゆくり仕事する

コインなど掘んでみても高が知れ

鳥取市 奥田由美

願望から文字も縦長スリム体

福引きで農家も当たるお米券

二世帯で○と却下の子と同居

交番を見張る勤務の娘見守る

主が逝きベンツが消えた隣家車庫

鳥取市 岸本宏章

感謝する言葉が増える老いの坂

洗いざらい曝けて水いお付合い

忙しい人には便利セルフレジ

いつまでの我慢か値上げ止まらない

昭和史に学んでほしい軍事論

鳥取市 岸本孝子

家の味だからおせちは手作りで

ゆつくりと噛みしめながら雑煮餅

ありがとう両手で受けるお年玉

一日に一部屋ずつの大掃除

美味くなる前になくなる吊し柿

物価高あれこれ削り夢がない

八人目の敵が白紙でやって来る

古い詩集黄ばんだ恋の跡がある

相談をされて共犯者になつた

灯台は海の悲劇を語らない

鳥取市 田賀八千代

豆撒けば鬼も笑つてやつて来た

プライドのプラの辺りが揺れている

ありがとうの言葉に溶けていく砂糖

この身体リフォームすればまだ飛べる

指触れただけでまさかの請求書

鳥取市 棚田大

寒波またたるむ心を引きしめる

子どもたち大人もテストせよと言う

脳きたえそれ解く人の声弱い

能力を脳力と書き笑われた

みえみえにこだわり過ぎてやつれはて

鳥取市 谷口回春子

不況風あつという間にわが家にも

平和な世忘れた頃に潰される

浅知恵が易きに流れ水浸し

同じこと何度もやつて嵐呼ぶ

嫌になるさつきしたことまたやつた

鳥取市 永 原 昌 鼓

鳥取市 吉 田 孔 美 子

共通の話題求めて旅をする

君はもういらない泣いても叫んでも

今日もまた一人暮らしの羽根伸ばす

一人です拡げた羽根がたためない

マイナカード持つて一人前ですか

鳥取市 中 村 金 祥

勤労と趣味で来ました米寿なり

不死身だと念う健康優良児
そうしたのは人間 象に牙なし
救命だ注釈後でいいですか
傘寿の子信じるかいと手が伸びる

倉吉市 大 羽 雄 大

生きている証拠薬が増えていて
自分への褒美が欲しい縁の下
貧乏神と語り明かした眠れぬ夜
旧友に遭つて老妻若返り
繰り返す津波の如きオミクロン

鳥取市 前 田 楓 花

本年もどっぷりつかる五七五

自分らしく生きて波風は立てぬ

馬鹿の付く正直者で生きている

有難いオペの経験ありません

階段のとんとん下りが困難に

境港市 藤 原 久 直

神様は何も言わずによく見てる
「異常なし」何にも勝るいい言葉
パトカーがハシビロコウのように張る
ウサギもサメもきっと話した国訛り
娘の向こうに私自身を見る

鳥取市 山 下 凱 柳

正月に来てくれたのはコロナだけ

隣もとなりもトナリもみな独居

年男飲んでさつそく跳ねてている

初夢は二度のトイレに邪魔された
紅白を見てから耳鳴りがひどい

飽くことなくミサイル飛ばす北の国
政治家の同じフレーズ聞き飽きた
物価上がり更に追い打ち増税か
四年目になると慣れっこなるコロナ
朝目覚めパツと浮かんで指を折る

米子市 池 田 美 穂

雪の無い正月神の贈り物

米子市 伊 塚 美枝子

米子市 中 原 章 子

一步出ぬエスカレーター避けている

生きのびて健康こそが宝もの

試されていると思つて乗り越える

自信こそ挑戦維持をする力

物価高怒りじわじわ染みてくる

米子市 野 川 宣 子

咳一つして身を縮め辺り見る

米子市 後 藤 宏 之

風呂敷は変幻自在器用です

堪忍袋うまく使つてこらえたな

喫茶店音楽つきのモーニング

疑つたままハイの返事をしてしまつ

どこでもドア開けてあの星ピクニック

米子市 後 藤 宏 之

世の流れ風刺漫画に学んでる

汚染土を積む風景が変わらない

隠しても数値がばらす不摂生

電子辞書に慣れて重たい広辞苑

あかぎれにとても優しい無洗米

米子市 後 藤 宏 之

お隣の芝生ますます青くなる

反論はますなるほどと言つてから

がつかりを重ねてやつと生きてきた

喜寿過ぎてしつかり火種抱いている

命日になにはともあれ亡夫に酒

米子市 妹 能 令 位 子

真冬日の日光ガラス戸でサウナ

スプラウト窓辺に置かれ落ち着かず

「よろこんで」までもいただき御快諾

湯たんぽにしている今宵きたLINE

優しさに負け小猫の目にも負けて

鳥取県 齋 尾 くにこ

鳥取県 本庄 ひろし

松山市 古手川 光

針千本飲まねばならぬ空手形
いわし食べ頭拌むも効果なし
願わくば程良く降つて今日の雪
祭り役やつと決まつた再任で
まあだよコロナは消えぬ隠れん坊

鳥取県 山下節子

松山市 宮尾みのり

災害に電気の力思い知る
急ぎます相談などはしておれん
最後には相談役というポスト
お茶持つて登校をしたコロナの世
プチ整形こつそりやつて有頂天

松山市 大内せつ子

松山市 柳田かおる

前向きに生きたい訳の有る八十路
相身互い愚痴も自慢も聞くゆとり
夕食は普通でよいというおせち
脳回路確かめるよう辞書を繰る
東京も四国も朝日見るライン

のほほんを少しつださいカタツムリ
心かくして炭酸のシュワーの中に
おもちや箱我慢の色があふれそう
精一杯ませてフリカケにしました
呑気だねころころとよく転ぶ

松山市 栗田忠士

今治市 永井松柏

言葉にはならぬ言葉が胸を衝く
モノクロにかすむ昭和史の残像
訳あってここは黙つて靴を履く
大物と言うか太つ腹と言うか
ぎゅつとハグそれだけでいいそれでいい

変わり身の早い策士はよく転ぶ
蝱梅が咲いてそこまで春が来た
青い目の遍路始発のバスに乗る
ボクに似てせつかち河津桜咲く
後期高齢と呼ばれ激しく同意する

西予市 黒田茂代

熊本市 杉野羅天

努力では治らなかつた股関節

入院の前になすべきこと済ます

隙間風の寒さがひとり身に沁みる

シェレッダーにかけてしまいたいコロナ

一日中自分の時間なのに足りぬ

阿南市 小畠定弘

この次に入るであろう墓磨く

老春がときどきくれる生きる欲

ママさんの嗄れた声が聞きたくて

ほほほほで生きる私の自由吟

喜寿ですが恋に迷つてばかりいる

東かがわ市

川崎ひかり

札幌市 小澤淳

淳

何時からかスマホに頼つていい生活
どうしよういつもの場所にないメガネ
風に誘われ探す生命の着地点
接待の甘酒身体に沁みてくる
輝かす生命仕度の年女

唐津市 坂本蜂朗

塩竈市 木田比呂朗

お茶を出す妻の手皺が深くなる

ぎくしゃくとしながら老いを囁み締める

忖度をして善人の顔をする

敗戦後の飢え耐え抜いて来た自信

地元産野菜を選ぶマーケット

初冠雪山の出湯の清清し

寒中一輪われ占うか初椿

口すぼむ癖は機嫌の良い証拠

生きるとは進化すること喜寿の恋

グローバル化戦争なんぞしてられぬ

北九州市

小松紀子

素のままの自分が好きだ老いの日よ

子や友が安全基地でラッキーで

年だから今年は壁を作らない

手助けは出来ぬ出来るは思いやり

全身で喜ぶ愛犬とたわむれる

札幌市 小澤淳

淳

会社での上司は友になれぬもの
街に出て行く当てもなく古本屋
平和ボケ日本は軽く見られてる
碁敵に生きる力を貢つてる
いつも前向き言われその気になつてゐる

文科省と掛け合う三月の絵馬
好機にはヒット出にくくなる八十路
カラオケのリストにはない浪花節
コロナ怖がるなど縄のれんさそい
危機管理無理に愛機を変えさせる

— 33 —

男鹿市 伊 藤 のぶよし

(前月分) 熊本市 岩 切 康 子

よくもまあ悩み尽きない五尺五寸
しみじみとひと日ひと日の有り難さ
鱗不漁去年は去年陽が昇る
運試し人の煽てに乗つてみる
日本海風車の景色みて歩く

黒石市 北 山 まみどり

通販5つ手間暇かけて樂をする
お野菜のお裾分けする二、三軒
メモばかり増えて整理の時が無い
上窓を閉める背伸びで腰が泣く
石段の数だけ欲が減つて来る

たたかいを挑んでしまう雪だるま
勝ち負けじやないけど雪とにらめっこ

思いやるゆとりはどこへいったのか
繰り返すごめんなさいと悪しからず

地吹雪に試されている集中力

弘前市 稲 見 則 彦

触れあつて人間は日常へと戻る
奇跡から奇跡アラボニッポン
奇跡つてあるんだ私諦めない
いつも笑顔強い人なんだと思う
生きていて楽しい人と今日もいる

炊飯器替えましたけど馴染まない
降車ボタン押さぬわたしが悪いのと

交際費教養費から削る妻

雪女冬将軍とタッグ組む

雪合戦危ないからと禁止され

弘前市 今 愁 女

士族の家に生まれた母が時に凜とする
鉛筆書きの母のはがきを手文庫に
百歳近くなり母を求めて泣く私
漁の話と海のことしか言わぬ父
子沢山母はおやつを食べなんだ

(前月分) 尼崎市 山 田 厚 江

今日一日八十点の出来でした
三浪してやつと入れた医学部へ
婆さんでも色っぽい声まだ出るぞ
楽しみはあんたと食べる三度飯

温泉に行つたつもりで長湯する

コロナ禍に仲を裂かれてなるものか
吹雪く日は真夏の暑さも恋しかり
冬スポーツ楽しむほどの事もなく
雪片付けが最強の運動なり
春よ来い来い野も山も海の果てまで

波稜草の花

(3)

野沢省悟

「川柳触光舎」主宰

そんな大根の切れはしをエイツヤツと鍋に入れる。美的センスよりも自尊心を満足させる一瞬。

どれほどの背中を見失つたのか

永見心咲

若い頃は全く気づかなかつた背中を、ある歳以上になると思い出したりする。中に

は思い出したくない背中、憎しみを持った

背中、そして縁の薄かつた背中。最近は昨

日までみていた背中が急に消えたりする。

生きてゆくことは、ひとつひとつ背中を見

失つてゆくことかも。実感あふれる句。

会いたい逢いたい私がわたしでいるうちに

安土理恵

この句も実感深い句。僕は若くから川柳をはじめたため、たくさんの先輩と出会い育まれた。還暦を過ぎた頃から、その先輩方が次々と逝つた。たいへん元気だと思つ

ていた方も急に逝つたりした。もつと会つておけばと後悔している。そしてこの句の

ように、相手ばかりでなく自身もあやふやに。「わたし」のひらがながせつない。

いいですよ酒の肴になつてやる

よそ様を肴にして飲む酒はなかなかの味

大根を使い切るのは自尊心

上田ひとみ

自尊心、プライド。誰にでもあって、どうかすると取り扱いがめんどうなもの。知らず知らず他人に迷惑をかけていたりする。ですが、作者のような自尊心なら愛らしく可愛らしい。あるんですよネエ、大根の切れはしなんか、何となく余つてしまつ。

鍵持つてワンマンショードの幕が開く

田賀八千代

北国ではまだまだ大地が雪で覆われているが、南の地方では雪もなく、どうかすると雑草が早々と芽ぶいていることだろう。わずかばかりの菜園があり、去年収穫したままの土がお日様の光を浴びている。その土を眺めると腰の辺りから力が湧いてくる。誰もみていないが、お日様がみててくれる。ワンマンショードのはじまりはじまり。

である。だがそのよそ様の立場に立つと、ひどく惨めに思えてしまう。だが今夜は、肴になつてやろうじゃないか。喋つている奴の開いた口をじっくりと見てやろう。その口の奥のはらわたを肴にゆつくりと酒を酌もう。

クレムリンに今欲しいのはブルータス

早川遡行

ブーチンが今、最も恐れているのは、ゼレンスキイでもE.U.やアメリカでもなく、ブーチンの身辺に居る顔のみえない一人の男ではないだろうか。あの秦の始皇帝ですか。暗殺を恐れて居場所を誰にも教えなかつたと何かの本で読んだ。もしかすると我々は、歴史の一大ドラマを今、観ているのかかもしれない。

間違つて猫に生まれたような猫

柏原夕胡

ウチの猫は漬物を食べる。いやウチのは秋刀魚を跨いでしまう。ナンテ良く聞きまですが、それでいて猫可愛がりする猫。そんな猫を眺めて、こんな句ができた。デモネその猫だつて、飼い主が間違つて人間に生まれてきた、と思つてゐるのでは。

誹風柳多留——三篇研究 31

清賛。

247 泣て居るむすめ土蔵から目つけ出シ

山田 昭夫・小栗清吾
細井龍夫・伊吹和男
高野範雄

清 博美

245 女房ハすつぼん女郎お月さま

藤原秀衡を頼つて下向する。この時手引きしたのが、金丸吉次である。

山田 俚諺「月とスッポン」を利用させたそのままの句。

安二松2

内の夜具とハすつぼんと御月さま

源平時代、東北地方の黄金と京の物品とを交易して長者になつたといわれる伝説的な人物。京都鞍馬で、牛若丸に会い、奥州の藤原秀衡のもとまで送り届け、源氏興隆の有力な援助者となつた。

(日国)。

高野 賛。川柳よ！そこまで言うか！薄のろで阿呆で頓馬で助平のくせに。

清賛。

牛若ハはらつふくれとつれに成

山田 源義経は幼少の牛若時代、自分の身の上を聞かされ、平家打倒を志し、修行中の鞍馬寺から脱出して、奥州平泉で威勢を振るう

な熊坂長範が吉次の荷物を奪おうとして襲つたが、同道の牛若丸によつて手下十三人が斬られ、長範も退治られたと言われる。

御そしははらつふくれを供につれ

明二義1

山田 文字通りの句。土蔵で目つけ出されたというのだから、娘自身が隠れたのだろう。しかし何故娘が土蔵の中で泣いていたのだろうか。色々考えられるが、句の措辞だけでは判定出来ないから、各自の想像にまかせればよいのかも知れない。

しかられて娘ハ土蔵へ泣きに立 明二松4

高野 賛。

泣て居る娘土蔵からめつけ出し 安四義4

の方がもう少し状況がわかる。

清賛。

248 茶のみ友だちて祐信くろうする

山田 祐信は曾我太郎祐信。河津三郎祐泰の未亡人と「茶飲み友達」つまり「②年老いて迎えた妻」(日国)のつもりで再婚した。しかし彼女には祐泰の忘れ形見の十郎祐成、五郎時致という二人の連れ子が居た。その養育もだろうが、後にこの兄弟が、実父の仇敵工藤祐経の仇討ちをしでかしたので、余計な

苦労をする羽目になつたというのだろう。

祐信もやうしこの方さゝほうさ 明三天2
清賛。

待わびて横合の出る旅の留守 安六55会
女郎買イ横合イが出ておつふせる 一二12

249 よこ合が出て湯治からはだか也

山田 横合いが出るは「①かたわらのものが差し出る。当事者以外の人が進み出る。直接かかわりのない者がちょっとかいを出す」(日国)こと。それが出て「湯治から裸なり」という次第になつたというのだが、具体的な

状況は判然としない。原句の「安四義5」(前句 そろひ社すれ)の輪講「川柳評万句合研究1」では、専ら「博打」説が有力で、山路先生などは「そういう一種の博打があつたかと思うのです」とまで仰つておられる。

しかし、「湯治から」の「から」も疑問が投げかけられて、結論としては「(湯治)からはよこ合と一緒に研究願いましょ」という山路先生の言葉で締め括られている。仮に博打とすると、湯治に行つたら、博打に誘われ、結局丸裸になり、それ以来博打にはまり、財産も丸裸になつてしまつたというような事にならうか。湯治場では当然丸裸になるから、それを両方に掛けているのだろう。しかし確信が持てない。ご教示賜りたい。

小栗 賛。句意はそういうことと思う。「横合が出て」は、「日国」に「②余病を併発する」とあり、湯治に行つたところ「バクチ好き」の余病を併発して「丸裸」になつたというのではなかろうか。

細井 賛。なるほど、「余病併発」の方がわかりやすい。
高野 「角川古語大辞典」に、「医者の誤診から、病症が思わぬ展開を見ること」とあり、主題句が採られている。小栗説か。

清賛。
高野 「角川古語大辞典」に、「医者の誤診から、病症が思わぬ展開を見ること」とあり、主題句が採られている。小栗説か。

250 ふきがらにつばきの出ぬもなん義也

山路 煙草の吸い殻を、唾で消そうとしたのに、「唾の出ぬも難儀なり」。しかし実際問題として、唾で吸い殻を消すなどという事があるだろうか。あるいは作った句か。
ふき壳を飛車でおさへる玄関番 一二〇三〇

高野 賛。野掛でしようか。
清賛。余り感心したことではないが、唾で消したことありますよ。

山田 江戸の疱瘡は「江戸疱瘡に同じ」で、「梅毒。瘡」(「日国」)のことで、それには上州草津温泉で湯治するのがよいとされたいた。箒湯は「江戸時代、小児の疱瘡が治つたときに浴びせる、酒をませた湯」(「日国」)で、

箒湯を草津の湯に掛けているところが味噌。はつかしささゝゆをあびに草づ迄 天五札4

252 われ一ツおれ一ツぬぐ大三十日

山路 雨譚註「質」。大晦日。亭主が女房に、われは二つ俺は一つ「脱ぐ」と言つてゐる。暮れの支払いのため、互いの着物を出して、入質しようというのだろう。

一方は娘のふせぐおふみそか

清賛。されど「われ一ツおれ一ツ」これなんだろう。文句取のような気がするのだが。

露丸明元大1

天五札4

251 江戸のほうそうに草津のさゝ湯也

清賛。

英語 de Senryu¹³⁵

麻生葭乃 『福壽草』 (1955)

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

子が出来て床の飾となつた琴

*after baby is born
koto decorated
at the alcove*

若く言えば帽子を脱いで見せるなり

*saying his youth
he takes off his hat
and shows real head*

baby is born 子供が生まれる *decorated* 飾られて *at the alcove* 床の間に *say* 言う
his youth 彼の若さ *take off* 脱ぐ *hat* 帽子 *show* 見せる *real* 現実の *head* 頭

～リバーウィローのため息～⑦5 日本の暮らしに混じるヒンドゥー語と俳句

もう 60 年ほど前のことですが、「日本語の「奈落」はインドのサンスクリット語に由来する梵語の（naraka）である」と、外国語大学の印度語科に入学した友人が言ったことを覚えています。「奈落」は地獄、物事のどん底、また劇場で花道の下や舞台の床下の地下室としての認識しかなかった当時の私は、インドの言葉が仏教を通して日本語に置き換えられたことに強い印象を持ちました。私の暮らす地方都市でも、最近いろんな国の食べ物屋さんが増えてきました。中国や韓国を筆頭にハンガリー、ポーランド、インド、ロシア料理のお店があります。ある時、カレー料理を専門にしたインド料理のお店を目にしました。看板にカタカナで「ツルシ」とあります。そんなおり、昨年 11 月号に作品を紹介したインドの俳句友達 (Geethanjali Rajan) から以下のような新年の作品が送られてきました。彼女の日本語訳も写真も付いていました。

old garden…/tulsi seed pods collect/the first sunrise (ツルシの実 初日を集む古庭かな)

早速、彼女に「ツルシ」のことを尋ねると、「インドでは、ツルシは聖なる植物のバジルです。ツルシには神話的な意味があります。またヒンドゥー教の祈りの儀式ブジャでも使われます。勿論、私は食べ物に使われるのも好みです。」と、返事が来ました。写真には日本の紫蘇の実に似たツルシが日を浴びている姿が映っています。まさに言葉は文化であると、強く思ったことでした。

川柳句集『肉 眼』

橋 高 薫 風

菊の精を見き 童貞を見き 君に

君の骨 栗拾うごと拾われよ

骸と同じ形でこの夜寝る

淀川の水滔々とお元日

冬夜の凍て 愛恋の書も真理の書も

雪見えて特急列車熱帯びる

牡丹雪 ゆっくり俺が昇天す

白 黒 記

読みつけば 冬の未明の白湯の味

悼 工藤安亭氏

君あらず 浅虫の日は見えながら

桂 浜

海の風 竜馬の鬚へ ふところへ

足 摺 岬

紅椿墜とすや怒濤はばたけり

讃岐富士 一番星を簪に

盲人の手をひく先を道おしえ
夕桜 盲人鳩の餌をこぼす

夕桜 琴朱の布に包まれる

吐く息も吸う息もなし 夕桜

恋の句を刻まれし碑の濃陽炎
旅先の動物園のフラミンゴ

潮干狩 竿突つ立てて帽子掛

猫柳 亡き人ばかり思わるる
鳥取砂丘 四句

四つ足を連れた足跡 大砂丘

子と来れば砂丘隅まで砂の山

三人の子と玄奘のごと行く砂丘

風紋に 電気に似たるもの走る

夕桜 恋の正体判らねど

六帖の淨土となつて眠りこけ

逢いに行く心の中の首飾り

額の裸婦と同じポーズで夢を見て いる

自選集

小島蘭幸

膝掛けをくれし人など想う春
名刺刷る私を叱咤するために
駄菓子いろいろ孫が土日に来てくれぬ
免許更新すると七十五になつていた
妻も私も名前通りに生きて来た

藤村亜成

瘦せた脳耕す育てたい言葉
わがままの地図を拡げる今年こそ
幸運の女神よ僕に不倫せよ
老木の枝に花咲く実をつける
どの国も差別なくやつてくるコロナ

松本文子

辿りつく坂でゆつくり息を吸う
アンビリーバボー家庭内別居私にも
小春日にゆつくり廻る風車
飾りなど要らぬ必死に生きていく
溜息を受けとり月が泣いている

ITの言うことは聞く現代つ子
上司みなITとなるそんな世が
生煮えの夫へ妻の落し蓋
坪庭も眠りに入る雪蒲団
幸不幸バランス良くて生きてている

村上玄也

五酌ほどの酒で動悸が高くなる
覚束ない足もと散歩さえ不自由
寒いのはやせ細つた身にはきつい
何するにしても先立つ面倒さ
毎食後頬張るように飲む薬

森山盛桜

くすぐつてみろ鬼臉笑うかも
沸点は遙か頭上に霞むのみ
春というのに裏窓に向いたまま
天地のただ一点に座するのみ
鉄塔が一本杉を追いやつた

八木千代

しずしずと揺り足で来る橋懸り
地謡の面々声を和して待つ
綿々と前世を語る前のシテ
烈々と業苦を曝す後のシテ
幻は去りすべて去り一切 空

三浦強一

山本希久子

雲流れさだめのままに生き米寿
もう少し生きられそうだ空の青
歳を重ねて知る友情のきらり
欲捨てた身に二ヶ月の寒氣沁む
戦の空しさ身にしみ知る世代

居谷真理子

八十のパジャマが竿で吸う冬日
ぱつと既読あの不器用な指先で
しんと立つ若木しいんと立つ古木
天帝の物思うとき牡丹雪
駄句凡句血を吐くほどの咳もせず

川上大輪

何や何やと叢雲が騒ぎだす
今が華ときどき愚痴もボツと咲く
兵隊募集玩具でもいいですか
私の背中を突く後ろ指
憎まれる程長生きをしてみたい

北野哲男

モシモシヘリバーシブルな妻の声
百均というオアシスを徘徊し
蜂蜜の御礼とリング届けられ
わざわざに行つてもついでと言う見舞い
新聞は広告削れば何頁

木本朱夏

天網にいつか追われる侵略者
大切なことは扉を閉じてから
海月にも蝶にもなれず繭籠り
缶蹴りの缶は何処まで行つたのか
春までに探しておこう花の種

新家完司

ポストから始まるこころ躍ること
冬の文字その点々は雪なのか
薬屋と医者が儲かる高齢化
春風は南の島で昼寝中
「春よ来い」歌つて春を待つている

高瀬霜石

信じない信じないけど恐山
背番号17 東北の誇り
福井県好きです恐竜ファンです
どつちがどつち鳥取県と島根県
大切な人に会えるか恐山

津守柳伸

ホップステップ兎は跳ねる銀世界
高齢の独り住いに芯がある
フランスパンかじり少女期に戻る
旅友の元気互いにルンルンルン
雪催い明るいニュース物色中

西出楓樂

「川雜」語錄 (15)

歩みつゝ (その一)

水谷鮎美

サスティナブルな暮らしづらじや駄目だらう
老い孤独子孫曾孫は居るけれど
言い勝つたとの心を持て余す
ういろううりのセリフなめらか新之助
何もかも値上げ貧乏神笑う

仁部四郎

念の為ですと手帖にフルネーム
頭文字だけでは無効領収書

悪玉であるかもしけぬ頭文字
頭文字だけで判るが判もある

熱があるそまさ墨磨り署名した

平田実男

荷が重い役が卒寿の生きる糧
齡だけがなんとか父を越えました

尻尾振るとこを見られた今日のウツ

姥捨ての山がだんだん近くなる
医療費の二割が医者を遠くする

福士慕情

生老病死避けて通れぬ道がある
ご先祖が居たから今の僕がいる

訃報欄たしかあの人だと思う
七人の敵があの世で待っている

老いの坂先のことより今のこと

去る日の昼すぎ阪神梅田終点で路郎先生を見つけました。見ると先生のつい眼とはなのところにいちばく店が出てゐます。先生はなつかしそうにそれを見てゐられました。私の頭のなかでは先生は亡くなられたロンドンさんの事を想ひ出されてゐられるらしいのです。先生の眼にはいちばくのどれもこれもがロンドンの顔や動作や声や寝顔に見えてゐたことでせう。

裏へこいそらいちばくをとつてやる
お父さんは未覚束なくも生きてゐる

といふ先生の句を思ひ浮べました。もう二三歩で先生に言葉をかけられるとここまで近づくと先生はこちらをむかれてにつこりとされました。私のこゝろには涙がぼたりと落ちました。

よいはしご天までとゞくよいはしご

ロンドン

といふ句が九つで亡くなつたロンちゃんの辞世句になつてしまつたのも悲しいことです。

句集の森



『垂井葵水遺句集』

垂井 葵水

(昭和50年11月1日発行、川柳わかやま吟社)

温故知新

田中正坊川柳句文集『ベンシル』から

充電が放電となるコップ酒

末法の世を斬るペンを研いでいる

貧しきは恥にはあらず紙風船

よく冷えた釣りが出てきた券売機

スタートは一番だつたと聞いている

戦いは勝たねばならぬ寒椿

桃の花 孫が十五になりました

すっぽんほんべストセラーになる平和

知りすぎた男が消えた永田町

老いらくの恋 一休も良寛も

国禁の書を読みし日よ多喜二の忌

石をもて我也追われき啄木忌

絵草紙の恋みな悲し西鶴忌

朝起きると無くなつていた僕の国

過去形で幸せ語る友と居る

再縁の絆が集う春の宴

枯鳥に石仏がんじがらめなり
ところ天あります 空っぽの燕の巣
柳絮散る散つては鯉を驚かす
底抜けに晴れてる連休明けの空

椿落つ不貞寝の犬の耳動く

少年の螢少女の掌に移る

軽い音して矢車は星の中

潮の香に歩板のきしむ音のどか

貨車去つてからの陽炎位置をかえ

かまきりの鎌ぶりあげたまま掃かれ

大広間浴衣の首が違うだけ

鈴虫に死ぬべき覺悟うかがえず

木本朱夏選

久澄久

大阪市 岡田恵子

絵本からボロンと落ちた紙の月
万葉の森古き歌人の噂など

プラックホールの中で出口を探している

尼崎市 八木幸彦

この齢で他界無念の父想う
ライバルにアキレス腱が一つある

夢を追う男に妻のカーディガン

連打するピアノを誰も止められぬ

調律師忘れた頃にやつて来る

変声期前に少年走り出す

神戸市 城戸誓子

忘れるを贈られ母は風いでいる
母の日々二十時間は眠り姫

眠る母お湯で顔拭く吾子のように

母は問う「ほんまにセイコ」「セイコやで」

くしゃくしゃの母の笑顔にくしゃくしゃに

遠い日の母の服着てモガになる

折れ線のグラフで示す幸福度
アマゾンで買った掘り出し物の恋

五線譜のおたまじやくしのフラダンス
縋れ糸ほどけぬままに夜が明ける

Jアラート鳴つてあたふた老い仕度
第一歩踏み出す覚悟武者震い

尾道市 小川道子

生きている事が不思議な昨日今日

心身に傷み今を生きる証

毎日が不思議な景色見せつける

新しい朝だ今日のうち今のが

戦争コロナ世のさまざまを見る悲劇

戦争の彼方に何が見えますか

風いだ海から早春の鼓笛隊

ロボットが迎えてくれる仮想都市

オブジェの街で赤い帽子が弾みだす

山口市 中前幸子

尾道市 村上和子

予定さえ言葉一つで見失う

若者に負けてはいない老婆心

夫婦して天体ショリーに見蕩れた夜

府中市 岸田 武

戦地でも平和を祈る初日の出
初夢はおさなの頃の兎飛び
兎飛びできぬが喜寿の夢跳ねる
兎追いしかの山におさなの恋
二兎は無理川柳一兎追い続け
紙と鉛筆で左脳の活性化

兎飛びできぬが喜寿の夢跳ねる
兎追いしかの山におさなの恋
二兎は無理川柳一兎追い続け
紙と鉛筆で左脳の活性化

神戸市 みざわ はな

五欲捨て風に委ねた身の軽さ

ドロップは夜空の星になりました

オバチャンの飴も世につれ様変わり

木枯しが泣き三味線を連れて来た

五欲捨て風に委ねた身の軽さ

ドロップは夜空の星になりました

オバチャンの飴も世につれ様変わり

木枯しが泣き三味線を連れて来た

神戸市 酒井

宏

河豚提灯寄つて行けよと目が誘う

妻は留守一本つける夜の炬燵

家計簿の余白が愚痴で埋まりそう

絹糸になれない髪を触る癖

わたしから離れていた紋白蝶

導火線です尻尾ではありません

偕老同穴笑つて妻は首を振る

日脚伸ぶ影と一緒に散歩する

宮崎県 恵利菊江

岐阜県 喜多村正儀

押した背の薄さ戸惑う風の情

推敲のベンが探つて居る深み

本気度を問う角番の土俵際

格の差は見せぬ小兵の四つ相撲

手を焼いた子が来て座る母の椅子

日溜まりのベンチのようなお人柄

峠越え背中を押した空つ風
頬杖に少女の時間舞い戻る
吹き抜ける風があしたを掴んでる

佐賀県 真島久美子

神戸市 米田 利恵子

出前館に電話した日の寒い部屋
餅ですます今日もコロナのせいにする
三ヶ日ゴミ収集のありがたさ

一人欠けどつと崩れた同期会
初夢の後押しをする大吉も

書き初めの文字に迷った飛ぶと跳ぶ

大阪市 森 廣子

一縷の望み遙か彼女の風便り
輪の外は事情なんかは知りません
もうすでに濱が溜まった瓶の底

最悪の関係なのに良く出会う
ちよつと休憩熱い葛湯を飲みましょう

大阪市 吉積栄次

雀と私 現実を生きている

辛い時明るい色のシャツを着る

故郷の海の匂いが背中押す
読み過ぎた空気の中の孤独感

辛い時頼つて来ない意地つ張り
負い目から何時も職歴語らない

漱石が意地を張るなど肩叩く

池田市 倉本一弥

ガタンゴトン電車ゆりかごよく寝れる
見合いじやないが細々続く老い二人

母さんは泣けばいつでも「大丈夫」

答がなくていけないだろか 生きるのに
試着室鏡の僕は背が高い

値上げ値上げ笑うしかない底抜けに

頬杖が支えて過ぎる夜の静寂
窓越しに今夜も月にございさつ

明けぬ夜はなかつた今朝も陽が昇る
眠りからシフトエンジをする夜明け

春までは心も寒くならぬよう
待ち合わせ口紅少し引き直す

大阪市 森 廣子

取り返しつかない嘘を抱いて逝く
血の赤さ確かめに行く献血車

王道と言われ迷路に迷い込む

ルーティーン増えて飛べずに日が暮れる

花マルをたくさんくれるいい先生

わしも族振り切る翼妻は持ち

春が来た面白いの娘の薬指

太鼓判捺され今夜の酒二合

加速するときの流れにひるむ足

雜踏にふと立ち止まる孤独感
バラよりも何故かいといカスミ草

忘れたわビビビと走るあの刺激

河内長野市 坂野澄子

柏原市 神崎江
交野市 山野双葉

— 46 —

松江市 中 筋 弘 充

B29に竹槍向けた昭和の子

校庭で芋を育てた昭和の子

食うために兔飼ってた昭和の子

先生と鬼ごっこした昭和の子

学校から帰りたくない昭和の子

お下りを喜んで着た昭和の子

安来市 原 德 利

酒らしい酒は地酒の二級品

乱取りの中で作戦考える

淑女等の前は尻尾を立てておく

泥鰌のから揚げ熱いうちにどうぞ

心臓に刺さつたままの赤いバラ

盗み酒ここから先は毒になる

伊丹市 延寿庵 野 霽

対峙して真心を解く座禅堂

シナリオにないコロナの海を泳ぎ

地球儀の氷河が解ける温暖化

前向きに歩けば運もついて来る

穏やかな弥勒の笑みに気が和み

裸絵の兎が跳ねて春を呼び

尼崎市 宗 和 夫

フライングは無しにしてくれ反撃に

挑発に乗れば戦の口火切る

武力より外交力がものをいう

傘持たず核廃絶の旗手となれ
知らぬ間に戦費となるや防衛費
軍拡と気づかぬままに戦前へ

広島市 松 尾 信 彦

捨て方を考えあぐね手を出さぬ

おでん煮る妻は二日の旅仕度
仮面などかなぐり捨てるボランティア

単身は子らとりモートクリスマス
迷い道出発点の数え唄

ハードルを下げる勇気を試される

明日こそ自由な風が吹く場所へ
道端に蹴りたい石も見つからず

春雨は地球の涙すすり泣き
失つて分かる後悔友の愛
衰えも恥も忘れた好奇心
仕合せ転がつていた日溜まりで

今治市 安 野 かか志

泣きに来た男をどうやす日本海

凜と咲く皇帝ダリア泣かす雪

耳を刺す痛みを払う寒椿

賑いに備えて眠る宮の森

他人事じやない大晦日やつて来る

満腹のカラス眠たい大晦日

鳥取市 狹 武 紫 陽

空っぽの心余熱はとうにない
冷凍になつたピーマン煮込もうか

平和とは暖かきもの今朝の汁
ドロップスなめて出番を待つこぶし

疑わず手に人並みのマニフェスト
煩惱も少しはあるからまだいける

和歌山市 佐 藤 ま き

電話鳴るほらまた出たと娘が叱る
娘の近隣老人達の詐欺被害

無い袖は振れぬ心配無用です
戦争だコロナだ詐欺だ世知辛い

欲張りな広い国土を持ちながら
禿鷹のような仕打を知つてゐる

和歌山市 佐 藤 ま き

夢さめて老いを背中に日々くらし
青い空バラの宴に酔いしれる

友は良い世話かけながら泊り旅
はらはらと雪の白さが愛おしい

南天の機知に富む白赤も好き

和歌山市 佐 藤 ま き

我慢しな阿修羅まつこと怒つとる
辛ければうつ伏せに寝て泣けばいい

和歌山市 佐 藤 ま き

武勇伝一つもなくて猫背です
我慢しな阿修羅まつこと怒つとる

辛ければうつ伏せに寝て泣けばいい

高知市 三 谷 松太郎

わしや呆けた言い張るもんでもみな笑う
マーカーで黄色く塗つて念押され

つい迷うわたしわたくし僕か俺
無口の子さてもめでたい一人立ち

ベルリンの壁 息子は二歳あの頃は

沈黙は不機嫌にみえもどかしい
太古から親というものおせつかい

老人は現在と過去しか見ていない
息子よおまえの未来だけは見る

生駒市 饗 庭 風 鈴

ドロップスなめて出番を待つこぶし
疑わず手に人並みのマニフェスト

煩惱も少しはあるからまだいける

和歌山市 佐 藤 ま き

電話鳴るほらまた出たと娘が叱る
娘の近隣老人達の詐欺被害

無い袖は振れぬ心配無用です
戦争だコロナだ詐欺だ世知辛い

欲張りな広い国土を持ちながら
禿鷹のような仕打を知つてゐる

和歌山市 佐 藤 ま き

夢さめて老いを背中に日々くらし
青い空バラの宴に酔いしれる

友は良い世話かけながら泊り旅
はらはらと雪の白さが愛おしい

南天の機知に富む白赤も好き

和歌山市 佐 藤 ま き

我慢しな阿修羅まつこと怒つとる
辛ければうつ伏せに寝て泣けばいい

和歌山市 佐 藤 ま き

武勇伝一つもなくて猫背です
我慢しな阿修羅まつこと怒つとる

辛ければうつ伏せに寝て泣けばいい

和歌山市 佐 藤 ま き

我慢しな阿修羅まつこと怒つとる
辛ければうつ伏せに寝て泣けばいい

和歌山市 佐 藤 ま き

弘前市 小山内 真由美

冬のほおずき芸術的な顔となる
三日月と見るライトアップの雪の花

昼の楽しさ残つて ます雪だるま

平凡に偶然という面白さ

偶然はいたずら好きな天使かも

金魚たちココ美とナナ夫に改名

東京都 高岡弥生

神奈川県 小田幸子

スマホでの時間潰しで電池切れ
三年間マスクの消費どれくらい

バスポート作りワクワク止まらない

寝正月駅伝サッカー忙しい

老犬のヨタヨタ歩き愛おしい

横浜市 巖田かず枝

小さな手自ら手渡す年賀状
亡父笑む思い出話のライトあび
目を上げた鏡の中に父が居た

好物の梨を大事にむく夫

読み聞かせ共にほつこりさせられる

父さんと飲み会したい子の誘い

七十四終活歳が急がせる

横浜市 加藤佳子

トマホーク買うより食の自給率
待つてないけどすぐに来る誕生日

ウサギ年平和日本の有難み

年女ウサギ跳びなど披露する

ゼレンスキーノーの口説き上手に絆される

八波までしぶとさ見せる新コロナ

小田原市 虎澤昭久

頬撫でる光の温み母に似て

ボケたのかどこへ失くした休肝日

妻以外誰とも会わぬ日の多し

腰痛は持続可能と除夜の鐘
故郷の昔の冬の低い星

小さな手自ら手渡す年賀状
亡父笑む思い出話のライトあび
目を上げた鏡の中に父が居た
犬眠るマッサージチエアは誰の物
乳母車術後のワンちゃん前を向く

豊橋市 小松くみ子

里山を実感ああヒツツキ虫
アメリカンおかわりをする暇つぶし
NHK再放送でつないでる
慣れた庭思わぬところで蹴躡く
お隣の夫婦ゲンカも心する

豊橋市 西郷紀美代

トマホーク買うより食の自給率
待つてないけどすぐに来る誕生日
フワフワの乳房まくらに七歳児
ゴール前抜かれた孫のくやし泣き
沖縄の民意背にする情けなさ

八幡市 武田悦寛

朗報にゆるくスキップ老夫婦
聞き上手おだて上手の生き上手
どこの家でも正月はやつてくる
煩惱が騒ぎ出すから米を研ぐ
苦も樂も詰め込み過ぎの古日記

大阪市 今 村 和 男

大阪市 田 原 康 雄

生きざまを見上げるように落ち椿

新年の去年の顔にご挨拶

蛇口から若水を汲む年男

冷えた手と心に届く温い酒

地下鉄で行ける範囲の遠出する

大阪市 近 藤 風 羅

大阪市 中 村 峰 子

うたた寝のこたつ定位位置猫の穴

落ち葉掃ききりなきことの面白き

日本は民主国家だ知らんけど

朝の月ほんとの私眺めてる

醉眼に美女ばかりなり酒や佳し

大阪市 阪 本 秀 子

大阪市 松 田 聰

引き出しの奥のそよ風背なを押す

階段をのぼるようには世はゆかぬ

宿業の殻はきれいに脱ぎする

ゴキブリの哀れ前世で何したの

虹色に輝く父母のメモワール

大阪市 滝 井 えみこ

泉大津市 葛 城 隆 雄

じいちゃんの風呂に合いの手ハイハイホ

老いた母に勝たせて終える七並べ

一人鍋遅刻している幸を待つ

空想を膨らませ待つベーカリー

休みなく家事は続くよどこまでも

年末の買い出し毛ガニ拌むだけ
年の瀬に炊き出し並ぶ若い列
年末も老人クラブ無欠勤
年明けもパワー全開妻の口

溜まるのは本と脂肪と後悔と
面倒で付き合う人は自分だけ
会えぬ友君の分まで生きてます
かなんなあ根ほり葉ほりと聞きたがる
売りことば買わずに笑顔返します

美しい所作がめだつた時代劇
働くもアリも存在意義がある
ウクライナのちの歴史にどう残る
踏まれてもくいしばる歯が減つてゆく
日本人やはりマスクははずせない

お正月独楽風羽子板死語と化し
面白さ一人よがりの自画自賛
お賽銭小切手に見る二九四五
一年の計も三日で誤破算に

お雑煮の香りと味で寿いで

泉大津市 助川和美

ちぐはぐな言い訳舌がかわいてる
ひとつゴミ落せばゴミは積もり出す

おまえって呼ばれていまや金婚に
孫と祖父繋ぎ止めてるお年玉

ポケットに昔夢入れ今薬

泉佐野市 榎葉良子

嫁が来る家中そうじ待つ私
幸せよ私は私それでいい

とりあえず手伝いましよか言っておく
リセットをしたいと思うミスばかり

夢を買う宝クジにも金が要る

貝塚市 吉道あかね

吐いて吸うリズム崩れるあの日から
泣き虫になってしまったちぎれ雲

寝言でも嫌や嫌やと言つている

忘れない枯れない花を抱いている

いつか別れる生きた証しの中にいる

河内長野市

穂口正子

吹田市 岩口のぞみ

海沿いで買った干物はぬる燶で
歳重ね気づくお節は酒に合う

健診でBならよしと敷居下げ
旅行支援安かつたねと浪費する

お医者様加齢以外の診断を

吹田市 西沢司郎

身構えた途端にやつて来る病
三歳馬ターフ狭しと逃げて勝つ

注射痕寝てる間に輪を拡げ
大臣を呼んで抽選ジャンボくじ

咲き乱れやがて落葉になる定め

摂津市 荻布律子

勝ち色のネクタイ解くランチ時
ごみ出しはこのスッピンでマスクあり

出しやばるなど石段の上仁王様

カプセルにできない事を閉じ込めて

期限切れぼっちの納豆冷蔵庫

摂津市

野々村レイ子

いつまでも死なんつもりで無事退院
右往左往ほんに人生阿弥陀くじ

妻のサイン見逃し今日も怒り買う
ちやほやされ今ばあさんと呼ばれます

じじばばに構われ孫が泣き続け

プライドを自分でてる減らず口
子の笑顔視線やさしく美しい
サプリーズ心ツヤツヤ弾んでる
耐える事教えて母は野の花に
何もせず早日が暮れる冬の雲

高槻市 鳥居 宏

羽曳野市 黒木 ひとみ

此の度はカード無くしたまたかいな
忘却の道を二人で旅をする

毎土曜移動スーパー先ず豆腐
つわぶきの花は寂しくゴッホの黄

何年の命か五年日記買う

高槻市 三谷 白 黒

阪南市 藤岡 笑 三

起きるのに気合を入れて足をつり
携帯を失くしたのは二度目です
紅白は録画してから観て います

マグロ一匹 我家よりも高価です
孫達に負けて嬉しいお正月

豊中市 斎藤 奈津子

東大阪市 青木 ゆきみ

丸窓に満月嵌り目玉焼き
妻のご機嫌点数稼ぐ肩たたき

手抜きして無人販売罪つくり
二千円札出せばあたふたレジの人

リハビリ後うつかり杖を置き帰宅

寝屋川市 長尾 千賀

東大阪市 青木 隆一

南天へ鴨の来て寒半ば
赤丸は吉事 青クリニック カレンダー

流されず老いも自由な色で生き
ご近所の噂はルール無く走り

一部始終この齢だから知つてます

寒空に餅つく音と笑い声
新年も良き芽を出せと慈姑炊く
薬草の香り楽しみ屠蘇を飲む
年玉を貰える年か二度童

大茶盛隣を助け濃茶飲む

何もかも捨てて飛び込む縁信じ
鰯雲着物に転写してみた
川柳の思索に溺れターミナル

喜寿までを洗い流して余生生く
花桜敷あなたの髪も香しい
相席は旨い店なら喜んで
喧嘩した後はパスタで仲直り
木枯らしが吹いてピリッとなる空気
スパイスを効かせ言葉が踊り出す
身に染みる言葉を集め前を向く

何よりも冬のご馳走こげた餅
噛みしめて冬が来たかとボタン鍋
丸い月今宵も空ですまし顔
箸づかいナマコつまめば上級者

行きあたりばつたりですが良い暮らし

八尾市 田邊浩三

腰痛者天気予報をじっと見る
禁酒して人生何年延びるのか

カラオケに行けない俺に耳鳴りで
折角の入歯に薬副作用

初詣帰りお寺に友供養

大阪府 大浦福子

今年こそいつも張り切る最初だけ

力抜き生きてみようか自分流

ブランボーナ年に成るよう為せるよう

だめ元で撒くわ今年も夢の種

喜べば喜び事が寄つて来る

大阪府 奥野建一郎

相手見て器用につかう物忘れ

さすがだと言われ一肌脱がされる

辞退することで誠意をしめしたい

なにげない仕草に恋が現われる

得るところすいぶんあった負け試合

勤けど豊になれん物価高

少し嘘ちよつと本音で煙に巻く

両隣と忘れ上手の七変化

鼻先を襲う寒さにマスクする

年ごとに亡母に似てくる初鏡

大阪府 高木道子

少し嘘ちよつと本音で煙に巻く

元気な年賀返信なき人よ

いたずらに私の時は過ぎてゆく

寒空に公園ポツンと淋しそう

神戸市 青木公輔

漫才のネタが我が家アチコチに

その話の答えはすでに出ています

七彩の恋を捌いてみたものの

ベンキ塗りたて人生迂回せよと言う

恋は貸切り只溜息が残るだけ

神戸市 石川克美

初日の出今年もどうぞよろしくね

元気です待つてましたよ年賀状

元気かな年賀返信なき人よ

いたずらに私の時は過ぎてゆく

寒空に公園ポツンと淋しそう

神戸市 田本古鈴

海ひとつ呑みこめないで母になる

お互いの痛みを避けて喧嘩する

この世からおいとまをした母の靴

人として永遠の人母と呼ぶ

知つていた健気な母の夢ひとつ

もやもやの空気は燃やし灰にする

すんなりと家族になつた馬の骨

冬の夜今に至つたパズル解く

深呼吸乱れを正す句読点

最後だと決めた遺言迷い出す

神戸市 村 松 久 江

三田市 野 口 龍

久し振り帰国した子の照れ笑い
いつの間におじさん顔の次男坊

辛いです嫁との会話英語です
世間とは少し違つて面白い

誕生日余白いっぱい取つてある

尼崎市 山 本 百 合

三田市 馬 場 貴 美 江

餅つきの輪に鬪病の夫もいる
笑つてた父さんの席空けてある

産声を初春の光の中に聞く
便りなきは無事と言いつつ待つてある

歳重ね弱気になつた金太郎

伊丹市 岡 村 風 琴

三田市 松 下 英 秋

思い出をうまく切り取るカメラアイ
千の窓千の暮らしの窓灯り

紙とペン明日へ生きる詩を書き

足して二で割れぬ人生面白い
児を産んで母は分母で生きている

三田市 幸 田 厚 子

宝塚市 岸 田 万 彩

一日一捨過ぎし思い出お礼込め
独り居の隣家音なし気にかかる

カナ薬名覚えた頃にジェネリック
店を継ぐ次女に立派な婿が来た

簡単に指示出す妻の重い腰

私はいつも昭和生れと胸を張る
雨模様傘の数だけ生きる人

落葉舞うエントランスに立つ私
ただ酒は飲まない事に決めている

見上げると夢がふくらむオリオン座

物価高家計簿睨み策を練る
紅白の興味薄れる高齢者

正月は晴天続き縁起良し
曾孫四人いのちは続く連綿と

皺の数生きた証しと忍の文字

旧のつく成人式に行く二十歳
あつさりとしたビデオ通話の終りかた
母逝きて瞼の裏に住みはじめ
刃物より欠伸が怖い寄席芸人
学校の名前覚える駅伝走

宝塚市 岸 田 万 彩

萎えた足照山紅葉みなテレビ
年賀状計報数えて数減らす
のんびりと消化試合のはずだつた

あらためて歌詞しみじみとビートルズ
インタビューやたらに白い歯を見せる

丹波篠山市 河南 すみえ

春がきた神様からのエネルギー

試歩の杖春のそよ風呼んでいる

卒寿ですスマホに挑戦スローライフ

暗闇で掛けそだよあかんたれ

ありがとう別れの名残ハイタッチ

西宮市 北島邦男

新誌友作句に迫われる夢を見る

何故帰る故郷はコロナ パンダちゃん

初詣国中の神クツタクタ

羨ましメモも採らずに鮭は行く

何かある夫は派手に皿洗い

西宮市 高瀬照枝

元日に神さま通る庭掃除

とんど焚き汚れを燃やし勇気出す

疲れ取る温い寝床はありがたい

昼が来てきつねうどんで暖まる

年金で楽しみひとつ増やして

西宮市 高橋千賀子

ネコとふたりとても静かに年を越す

初夢は見ないぐつすりよく眠る

去年より数枚減った年賀状

奮発した御節は先ず仏さま

振り袖が眩しい孫の晴れ姿

西宮市 藤原みよし

プラボーン暮し願つて初詣で

妻がいる和む家庭が自慢です

なりたての傘寿背伸ばしたすたと

つくしの芽もう出ていいかうろたえる

手の内を見られぬようにグーをする

下萌えの道るんるんと春を抱く

柔かな春風弛緩する六腑

新しい景色を見たい橋渡る

少しづつ萎えてゆくもの撫でながら

遠ざかる足音術もない日暮れ

生駒市 永田 芙美子

祭神の「福」をどうぞと破魔矢買う

足跡が空へと続く雪兎

アイロンあてプロセス踏んで爽快に

友情が同じ話を聞いている

ストーブの上煮豆コトコト丁度よい

奈良県 室田 行久

制服を着るとやんちゃもそれらしく

重病の見舞いに行つて励まされ

参道を手押車の母白寿

神様の格式示す初穂料

年波に眼鏡補聴器命綱

和歌山市 北原昭枝

和歌山県 三枝眞智子

初々しい気持で今日も手をつなぐ
にぎやかな孫等の声の冬うらら

いつ歩一歩泣いて笑つて足の裏

信じてる足音あすへ弾ませる

いくつもの場面に出会う冬の虹

和歌山市 定松宏枝

鳥取市 上山一平

干支の卯の土鈴カラカラ春の音

密させて三日遅れの年賀状

屠蘇に酔い音痴の母の十八番

霧闇気に呑まれ手が出る福袋

鏡見てあなたも少し老けたわね

和歌山市 西川千鶴

鳥取市 大前安子

この人と生きると決めた星降る夜

変わり身の早さで上り詰めた人

嘘の汗流し築いた砂の城

冬の蝶空の広さを持て余す

野良猫が良からぬ噙背負つて来る

海南市 山中閑

鳥取市 山野すみれ

釣鐘の重いうねりの去年今年

お祝いの喜びこめて筆跳ねる

七草の歌ときざんでははを恋う

パチパチパチ香りも色も胡麻はねる

おばあちゃんと駆け込む孫を抱き寄せる

人間のエゴへ塩っぱい雨が降る
大木を見上げ静かに深呼吸
美しく見られたいのよコンパクト
米を研ぐ手に幸せを感じてる
果てしない旅へまっすぐ進むだけ

気持よく柏手ひびく初日の出
物価高味はかわらぬお節重

朝食は七草がゆと決めている

三ヶ日ハガキ配達積もる雪

お年玉忘れてご免物価高

鳥取市 大前安子

知りたいは衰えずして耳ダンボ

母残す水仙きりり咲いて祝

大丈夫ガンバれるよと母に告ぐ

毎日がリハーサルだな案が浮く

三角のプライド丸くなつてくる

鳥取市 山野すみれ

大切な指先だから磨く爪

ゆりかごに揺られて老後の心配

満月を連れて今夜は有頂天

冬の膳豆腐は鍋で踊り出す

ごゆっくり言つた先から片付ける

倉吉市 伊 藤 嘉 昭

冷たき手赤切れしていた亡母偲ぶ

日脚伸び冬至済んだと知らせてる

待ち合せ見つからぬはずマスクにオーバー

正月の顔は明るい妻の笑み

年賀状叢寿越えてもまだづく

倉吉市 堀 かずこ

新年をケアーハウスで迎えるか

年をとるいつしか体重くなる

川柳を思い浮かべる力ある

夢を持つ頭の体操五七五

今年こそ活力のある日を暮らす

倉吉市 宮 田 風 露

屋根の雪トテチトテチと溶ける音

北風にだんだん猫背になつてる

凍結路そりそりが歩き出す

忘れ物して迷惑かけた金曜日

明日一日を組みたててから床に就く

倉吉市 若 松 由紀子

難しい話はいつも蚊帳の外

賀状来ぬ友は元気か気にかかる

指切りの小指も今は皺ばかり

出すべきかやめにしようか年賀状

佳句浮かぶベン探す間にもう忘れ

米子市 川 本 美津子

自分だと認めたくない顔の皺

手品見て脳の回転追いつかず

餅つきの音も聞こえぬ高齢化

幸福色を見つけてみたい今年こそ

亡母の年超えて分かつた生きる術

鳥取県 田 中 重 忠

九六まだまだ現役糸切り歯

九六まだまだ元気くたばらぬ

孫や子が福をもちよるお正月

新雪が心のうさを消してくれ

九六まだまだ穿かぬ紙パック

松江市 相 見 柳 歩

人間と仏を結ぶ長い紐

オフの日にジャズとワインでキメてみる

ためらわづ下見重ねる恋の道

神ほとけ重い地球を支えている

アイドルは同じ時代に住む宝

広島市 田 桑 恵 子

美容院出れば粉雪舞つている

雪しんしんCD耳に安らぐ夜

毛筆の卒寿の手紙背筋伸ぶ

毎日が変らぬことの安堵感

鏡餅からバトンを受ける恵方巻

広島市 森田博之

山口市 兼崎徳子

アクセント変えて妻の気惹いてみる
嫌だった父の癖今身に付いた

少し生き過ぎた気もする誕生日
徘徊も今日の予定に入れてある
妻の留守お団子喰つて演歌聴く

尾道市 小畠宣之

津山市 高橋由紀女

子や孫も炬燵に集う灯油高
啄木を真似て手を見る人多し
増えて来た財布の中の診察券
恐ろしい一糸乱れぬ行動は
野良犬の独立心と俊敏さ

竹原市 土井輝恵

美作市 岡本余光

初詣で私一人が大吉で
瀬戸の嫁姉には姉の俸せが
親心政治家だけはならないで
爺ちゃんが曾孫の家に日参す
若い頃お洒落だつたな不精髪

三次市 伊藤寿子

松山市 郷田みや

「いらっしゃいませ」これしか出来ぬわたくしは
わたくしね五代目みるまで死ねないの
体力を過信していた落し穴
食べてよと隣の柿がサインする
生きてると思つて友の電話待つ

焼き餅を食べ過ぎ身体重くなる
ピンチでも心の余白残したい
七草を知らぬ世代が増えてゆく
血液が翔けめぐりだす一目ぼれ
夢ばかり追つて気付かぬ落とし穴

神様が身近になつてくる余生
身の回り片付けながら句を拾う
分かち合う役目は問わず共白髪
諺のようにゆかぬと孫が言う
何回も回す八十路の羅針盤

人の縁枯れた花でも咲く予感
読みきれぬ地図携えてゆく余生
日に三度目先を変えるギアチエンジ
地球上の混乱囁うウイルスめ
控え目に暮らす修行にとりかかる

綿の木を活けてほんわかお正月
家族写真みんな揃つてマスク顔
触れないでおこう散りそうな山茶花
胸騒ぎ遠回りして逢いに行く
いい人と言われ自分を振り返る

大洲市花岡順子

すつきりはしたが明日から無職
目から鱗やつと判つたことがある

雑学の知識に窮地救われる
廃屋の庭で雑草背伸びする

ライバルは見上げる位置に立つ出世

福岡県本田さくら

朝も少し居ろと布団が放さない
眠れない過去の汚点が顔を出す
雪よ降れ政治の悪を埋めつくせ
三家族揃うこの幸いつまでも
救急車どこで止まるか耳をピン

唐津市前田廣幸

新年へ向けて脱皮のカレンダー
欠点は有るが細けりや四捨五入
年の暮松の廊下に煮え滾る
年金を先ずは持続可能にして
安売りへ鳥インフルが怒り出し

沖縄県あらさくら

試着して買ったつもりで満たされる
うさぎ年ふざけて飛んだ老い知らず
見栄えよく背後に花をテレワーク
待ちこがれにらめっこするカレンダー
音読に冴えない句でも光り射す

沖縄県宮すみれ

ためらつてまばたきの間に売り切れる
掛け軸に手作りうさぎ子だくさん
はてさてと私見ているハト時計

満月が飛びこんでくる胸の内
大晦日こぼれ陽だまり拭き掃除

白河市鈴木たけし

余命不明だから手術を受けてみる
どの部位も注油求めている米寿
フクシマが喉元過ぎた脱炭素

東北を壊した海へ汚染水
病院も散髪も混む金曜日

石川県堀本のりひろ

初雪に待つてましたと吟釀酒
新春の句会賑わす初づくし
初詣心引き締め初転び
初雪舞う幼心が湧きいざる

初雪やすっかり少女八十路婆

富士見市中島通則

ふるさとに納税をする律儀者
保釈金賄賂で払う五輪理事
コロナ禍で無為に過ごしたロスタイル
計算は苦手でも良いキャッシュレス
アバウトに生きる術です四捨五入

大阪市 白谷 よしみ

パンの耳サツと捨てれずちゃんと置く
ちらちらともしもが降つて消えてゆく
ホーキヨツキヨ音痴で美声春告げる
わけもなく涙あふれる春もある

三田市 木村 マユミ

川柳に愛想つかされつつ楽し
神頼み今年の願い書き初めに
物わすれ前頭葉をノックする
あの世でも共に居たいと犬にいう

三田市 辻 開子

除夜の鐘世界平和の明日を待つ

初詣世界平和とお賽錢

今の世も平和の維持を期待する
老人よ生きるためにには気力持て

堺市 古川 光雄

三田市 森 玲子

冬蜂の死骸ぬくもるテレビ裏
しわしわの顔も化粧で見栄えする
老いてきた何をするにもどんくさい
裏表ある心から出る吐息

寝屋川市 坂本 ミヨノ

丹波篠山市 澤 良子

初風呂に老いは仲良くみがき合う
セーターの胸ふくらむ娘母うれし
もう飲みすぎ隠れ寒酒うまそうに
雑煮重詰めおいしくて御代わりを

三田市 生田 えい子

丹波篠山市 横溝 安子

診察後見えないコロナ連れ帰る
赤ヘルを取つておばちゃん母の顔

十八番酔えば口出る武勇伝
病む私返しきれない人の恩

パンの耳サツと捨てれずちゃんと置く
ちらちらともしもが降つて消えてゆく
ホーキヨツキヨ音痴で美声春告げる
わけもなく涙あふれる春もある

鳥取県 橋谷 静江

正月に里帰りさえ出来ぬ年

年賀見て友のつながり強くなる

雪もなく春のようでお正月

川柳を趣味としてから永らえる

船橋市 中嶋常葉

潮の香にこの身委ねる風の舵

冷めぬまま散らした恋の波しぶき

風紋に荒れ狂う日の走り書き

東京都 尾畠常葉

捨ててきた数多の恋の微炭酸

今頃になつて歯車かみ合わず

柿りんご皮ごと食べるわたし流

焼き芋が姉妹の仲をとりもつて

睡魔にはおそわれた時あめ含む

大掃除動かぬ男追い出され

パソコンが故障で仕事捗らず

賀状止めお互い年をとりました

パスワード忘れ変更一苦勞

漢字よりカタカナ文字の流行語

人見知りあんた嘘でしょ笑う友

じわり効く川柳薬年波に

冷え性に節電出来ぬ暖房費

好い歌が耳を優しくすぐつた
(前月分) 鳥取市 山野 すみれ

焦点を見つけて君と日々過ごす
あやまちの数数今は過去にする

手作りの味噌大根と仲が良い

泣くと書く笑うと書いて明日と書く

(前月分) 平子市 川本 美津子

シクラメン買って覚えた恋の歌

旅に出て帰らぬ亡母の年を超え

私より美人な猫と友は言う

孫の世話大波小波繰り返す

(前月分) 広島市 田桑恵子

大根抜くおでんはどうと問うてくる

老いの膳煮しめがあつて落ち着ける

机上の旅乗り換え表にチエック入れ

カバンからマチ鳴り出すバスの中

胸のうち吐露して心軽くなる

「川雜」語録 ⑯

脇に落ちない

岩本素人
いわ もと じん

私共の称へる新しさは、新しく創り成された新しさである。そして私共の古いと称へるのは既に・類型のものを一度或は度々見たこんなのは珍しくないと言ふ古さである。

(「川柳雑誌」昭和5年4月)

西宮市	高橋千賀子	七草の名前忘れて粥は食う	神戸市	近藤勝正	湯豆腐という献立もあり冬日
河内長野市	木見谷孝代	葉牡丹の笑顔もほめる小正月	高槻市	初代正彦	夫婦して横着になる厳寒期
土佐清水市	辻内次根	初夢でカラスに頭つつかれた	西宮市	高瀬照枝	疲れ取る温い寝床が嬉しい
黙々と枝豆食つた三が日	松山市	池田市	米子市	竹村紀の治	元旦に先に逝つてと大なる
三が日も無休	太陽光パネル	太田省三	太田省三	和歌山市	朝の駅通貨列車の寒い風
和歌山市	上田紀子	豊中市	樺原市	居谷真理子	この厚着脱皮したいな春よ来い
福音を信じ今年の暦繰る	唐津市	仁部四郎	豊中市	豊中市	楽だけど淋しい冬のひとり旅
てにをはが二社の社説でずれている	黒石市	石澤はる子	高杉千歩	松田蟻日路	時々はあの世覗いて又にする
死ぬ日まであいつが一步先だつた	三田市	野口龍	大阪市	大川桃花	丁寧なお辞儀に頭倍返す
詩人にも鬼にもなつて雪を搔く	尼崎市	永田紀恵	岡山市	上田ひとみ	百一歳も血液検査する主治医
初釜へ母の形見に袖通す	豊中市	人生下さい	岡山市	修	親友は一人くらいがちょうどいい
冬の星座見上げて祈る寒いです	水野黒兎	人生下さい	丹下凱夫	三原市	大羽雄大
季節感日々薄れても分かる冬	大阪市	人生下さい	佐賀県	真島久美子	言い訳がざつくり過ぎて笑えます
邪な思いで見てるラブシーン	大阪市	人生下さい	大阪府	大浦福子	枕元いつも備えのヘルメット
ゴマほどの石が暴れる靴の中	青木ゆきみ	人生下さい	奈良市	梶原弘光	タグ付いていてもやらかす前後ろ
元日といえど欠かせぬ常備薬	青木ゆきみ	人生下さい	三原市	大久保眞澄	七十三なんでこんなに忙しい
恋の歌はあかん傷口聞くから	大阪市	人生下さい	大阪市	伊藤のぶよし	目と耳はダメだが足はまだ二本
月を見るまだ許せない人がいる	大沢のり子	人生下さい	伊藤のぶよし	伊藤のぶよし	突くなら突けと脇の甘さを売りにする
大阪市	豊中市	人生下さい	伊藤のぶよし	伊藤のぶよし	伊藤のぶよし
高橋千賀子	木見谷孝代	葉牡丹の笑顔もほめる小正月	高瀬照枝	竹村紀の治	朝の駅通貨列車の寒い風
河内長野市	辻内次根	初夢でカラスに頭つつかれた	米子市	和歌山市	この厚着脱皮したいな春よ来い
土佐清水市	松山市	池田市	太田省三	豊中市	楽だけど淋しい冬のひとり旅
黙々と枝豆食つた三が日	太陽光パネル	太田省三	高杉千歩	松田蟻日路	時々はあの世覗いて又にする
三が日も無休	和歌山市	豊中市	大川桃花	大川桃花	丁寧なお辞儀に頭倍返す
和歌山市	上田紀子	高杉千歩	大久保眞澄	伊藤のぶよし	枕元いつも備えのヘルメット
福音を信じ今年の暦繰る	唐津市	仁部四郎	梶原弘光	伊藤のぶよし	タグ付いていてもやらかす前後ろ
てにをはが二社の社説でずれている	黒石市	石澤はる子	大久保眞澄	伊藤のぶよし	七十三なんでこんなに忙しい
死ぬ日まであいつが一步先だつた	三田市	野口龍	伊藤のぶよし	伊藤のぶよし	目と耳はダメだが足はまだ二本
詩人にも鬼にもなつて雪を搔く	尼崎市	永田紀恵	伊藤のぶよし	伊藤のぶよし	突くなら突けと脇の甘さを売りにする
初釜へ母の形見に袖通す	豊中市	人生下さい	伊藤のぶよし	伊藤のぶよし	伊藤のぶよし
冬の星座見上げて祈る寒いです	水野黒兎	人生下さい	伊藤のぶよし	伊藤のぶよし	伊藤のぶよし
季節感日々薄れても分かる冬	大阪市	人生下さい	伊藤のぶよし	伊藤のぶよし	伊藤のぶよし
邪な思いで見てるラブシーン	青木ゆきみ	人生下さい	伊藤のぶよし	伊藤のぶよし	伊藤のぶよし
ゴマほどの石が暴れる靴の中	青木ゆきみ	人生下さい	伊藤のぶよし	伊藤のぶよし	伊藤のぶよし
元日といえど欠かせぬ常備薬	大阪市	人生下さい	伊藤のぶよし	伊藤のぶよし	伊藤のぶよし
恋の歌はあかん傷口聞くから	青木ゆきみ	人生下さい	伊藤のぶよし	伊藤のぶよし	伊藤のぶよし
月を見るまだ許せない人がいる	大阪市	人生下さい	伊藤のぶよし	伊藤のぶよし	伊藤のぶよし

句づくりの前に十指のストレッチ	弘前市	稻見 則彦	岡山県	藤澤 照代	血圧の安定剤の猫撫である
川柳が詠める間は大丈夫	松山市	栗田 忠士	米子市	妹能令位子	雨の日は猫と私とアレクサと
嬉しいは一番好きな女偏	富田林市	中村 恵	八幡市	武田 悅寛	あいまいな関係続く猫と僕
お隣が小林小森小川さん	大阪市	中島 幸徳	鳥取市	奥田 由美	検査後の疑い晴れて猫カフエ
お隣の心配事を心配し	東京都	川本真理子	西宮市	福島 弘子	猫の喧嘩老猫かばうお婆ちゃん
焼きもちを忘れた夫といて淋し	堺市	坂上 淳司	大阪市	江島谷勝弘	俺様も腹が立つたら鍋磨く
ローソクの火の消えるまで正信偈	箕面市	中山 春代	尼崎市	藤田 雪菜	鍋の焦げ落としてちょっと良い気分
無言には無言で微笑みを返す	黒石市	北山まみどり	箕面市	広島 巴子	妻病んで迷信までも頼りだす
愚痴ばかり聞いてる耳が欠伸する	川西市	大坪 一徳	神戸市	上田 和宏	ありがとうは心の中の修正ペン
難聴を目でカバーする音も見る	美作市	岡本 余光	倉吉市	牧野 芳光	サーロイン食べたつもりでプロテイン
十二色の夢が三原色になる	松山市	大内せつ子	奈良市	山本 昌代	言い負けたことはないけど後を引く
文庫本の二、三ページが催眠薬	京都市	清水 英旺	奈良県	渡辺 富子	質素な暮らしにきつちり税を取る
主婦の椅子明け渡したら職が無い	鳥取市	前田 楓花	大洲市	花岡 順子	子供でも辛いよと言ふ生意気な
バランスが命なんですヤジロベエ	清水市	五月	南あわじ市	石田 隆彦	兩親の入れ歯へA5神戸肉
			横浜市	川島 良子	会えるうち逢つておこうが合言葉

唐津市 坂本 蜂朗

女房との絆を援護したコロナ

鳥取県 門村 幸子

奈良県 尾道市 村上 和子

「おはよう」も個性出でいるウォーキング

鳥取県 山下 節子

正月にしてはいけない盗み酒

大阪市 博

あたふたと探したマスク顎の下
チヤンネルはどこもかしこも食べている

奈良県 長谷川崇明

歩いてる体の声を聞きながら

横浜市 加藤 佳子

雨の日もビールを召くする散步

見栄もあり背伸びしました松葉蟹

大阪市 河内長野市 白谷よしみ

清澄な朝のあいさつ顎を引く

大阪市 谷口 義

じいちゃんに昼酒禁止令を出す

フワフワの掛布団着るオムライス

堺市 中島 一彌

用事がないようあるおばあさん

大阪市 唐津市 前田 廣幸

ああ今日も終わつたと行く縄暖簾

バーガーはアゴがはずれるから食わん

鳥取市 村上 玄也

風袋に加齢も容れて医者の診る

大阪市 河内長野市 森田 旅人

19度の日本酒さすが血が騒ぐ

旬の味口に入らぬものばかり

鳥取市 谷口回春子

母の歳超えて広いな芒原

西宮市 北島 邦男

酒盛りでつづいた話ブーメラン

鍋奉行父のアブナイさしすせそ

岡山市 大石 洋子

徘徊せずナビもないのに鮭帰る

貝塚市 石田ひろ子

この爺と酒呑み交わす孫娘

偽りはもう何もない終の章

鳥取市 岸本 宏章

髪染めてわたしのドラマまだ続く

寝屋川市 山下 凱柳

ついうつかり酒が私をしゃべらせる

老人に歩きスマホは難しい

豊中市 藤井 則彦

来たるべき老いに備えてジム通い

寝屋川市 川本 信子

糖質ゼロで晩酌の夫婦です

腕時計はずして生きる爽やかさ

香芝市 山下じゅん子

マイホーム内気な二人揃りどころ

箕面市 出口セツ子

生きてゆくパワー一つの愛で良い

自分が覚めてサアと気合いでふとん蹴る

鳥取市 柳田かおる

車なのに好きなお酒をだしてくる

神戸市 城戸 誓子

家飲みのコロナ正月三年目

米子市 伊塚美枝子

寝屋川市 伊達 郁夫

共選欄

檸

檬

抄

(薰風書、カツトとも)

(投句309名)

「かなり」

江島谷

勝 弘 選

温暖化かなり北極縮こまる

戦争の記憶がかなり暈けてくる

舵取りがかなり危ない岸田丸

だんだんとおかしい方へ向いて来た

聞く力かなり耳垢詰まつてた

9条がかなりストレス溜めています

家計簿にかなり堪える物価高

少子化もかなり前から言つてゐる

少子化もかなり前から言つてゐる

少子化もかなり前から言つてゐる

半分は広告で持つ新聞社

コロナ禍でもかなり儲けた人がいる

除雪車がかなりの雪に間に合わず

古いの腰かなり応える雪下ろし

丹波篠山市 横浜市 鳥取市 三田市 大阪市 神戸市 上田 和宏 北原 昭枝 豊中市 きとうこみつ 岩崎 玲子 尼崎市 藤井 宏造 大阪市 金子 美千代 田邊 浩三 川端 一歩 鳥取市 永原 昌鼓 弘前市 福士 慕情

丹波篠山市 横浜市 鳥取市 三田市 大阪市 神戸市 上田 和宏 北原 昭枝 豊中市 きとうこみつ 岩崎 玲子 尼崎市 藤井 宏造 大阪市 金子 美千代 田邊 浩三 川端 一歩 鳥取市 永原 昌鼓 弘前市 福士 慕情

丹波篠山市 横浜市 鳥取市 三田市 大阪市 神戸市 上田 和宏 北原 昭枝 豊中市 きとうこみつ 岩崎 玲子 尼崎市 藤井 宏造 大阪市 金子 美千代 田邊 浩三 川端 一歩 鳥取市 永原 昌鼓 弘前市 福士 慕情

丹波篠山市 横浜市 鳥取市 三田市 大阪市 神戸市 上田 和宏 北原 昭枝 豊中市 きとうこみつ 岩崎 玲子 尼崎市 藤井 宏造 大阪市 金子 美千代 田邊 浩三 川端 一歩 鳥取市 永原 昌鼓 弘前市 福士 慕情

丹波篠山市 横浜市 鳥取市 三田市 大阪市 神戸市 上田 和宏 北原 昭枝 豊中市 きとうこみつ 岩崎 玲子 尼崎市 藤井 宏造 大阪市 金子 美千代 田邊 浩三 川端 一歩 鳥取市 永原 昌鼓 弘前市 福士 慕情

丹波篠山市 横浜市 鳥取市 三田市 大阪市 神戸市 上田 和宏 北原 昭枝 豊中市 きとうこみつ 岩崎 玲子 尼崎市 藤井 宏造 大阪市 金子 美千代 田邊 浩三 川端 一歩 鳥取市 永原 昌鼓 弘前市 福士 慕情

丹波篠山市 横浜市 鳥取市 三田市 大阪市 神戸市 上田 和宏 北原 昭枝 豊中市 きとうこみつ 岩崎 玲子 尼崎市 藤井 宏造 大阪市 金子 美千代 田邊 浩三 川端 一歩 鳥取市 永原 昌鼓 弘前市 福士 慕情

丹波篠山市 横浜市 鳥取市 三田市 大阪市 神戸市 上田 和宏 北原 昭枝 豊中市 きとうこみつ 岩崎 玲子 尼崎市 藤井 宏造 大阪市 金子 美千代 田邊 浩三 川端 一歩 鳥取市 永原 昌鼓 弘前市 福士 慕情

丹波篠山市 横浜市 鳥取市 三田市 大阪市 神戸市 上田 和宏 北原 昭枝 豊中市 きとうこみつ 岩崎 玲子 尼崎市 藤井 宏造 大阪市 金子 美千代 田邊 浩三 川端 一歩 鳥取市 永原 昌鼓 弘前市 福士 慕情

丹波篠山市 横浜市 鳥取市 三田市 大阪市 神戸市 上田 和宏 北原 昭枝 豊中市 きとうこみつ 岩崎 玲子 尼崎市 藤井 宏造 大阪市 金子 美千代 田邊 浩三 川端 一歩 鳥取市 永原 昌鼓 弘前市 福士 慕情

丹波篠山市 横浜市 鳥取市 三田市 大阪市 神戸市 上田 和宏 北原 昭枝 豊中市 きとうこみつ 岩崎 玲子 尼崎市 藤井 宏造 大阪市 金子 美千代 田邊 浩三 川端 一歩 鳥取市 永原 昌鼓 弘前市 福士 慕情

丹波篠山市 横浜市 鳥取市 三田市 大阪市 神戸市 上田 和宏 北原 昭枝 豊中市 きとうこみつ 岩崎 玲子 尼崎市 藤井 宏造 大阪市 金子 美千代 田邊 浩三 川端 一歩 鳥取市 永原 昌鼓 弘前市 福士 慕情

丹波篠山市 横浜市 鳥取市 三田市 大阪市 神戸市 上田 和宏 北原 昭枝 豊中市 きとうこみつ 岩崎 玲子 尼崎市 藤井 宏造 大阪市 金子 美千代 田邊 浩三 川端 一歩 鳥取市 永原 昌鼓 弘前市 福士 慕情

丹波篠山市 横浜市 鳥取市 三田市 大阪市 神戸市 上田 和宏 北原 昭枝 豊中市 きとうこみつ 岩崎 玲子 尼崎市 藤井 宏造 大阪市 金子 美千代 田邊 浩三 川端 一歩 鳥取市 永原 昌鼓 弘前市 福士 慕情

「かなり」

永 見 心 咲 選

物価高いっそ2食に減らそうか

この度は根が深そうだ妻の乱

ワクチン五回もう打ち止めにして欲しい

黄昏の恋ですかなり危険です

あの家の金のなる木はよく育つ

お日さまの機嫌で変る電気代

四捨五入切り上げ好きな計算機

羽毛布団出るのに勇気要ります

最古から不変の愛のカブトガニ

どんだけがんばつてもやせません

だんだんとおかしい方へ向いて来た

何やかや言うてもぞつこんだと思う

ホントウの私はかなり爬虫類

初競りに御祝儀弾む本マグロ

婆ちゃんの箪笥預金が気に掛かる

豊中市 きとうこみつ 香南市 桑名 孝雄

富士見市 中島 通則

富田林市 中村 恵

米子市 池田 美穂

鳥取市 福西 茶子

塩竈市 木田比呂朗

三田市 村田 博

笠岡市 藤井 智史

河内長野市 森田 旅人

三田市 上田ひとみ

和歌山市 柏原 夕胡

佐賀県 真島久美子

豊中市 きとうこみつ 香南市 桑名 孝雄

富士見市 中島 通則

富田林市 中村 恵

米子市 池田 美穂

鳥取市 福西 茶子

塩竈市 木田比呂朗

三田市 村田 博

笠岡市 藤井 智史

河内長野市 森田 旅人

三田市 上田ひとみ

和歌山市 柏原 夕胡

佐賀県 真島久美子

三田市 多田 雅尚

豊中市 きとうこみつ 香南市 桑名 孝雄

富士見市 中島 通則

富田林市 中村 恵

米子市 池田 美穂

鳥取市 福西 茶子

塩竈市 木田比呂朗

三田市 村田 博

笠岡市 藤井 智史

河内長野市 森田 旅人

三田市 上田ひとみ

和歌山市 柏原 夕胡

佐賀県 真島久美子

三田市 多田 雅尚

豊中市 きとうこみつ 香南市 桑名 孝雄

富士見市 中島 通則

富田林市 中村 恵

米子市 池田 美穂

鳥取市 福西 茶子

塩竈市 木田比呂朗

三田市 村田 博

笠岡市 藤井 智史

河内長野市 森田 旅人

三田市 上田ひとみ

和歌山市 柏原 夕胡

佐賀県 真島久美子

三田市 多田 雅尚

豊中市 きとうこみつ 香南市 桑名 孝雄

富士見市 中島 通則

富田林市 中村 恵

米子市 池田 美穂

鳥取市 福西 茶子

塩竈市 木田比呂朗

三田市 村田 博

笠岡市 藤井 智史

河内長野市 森田 旅人

三田市 上田ひとみ

和歌山市 柏原 夕胡

佐賀県 真島久美子

三田市 多田 雅尚

豊中市 きとうこみつ 香南市 桑名 孝雄

富士見市 中島 通則

富田林市 中村 恵

米子市 池田 美穂

鳥取市 福西 茶子

塩竈市 木田比呂朗

三田市 村田 博

笠岡市 藤井 智史

河内長野市 森田 旅人

三田市 上田ひとみ

和歌山市 柏原 夕胡

佐賀県 真島久美子

三田市 多田 雅尚

豊中市 きとうこみつ 香南市 桑名 孝雄

富士見市 中島 通則

富田林市 中村 恵

米子市 池田 美穂

鳥取市 福西 茶子

塩竈市 木田比呂朗

三田市 村田 博

笠岡市 藤井 智史

河内長野市 森田 旅人

三田市 上田ひとみ

和歌山市 柏原 夕胡

佐賀県 真島久美子

三田市 多田 雅尚

豊中市 きとうこみつ 香南市 桑名 孝雄

富士見市 中島 通則

富田林市 中村 恵

米子市 池田 美穂

鳥取市 福西 茶子

塩竈市 木田比呂朗

三田市 村田 博

笠岡市 藤井 智史

河内長野市 森田 旅人

三田市 上田ひとみ

和歌山市 柏原 夕胡

佐賀県 真島久美子

三田市 多田 雅尚

豊中市 きとうこみつ 香南市 桑名 孝雄

富士見市 中島 通則

富田林市 中村 恵

米子市 池田 美穂

鳥取市 福西 茶子

塩竈市 木田比呂朗

三田市 村田 博

笠岡市 藤井 智史

河内長野市 森田 旅人

三田市 上田ひとみ

和歌山市 柏原 夕胡

佐賀県 真島久美子

三田市 多田 雅尚

豊中市 きとうこみつ 香南市 桑名 孝雄

富士見市 中島 通則

富田林市 中村 恵

米子市 池田 美穂

鳥取市 福西 茶子

塩竈市 木田比呂朗

三田市 村田 博

笠岡市 藤井 智史

河内長野市 森田 旅人

三田市 上田ひとみ

和歌山市 柏原 夕胡

佐賀県 真島久美子

三田市 多田 雅尚

豊中市 きとうこみつ 香南市 桑名 孝雄

富士見市 中島 通則

富田林市 中村 恵

米子市 池田 美穂

鳥取市 福西 茶子

塩竈市 木田比呂朗

三田市 村田 博

笠岡市 藤井 智史

河内長野市 森田 旅人

三田市 上田ひとみ

和歌山市 柏原 夕胡

佐賀県 真島久美子

三田市 多田 雅尚

豊中市 きとうこみつ 香南市 桑名 孝雄

富士見市 中島 通則

富田林市 中村 恵

米子市 池田 美穂

鳥取市 福西 茶子

塩竈市 木田比呂朗

三田市 村田 博

笠岡市 藤井 智史

河内長野市 森田 旅人

三田市 上田ひとみ

和歌山市 柏原 夕胡

佐賀県 真島久美子

三田市 多田 雅尚

豊中市 きとうこみつ 香南市 桑名 孝雄

富士見市 中島 通則

富田林市 中村 恵

米子市 池田 美穂

鳥取市 福西 茶子

塩竈市 木田比呂朗

三田市 村田 博

笠岡市 藤井 智史

河内長野市 森田 旅人

三田市 上田ひとみ

和歌山市 柏原 夕胡

佐賀県 真島久美子

三田市 多田 雅尚

豊中市 きとうこみつ 香南市 桑名 孝雄

富士見市 中島 通則

富田林市 中村 恵

米子市 池田 美穂

鳥取市 福西 茶子

塩竈市 木田比呂朗

三田市 村田 博

笠岡市 藤井 智史

河内長野市 森田 旅人

三田市 上田ひとみ

和歌山市 柏原 夕胡

佐賀県 真島久美子

三田市 多田 雅尚

豊中市 きとうこみつ 香南市 桑名 孝雄

富士見市 中島 通則

富田林市 中村 恵

米子市 池田 美穂

鳥取市 福西 茶子

塩竈市 木田比呂朗

三田市 村田 博

笠岡市 藤井 智史

河内長野市 森田 旅人

三田市 上田ひとみ

和歌山市 柏原 夕胡

佐賀県 真島久美子

三田市 多田 雅尚

豊中市 きとうこみつ 香南市

赤い顔かなり我慢をしているな

爪隠すかなり上手の嫁と住む

ちびりちびり妻もかなりの口となる

盃もグラスも乾して乱れない

コロナ慣れかなり飲んだぞ楽しくて

お酒やめたらかなりの額になるけれど

婚活で克服女性恐怖症

ときめきはかなり昔に置き忘れ

孫の彼氏にうつとりしての私

大したもんだ十月十日を耐えたとは

尿酸値8かなりのことと言う主治医

空缶の数に案する肝機能

必要になつた手すりが友となる

腰痛にかなり悩むがまだ生きる

ギックリ腰五回目かなり熟練に

足がつる無理したようだ万歩計

それなりに自負した記憶力も老い

物忘れかなりと言えばかなりです

かなり歳杖も持たずには口達者

白髪からかなり地肌も顔を出し

歳とともにかなり萎んだ僕の夢

限界線見えていたのはかなり前

香芝市 大内 朝子

三田市 生田えい子

三田市 稲角 優子

尼崎市 山本 百合

堺市 倉本 一弥

藤井 智史

笠岡市 大阪市

岡田 恵子

松江市 藤井 寿代

男鹿市 伊藤のぶよし

松江市 中筋 弘充

豊橋市 西郷紀美代

沖縄県 鳥居 宏

高槻市 神戸市

城戸 誉子

豊中市 松尾美智代

岡山市 藤澤 照代

岡山市 丹下 凱夫

堺市 齋藤さくら

塩竈市 木田比呂朗

神戸市 敏森 廣光

東京都 川本真理子

洗つても汚れ落ちない五輪の輪

締切日かなり前から知っていた

破けんばかりの袋詰め放題

どうしようトイレ休憩長い列

紙オムツをかなり気にするのは男

かなりの肩書き疲れ切つてたことだろう

足がつる無理したようだ万歩計

捨てる服かなりあるのに片づかぬ

不公平な世をヨシコラさと生きる

異次元と言い出すほどのヤバさかな

空缶の数に案する肝機能

聞く力かなり耳垢詰まつてた

温暖化かなり北極縮こまる

噂ではかなりの酒豪だとワタシ

年金を貰い始めてかなり経つ

坂続く脚はもたつき息も切れ

クラス会かなりかなりとデコ擦る

遅遅と咲くかなり樹齢のうばざくら

もしかして一〇〇年の恋だつたかも

薔薇100本かなり奮発してくれた

コーヒーも冷めてそろそろ別れ時

本心は作り笑いでラップする

尼崎市 藤井 宏造

大阪市 小野 雅美

八王子市 川名 洋子

寝屋川市 平松かすみ

豊中市 藤井 則彦

倉吉市 宮田 風露

尼崎市 松尾美智代

鳥取市 前田 楓花

神戸市 青木 公輔

尼崎市 宗 和夫

豊橋市 西郷紀美代

大阪市 井丸 昌紀

丹波篠山市 酒井 健二

黒石市 石澤はる子

三田市 堀 正和

生駒市 飛永ふりこ

枚方市 藤田 武人

弘前市 今 愁女

沖縄県 あらさくら

東大阪市 北村 賢子

尾道市 村上 和子

久保田千代

紙オムツをかなり気にするのは男
九十年生かされ何が残せたか
かなり気になる同年代のくやみ欄
坂統く脚はもたつき息もきれ
石段をかなり上ると神に会う
揚げ終えるころにはかなり食べている
かなり損してます宝くじに株
シャツは虎ズボンはピューマかなり派手
恋終わるかなり派手だと思われて
ぱつちやりと言うがかなりの太めです
女の目にもかなり綺麗な人でした
出会いより別れが多い歳となり
コーヒーも冷めてそろそろ別れ時
徒歩5分わたしの足では15分
百円差かなり遠いが妻は行く
ホントウの私はかなり爬虫類
念のため絵馬は三枚掛けておく
重いねえああ重いねえ老いるつて

豊中市 藤井 則彦
出雲市 伊藤 玲峰
札幌市 三浦 強一
生駒市 飛永ふりこ
大阪市 原 幸子
大阪市 島田 明美
大阪市 古今堂蕉子
東大阪市 青木ゆきみ
藤井寺市 米田利恵子
貝塚市 吉道あかね
西宮市 太田扶美代
尾道市 高橋千賀子
村上 和子
横浜市 川島 良子
豊中市 水野 黒兎
佐賀県 真島久美子
大阪市 平井美智子
樺原市 居谷真理子
鳥取市 福西 茶子
三田市 堀 正和
大阪市 谷口 義

それなりに自負した記憶力も老い
運転はかなり穏やか年だもの
自動運転かなり勇気がいりますの
かなり自己チューだけど何故だか憎めない
物忘れかなりと言えばかなりです
いい仲になっていたんだな露中
ストレスをかなり溜めてる日本海
人気でた激辛カレー舌が燃え
冬ごもり体重計の悲鳴聞く
ヘンリーがかなりお熱を上げてます
小銭ならかなりたまつておるので
精巧なフェイク動画の恐ろしさ
病む人を励ますかなり嘘交ぜて
記憶しています「記憶にありません」
もうかなり膨らんでると花便り
ちびててきたペン先かなり攻めている
重いねえああ重いねえ老いるつて
フイクシヨンもかなり混じっている自伝
平行線からかなり離れたみたいです
吃水線レスレで浮く宝船
円よりもかなり面白そう精円

秀 句

岡山県 藤澤 照代
美作市 岡本 余光
海南市 山中 閑
堺市 鳥取市 倉益 一瑠
岡山市 丹下 凱夫
名古屋市 山本三樹夫
黒石市 北山まみどり
尼崎市 山田 厚江
大阪市 岩崎 玲子
神戸市 富永 恭子
藤井寺市 太田扶美代
大阪市 高瀬 霜石
河内長野市 村上 直樹
鳥取市 狹武 紫陽
樺原市 大阪市 平井美智子
松山市 大内せつ子
倉吉市 居谷真理子
牧野 芳光
松江市 中筋 弘充

「耕す」

(投句 215名)

梅澤盛夫選



農一途祖父の鋤の柄黒光り
お揃いの軍手を干して春の庭
休みなく命耕す鼓動きく
耕した田を駆け回る猪め
ひと畝耕して三日間寝込む
ふる里の民話耕す畠炉裏端
耕して古脳に入れるカタカナ語
脳に鋤入れたら石にぶつかった
土地も心も耕していた中村氏
春耕の土に命の種を蒔く
耕して登りつめれば千枚田
民が耕し戦車が踏みつぶす
戦の不毛人智の鋤が見つからぬ
ヒマワリも小麦も育てウクライナ
日本は右へ右へと耕され
耕せばまだ伸び代のある八十路
耕せばまだ蘇るかもしけぬ会
起業家が挑戦する姿見る
自給率の低下を嘆う休耕田
こつこつと老いを耕す五七五

岡山県 藤澤 照代
大阪市 平井美智子
大阪府 大浦 福子
倉吉市 宮田 風露
藤寺市 鈴木いさお
西予市 黒田 茂代
神戸市 上田 和宏
奈良市 大久保真澄
大阪市 平賀 国和
河内長野市 坂野 澄子
富山市 伴 よしお
豊中市 水野 黒兎
大阪市 宇都満知子
三田市 堀 正和
大阪市 江島谷勝弘
堺市 澤井 敏治
枚方市 藤村 亜成
三田市 野口 龍
堺市 村上 玄也
宝塚市 岸田 万彩

耕しておこう日が照る雨が降る
耕せば出るわ出るわの脳のゴミ
休耕田案山子律儀に立ち続け
ご先祖の血と汗の田に建つパネル
耕してミミズ生き生き動きだす
新聞で頭耕す日の始め
ポテトチップス北の大地にトラクター
鋤入れる頑固な土が笑うまで
春の畑耕し愛の種をまく
耕運機見事扱う嫁が来た
四季の空耕す君はもう詩人
堅物の脳を耕すコミニニティー
佳 句

じいちゃんの耕したふかふかの土
人情と雪の深さを掘つて
耕せば心はいつも新しい
満月を吊るして帰る父の鋤
凍てた土耕し春の色にする
人

河内長野市 大島ともこ
神戸市 近藤 勝正
川西市 大坪 一徳
尼崎市 近兼 敦子
橋本市 石田 隆彦
松山市 宮尾みのり
郡山市 安藤 敏彦
米子市 伊塚 美枝子
大阪府 明石市 梶谷 和郎
三原市 笹重 耕三
大阪市 大沢のりこ
黒石市 北山まみどり
和歌山市 柏原 夕胡
岐阜県 喜多村正儀
神戸市 みぎわはな
弘前市 三田市 北野 哲男
高瀬 霜石
佐賀県 真島久美子

希望と復興耕し続けてる神戸
軸 天

「パワフル」

(投句 209名)

柏原夕胡選



初夢は月まで飛んだフルムーン
残業をいくらやつてもへこたれぬ
コロナ禍に怯えず凛と前を向く
飲めばすぐ元気になれるコマーシャル
週8日あつたらしいなマイライフ
ママチャリで立ち漕ぎして古稀の坂
全力で生きた老後の土いじり
パワフルな友は失敗恐れない
父になりエッと驚く逞しさ
パワフルな妻はわが家の守り神
年金の元は取つたがまだ元気
東大は落ちましてんと高笑い
パワフルな身体に脳が反比例
パワフルなうさぎは月へ跳ねたまま
パワフルなべんだ世相をぶつた切る
勝負眉描いて出かける黛イケア
遊べるぞ才までの二十年
パワフルな奴もお守り持つて
懷は寒いが熱き恋心
掃除機の強で吸い込む鬱その他

和歌山市 岩崎 一子
倉吉市 牧野 芳光
三木市 山口ヨシエ
鳥取市 岸本 孝子
豊中市 きとうこみつ
農中市 斎藤奈津子
岐阜県 喜多村正儀
和歌山市 上田 紀子
唐津市 坂本 蜂朗
鳥取市 谷口回春子
三田市 堀 正和
大阪市 島田 明美
鳥取市 山下 凱柳
鳥取市 前田 楓花
弘前市 福士 慕情
大阪市 平井美智子
大阪市 古今堂蕉子
東大阪市 青木 隆一
弘前市 高瀬 霜石
郡山市 安藤 敏彦

喜寿米寿なんの白寿へウサギ跳び
パワフルな愛におぼれた桜草
いつまでもパワフルな桑田佳祐
大口でパワフルだった京唄子
クワガタをひっくり返すカブトムシ
年毎にパワフルになる妻の陰
断酒した夫朝からよく動く
タンポポが石の割れ目に咲く命
ライオンにライバル心を燃やすボチ
雑草も食べた昭和の底力
白寿でも老後に備え貯金する
パワフルな噂流した若かつた
佳句

あのねあのねと堂々の朝帰り
パワフルなペン真実を掘り起こす
鳴り響く第九命を搖すられる
パワフルだなあ泣き虫を笑わせる
君の眼がずどんと胸を打ち抜いた
投げ出した手足がどこまでも延びる
太陽のパワフルにみな生かされる
オバちゃんが走るチラシにマルつけて
天 地

佐賀県 真島久美子
西予市 黒田 茂代
松山市 栗田 忠士
倉吉市 大羽 雄大
樺原市 居谷真理子
黒石市 北山まみどり
香芝市 大内 朝子
奈良市 大久保真澄

令和です靴下よりも強くなる

スーパー教室

題一 スーパー

水野 黒兎

今回の題スーパーではスーパー馬力ケツトしか思い浮かばない難しい題でしたが丹念に辞書などで調べたと思われる佳句が寄せられ感心しました。

以下、☆は皆様の句、★は参考句です。

☆スーパーで胸に若葉のレジ係 洋子
意味をもう少し分かり易くするために
★スーパーにも若葉マークのレジ係
以下の四人の方は3句とも異なった意味
のスーパーの句に挑戦されていますが、各
人1句だけを取り上げてみます。
☆スペコンよ僕の余命を出せないか

和夫

逆の意味の句にするのもありますね。

★スペコンに余命計算などさせぬ

☆あこがれをすうと手ぬけスーパーへ

マン

名都子

★スーパーに妻のメモ持つ夫たち
☆値上げ値上げ店長苦労しています

多くの分野において素晴らしい能力を発揮する女性のことをスーパーウーマンと呼ぶようですね。手助けの内容がわかると良いですね。字余りは最初に置くと口調が良くなります。

★店長も苦労スーパーまた値上げ
★スーパーで割り引きのシール待つて6時前
☆割り引きのシール待つて6時前尚

★スーパーで割り引きになる助言
★スーパーで割り引きを待つ6時前
☆日向ぼこ 移動スーパー 待つ広場
★日向ぼこ 移動スーパー 待つ広場 邦夫

★スーパーで割り引きを待つ6時前尚
☆日向ぼこ 移動スーパー 待つ広場 邦夫

尚 次

★スーパーで既月食つぎは
☆スーパーで既月食つぎは 閑

さて次は? 少し弾けてみませんか。

★スーパーで既月食つぎは僕らのハネムーン
☆子育てに 仕事忙し スーパーママ

575は原則として一字空けにしないでOKです。いい場面の句ですね。

★日向ぼこ 移動スーパー 待つ広場
☆助かります移動スーパー老いの村

★老いの村移動スーパー待ち焦がれ
☆食べ過ぎを誘うスーパー特価品

★食べ過ぎを誘うスーパー特価品
☆セール品つい食べ過ぎて食事制限

行久 弥生

風露 のりひろ

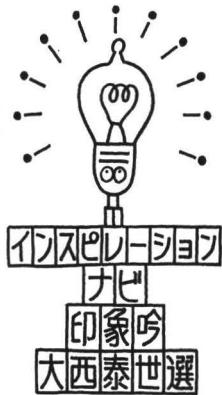
★スーパーで既月食つぎは僕らのハネムーン
☆日向ぼこ 移動スーパー 待つ広場

百合 律子

風露 のりひろ

滑り台ではスーパーに物足りないので、もっと派手なものに変えてみます。

★スーパーで既月食つぎは僕らのハネムーン
☆日向ぼこ 移動スーパー 待つ広場 尚次



(投句 186名)

ロシアのウクライナ侵攻
から早くも一年が来ようか
と言う矢先に、トルコ、シ
リアで起きた大震災。

現在の死者は四万人強、
まだまだ増えていくのは必至、救済の手
が届かない中で、寒さや飢えとの戦いを
思うと、神の存在を疑つてしまつ。
瓦礫の下から一人を助け出す戦いと、
片やミサイルで多数を殺戮する行為。
戦争なんかやつてている場合か、と叫び
たい。

では、ナビを。

ありがとう育ててくれた麦御飯
(評) 貧乏人は麦を食え、なんて時代も
ありましたが、今は健康に対し意識の
高い人が食べています。麦御飯万歳！

奈良県 長谷川崇明
朝霞市 前田 洋子

ピカピカのお賽銭です神様あ

(評) 神様あ、とピカピカのお賽銭を入

れるくらいしか庶民に出来る事はないの
です。戦争も物価高も止めて下さい。

大阪市 高杉 力

恋しくて大きくなつたのぞき穴

(評) 恋しい相手を見たいがためについ
つい大きくなつてしまつた穴、なんとい
うケナゲなこと。

男鹿市 伊藤のぶよし

願いごと平和がなけりや始まらぬ

(評) 本当にこの通り、平和でなければ
個人の夢や生活なんて吹つ飛んでしまい
ます。防衛費ばかりが増えるのは不安。

大阪市 岩崎 玲子

卒婚は辞書を引いてもありません

(評) 卒婚つて女性が望む場合が多いら
しいですね。家事や様々なしがらみから
解き放たれたい気持、分かるなあ。

札幌市 三浦 強一

通帳にお利息ですとある五円

(評) 今どき五円で何が買える思てんね
ん。だいたいお利息なんてこ大層なコト
バ使わんといでナ。

倉吉市 牧野 芳光

日本を支えています一庶民

(評) 一庶民としてのささやかな誇り、
これが報われない社会なんて。今の政治
家を見ていると心が萎えてしまします。

大阪府 米澤 俊子

絶好のチャンスに傘が開かない

(評) 今やでえ、と思う時に限つて失敗

してしまうこと、ありますワ。練習に練
習を重ねていても、アレなんて。

松本市 大内せつ子

ピアス穴です ずいぶん肩が凝りました

(評) これ、軽いか重いかよりも意識の
問題。慣れると平気なのですが、ピアス
穴がついた気になつてしまふですね。

大阪市 岡田 恵子

春色のクレバスで描く恋模様

(評) 全てが春という季節であふれてい
ます。その舞台で繰り広げられる恋模様
とは、気になつて仕方ありません。

豊中市 藤井 則彦

プラボーラを聞いては覗く遠い夢

(評) 高槻市 松岡 篤
侵略が無しとは言えず米備蓄

松本市 郷田 みや

コインストス裏も表もきつと吉

羽曳野市 徳山みっこ

買い負けてお米がパンになりました

弘前市 福士 慕情

寺社巡り小銭入れには五円玉

寝屋川市 川本 信子

針穴を覗けば母の居た昭和

米子市 八木 千代

大吉を差して戻りの稻荷道

笠岡市 藤井 智史

はちまきを締めて千本桜咲く

大阪市 平井美智子
イケメンと隣り合わせになる電車

ローン済みひとりになつたマイホーム	三田市 大西 重男
ドーナツの真ん中なぜか穴がある	防府市 坂本 加代
繋いでもいつかは逃げていくオトコ	鳥取市 福西 茶子
手作りの迷子札着けウォーキング	西宮市 高瀬 霜石
夢じや夢じや右肩上がりなんてさあ	弘前市 亀岡 哲子
気合いだけは十分だった初参加	尼崎市 近兼 敦子
小麦が無ければ米粉でいいじゃない	河内長野市 森田 旅人
華のある駅伝箱根路のカイロ	松本市 栗田 忠士
オーナークションエラーコインに期待する	東大阪市 青木ゆきみ
二期作でお米増産しましょうよ	三田市 堀 佐賀県
赤い糸色が褪せてても赤い糸	神戸市 柳田かおる
日向ぼこしても懐なお寒し	唐津市 前田 廣幸
正装で賽銭箱に入ります	大阪市 井丸 昌紀

豊作の米でにぎった塩むすび
縁起物財布の隅でじつとして
用なしにされたよ豚の貯金箱
裏表見せ強かに世を渡る

熊本市 杉野 雪菜
大阪市 石橋 直子
河内長野市 中島 一彌
奈良市 山下 凱柳
鳥取市 栃尾 羅天
枚方市 奏子
米子市 伊塚美枝子
大阪市 古今堂蕉子

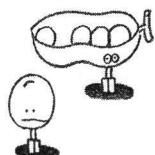
キヤツシユレスお金の出番ありませぬ
未来図を描く少女の神頼み
嘆くより縁もお金も先ず溜める
家丸ごと断捨離せねば間に合わぬ

加齢だと言われに行くのお医者様
何もかも飲み込み闊歩する大地

電線にブラリ昭和の奴
天狗の鼻チヨンと斬りたい反戦派

豊作の祈願ドーンと笛太鼓

5月号発表
(3月15日締切)



(平本 霧石人 画)

川柳塔鑑賞

同人吟 内藤憲彦

—2月号から

視点変えてみてもやはり苦手な人でした
なるほど。天下無双に見えても苦手な
人が居るんですよ。いくら視点変えて
も、やはりお互い人間だものね。

「**ラボ**ーと言える一年努力する

川本信子

W杯の長友選手、侍ブルーから元気を頂いた。あの熱量技量を見習い、我々も良い年にして。努力も要るけど。

うさぎ年コロナ蹴飛ばす心意氣

日本も、第5類へウイズコロナへと大きく舵を取る。マスクを掛けたり外したりして、リストアートするうさぎ年となる。

病む地球ウルトラマンは匙投げる

経済優先ばかりで病む地球。匙を投げられたらしい。だから天からコロナオミクリトンを、地上に遣わされたらしい。

大関が勝つと何だかホツとする

初場所は、大関貴景勝が平幕をねじ伏せて優勝。ドングリの背比べの熱戦も面白いが、やはり横綱大関の優勝は縮まる。

笑い袋は効果観面でしょう。笑うと、つられて僕が笑う。する袋がまた笑う。温まると思います。

食料危機へ昆虫食が推奨されている。中でもコオロギが有力らしい。今から工ビ煎餅で練習しておきましょ。うか。

アフガンに中村哲追悼広場が完成した。かのタリバン暫定政権も功績を認め死を悼んでいた。思ひはつばつつゝ。

ノーを言わないうほうが進化がきっと早いと思います。ちょっと無理しているところが効けていらっしゃると思います。

あの光景一一七巡り来る
悼んだという。思いはつながつてい

ちつぽけな悩み水平線しづか
周りが助けてくれると思います。

あの光景一・一七巡り来る

ちつぽけな悩み水平線しづか

あの大地震災から28年。神戸垂水の両親が、名古屋の僕の家へ命からがら転がり込んで涙を流した。毎年思い出す。
二年間笑つてないが皺増える

海へ行き水平線を眺めるほとのセンスはありませんが、天王寺ハルカスなどか高い所へ上がって解消しています。

東敏郎

磯島福貴子

コロナの棘が刺さつたまんま年を越しました。ほんとうに心から大きく笑つて、少しでも皺を減らしたいですね。

今年4月には、日本の民間企業も月面着陸する予定。前澤氏の月旅行など宇宙ビジネスが日本でも騒がしくなりました。

暮しかり笑ひ集を出、一木く

大内朝子

少子化に因る財産人と知る

中井 崩

病なし米寿でビール酌二杯

吉田 孔美子

川本 真理子

2100年には6000万人と人口が半分になる。労働力、年金不足など多難。異次元の少子化対策と言い出したけど。

心からのお詫びが伝わらぬ政治

笠 重耕 三

この句も元気を貢えました。校正編集業務終わりのプラット一杯と同じ量ですよ。僕が米寿になつて呑めるかどうか?

「ありがとう」夫が病院から電話

中村伸子

うらやましいです。優しいお気持ちはいっぱい。病気の疲れ、看護の疲れに、お互いの心に沁みたことだと思います。

友が逝く目刺し一匹分けた仲

村田 博

女性や子供まで犠牲にする悪逆無道な戦争がまだ続いている。一日でも早く春が訪れますように祈っています。

断捨離の次の時代は物不足

菊地政勝

ぜいたくな断捨離志向の時代は終わりです。資源枯渇、輸入価格暴騰などで物不足の時代になるところ指摘。正に慧眼。

考えるだけじゃちつとも進まない

坂 裕之

総理だけが言う「課題に躊躇なく取組み、信頼と共感」に対し、具体的なスケジュールと実行だと怒つておられる。

一人だとこけやすいので手をつなぐ

藤井宏造

単独行動は危ない。自分でこけるかも、誰かに包丁で突然刺されるかも。近頃はだれかと手をつないでおくと安心。

新しい波避けようか乗つかろか

永見心咲

卯年は「飛躍」と「向上」の年らしいので、できるだけ新しい波に乗つかろうと思つています。

説明責任を果たすと言いながら、記憶なし、記録無し、嘘をつく。大臣辞任、議員辞職しかり、お詫びが響かない。

口めぐりの格言いつもおこつてる

これぞ友。3年前に逝った友に麻雀で、マイ61と負けた最後の「成績表」を、僕は今も大切に持っています。

山茶花が歩幅5センチ広げろと

石田孝純

歩幅5センチはビッタシですね。これを意識するだけで、背中が伸びて足が伸びて、身体に良いこと間違ひなしです。

この値上げ家計簿投げて妻怒る

藤井宏造

単独行動は危ない。自分でこけるかも、誰かに包丁で突然刺されるかも。近頃はだれかと手をつないでおくと安心。

八十路坂人生ゲームこれからだ

藤原久直

妻が、背後で「今に見ていろ」と私に向かって、シャドーボクシングをしている光景を想像してしまいました。

元気を頂ける句で、ありがたいです。あと20年ぐらいあれば、いくつかの目標達成ができそうですね。

食パンが上がり、電気代も上がる。奥様のお気持ちは凄くわかります。八つ当たりは困るけど。

卯年は「飛躍」と「向上」の年らしいので、できるだけ新しい波に乗つかろうと思つています。

水煙抄鑑賞

—2月号から

福西茶子

配るものないので笑顔配ります

延寿庵 野 霽

笑顔を見て怒る人は先ずいません。笑

顔つて最高のプレゼントですね。幸せな

気持ちになり、嬉しくなります。

メガネからはみ出す笑みへ人が寄り

岡村 風琴

頬骨が眼鏡の下から盛り上がるような

笑顔。下五がとても上手いと思います。

裕福になつた野菜を貰つた日

花岡順子

鍋、浸し、炒め物。野菜は何にでも化

ける万能食材。嬉しくて娘にもお裾分け。

八十を越えた頃からよく転ぶ

中筋弘充

ちょっとした段差、小さな石ころ。若

い時は何でもなかつた物が凶器に。急が

ずゆつくりがモットー。

両肩を揺すってみても出ぬ気合

西沢司郎

宗和夫

気合いだ！ 気合いだ！ と拳を突き出し
ていたのは昔のこと。ゆつくりとストレッ
チなどで鍛えましょう。

人生は楽しくゆこうパーを出す

今村和男

アツそうですね。パーは何でも包みま
すね。楽しい話、宇宙の力を一杯つかみ

取りましょう。

臓器提供使い古しでいいですか

岡田恵子

何でもリサイクル時代です。堂々と提
供してお役に立ててください。ただし、

年齢制限があるかどうかは・・

盛り過ぎた言葉ちらかる披露宴

喜多村正儀

えツそんな立派な人だつたかなあ。盛

り過ぎと違いますか？ イヤイヤこれも大

切な社交辞令です。

肩の荷の残りひとつが下ろせない

郷田みや

残りのひとつは何でしようか。きっと

重いものでしようね。下ろしたら思いつ

きり翔んでくださいね。

私はないかも知れぬ羞恥心

西川千鶴

ハイハイ同感です。長年培つてきた経
験で面もハートも動じなくなっています。

それこそ老人パワー。

発熱外来予約取れたら熱が引く

本当に的を射た時事川柳ですね。中々
電話がつながらない。コロナだったのか、
ただの風邪だったのか。

「黒髪」と但し書きあり巫女募集

長尾千賀

関係ない？ 巫女募集のチラシよく見つ
けましたね。思わず笑つてしましました。

黒髪の若い女性、希少な存在です。

てにをはの辺りで妻が尖つてる

白谷よしみ

男性にとつてはどうでもよい事でも、

妻にとつては結構重要な事。奥様を怒ら
せないように・・

犬好きが犬に挨拶して通る

河南すみえ

散歩道でよく出会う犬。飼い主さんの

顔は覚えていないけど、ワンちゃんとは

互いに近い仲。私もです。



新家完司のせんりゅう飛行船



孫の句もおもしろい

作句上のアドバイスの一つに「孫の句は作らない方がいい」と言われることがあります。これは「孫は可愛いものだから、どうしても自慢臭い句になる」ということ。教訓や標語のように「良いことを言つてはいる句」も面白くありませんが、「自慢している句」も白けてしまします。

おじいちゃん外で遊べと孫が言う
帰つたら手を洗おうと孫が言う
自分には甘いと孫が指摘する
かわいいと言わねば怒る孫娘
ああ言えばこう言う孫が出来上がり
はきはきともの言う孫の歯が抜けた

細川 花門
土橋はるお
見山 温子

堀 正和
森下 順子
佐々木トミエ

しかし、孫も友人知人と同じように重要な川柳の対象です。から、右のように冷静に客観視すれば面白い句になります。また、オトナは忖度して言葉を選びますが、子どもは思つたことをそのまま言うのでときにはドキッとさせられます。

僕も孫もご先祖様の眉をもつ
メンデルの説が正しい孫の鼻
ああ嫌だ孫に移つた歩き方
DNA確かに孫はよくしゃべる
DNA孫もどうやら祭り好き

小島 蘭幸
松方 尚義
稻見 則彦
楠見 章子

隔世遺伝というのでしょうか、子よりも孫の方が祖父母に似ていることがしばしばあります。それも良いところが似て

いればいいのですが、ゲジゲジ眉とか団子鼻とか歩き方など自分でも少し気にしているところだと、何やら自分にも責任があるようで苦笑するしかありません。

充電中孫がドタバタやつて来た

孫が来て無口の夫婦かき回す

菓子玩具だけでは釣れぬ孫となり

成長の証か孫は顔見せず

おこづかい貰うとすぐに帰る孫

孫の部屋用意したのに来てくれぬ

友人のように「今からいいですか?」と一言連絡してくれ

るとあれこれ準備も出来るのですが、孫は遠慮などせずにきなりドタバタやつてきて引っ搔き回すので大変です。

そのような孫も中学生ともなればなかなかやつて来ず、たまに来てもお小遣いを貰うとバイバイ。それはオトナへの第一歩なのですが、祖父母としてはいささか寂しいところ。

簡単にお願いします孫自慢

孫自慢早くお帰り願いたい

くどくどと猫も座を蹴る孫自慢

写メールにしてまで孫を見せたいか

孫自慢するほどでない孫二人

滔々と孫自慢する人は善人なのですが、こちらが引き気味

であることに気付かないちょっと鈍い人が多いようです。

また、自慢話は少し聞くだけですぐに満腹になり、「もう充份です」と言いたくなりますが、自分の孫のことになると

田賀八千代

奥村 五月

藤本 直

井伊 東吉

秋貞 敏子

安藤寿美子

伊津野善子

中平 亜美

山崎三千代

安黒登貴枝

森下より子

中筋 弘充

最近、郵便着くの遅くない？

藤田武人

最近、投句締切などの呼びかけで「郵便事情が悪いのでお早い目にお出しください」とあります。また、柳誌発送などでもご迷惑をおかけしております。

郵便事情が悪くなつたのは、様々な背景と時代の流れであります。まず、故・安倍首相による働き方改革の大きな柱は、同一労働同一賃金、長時間労働の是正、高齢者の就労促進等です。また、会社（郵便局）の状況として、郵便に対するニーズの変化、労働環境の改善の必要性、労働力シフトの必要性等。労働力シフトについては、長期的な労働力不足もあります。このように政府と会社側の思惑が一致し、郵便サービスの改正を行いました。

サービス改正には、法律の改正、すなわち郵便法の改正が必要となり、国会の改正法案賛成後、省令を発布し今に至っています。

主たる改正は「送達日数の繰り下げ」「土曜日配達の廃止」がメインとなっています。

2月7日本社句会の「お話」では、郵便物の流れや日数表の変化を説明しました。一番お知りになりたい送達日数（お届け日数）の繰り下げにつきましては、下の表を参考になさつてください。

お届け日数の繰り下げ

2021年10月以降、普通扱いとする郵便物及びゆうメールのお届け日数を1日繰り下げます。

○現在おおむね17時までの差し出で

翌日配達の地域宛

引受日	配達曜日		
	現在	➡	見直し後
月	火		水
火	水		木
水	木		金
木	金		月
金	土		月
土	月		火
日	月		火

○現在おおむね17時までの差し出で

翌々日配達の地域宛

引受日	配達曜日		
	現在	➡	見直し後
月	水		木
火	木		金
水	金		月
木	土		月
金	月		火
土	月		火
日	火		水

「初心者の知らねばならぬこと」より

—著名川柳人に訊く—

「川柳雑誌」（昭和27年5月号）

○ 没句検討

須崎 豆秋

ふざけ、茶化し、出たらめ気分

○

岡橋 宣介

ました。私は同情は致しますが、いくら
急いでもそれより方法はないと申しま
した。

一、川柳について初めにあまり難かしく考
えぬこと。だが、

二、誰もがとつつき易い短詩型文藝である
から、短時日で一応の作句修練は出来る
が、器用さの安易に甘んじないこと。「器
用」に頼ると川柳文藝を甘く見る結果、
自惚れる、増上慢になり進歩が止まる。
或は川柳を軽蔑して厭になる。

○川柳をやさくみないこと。
○「人」をつくること。

○川柳入門と同時に（或はそれ以前に）俳

句を身につけておくこと。

○

堀口 塙人

自分の思想を

自分の言葉で

○広く知つて深く作ること。

○初めて最近の川柳を知つたと言う今年

六十五才のA氏が、どうすれば早く人

並になれるかと聞きました。

○私は、まず古今の短詩を涉獵して、いろ

／＼な表現方法のあることを知り、そ

の中の自分の好む方法に準じて毎日一

句以上を作つて下さい、と答えました。

○A氏は、自分は年をとつてゐるから、そ
んな悠暢なことをして居れないと言い

初心の頃は誌上や句会で、なんでもない
と思つていた句が抜けて自信の句が没に
なつたりして、腑におちぬことをよく経験
するのですが、こうした場合には選者や
先輩に聞くとか自分で考え直して見るな
りして、何故没になつたかをよく検討して
作句の進境をはからねばなりません。小人
数の句会などであれば、選者に没句につい
て説明して貰うのもいいことでしよう。

○

川上三太郎

一日一度川柳をおもい

一日必ず一句を得よ

わが句はわが子

愛して誇るな

○

尼 緑之助

自由ほんぱうに――

笑はれそだとか、けなされそだとか

脅々としては駄目

禁物は――

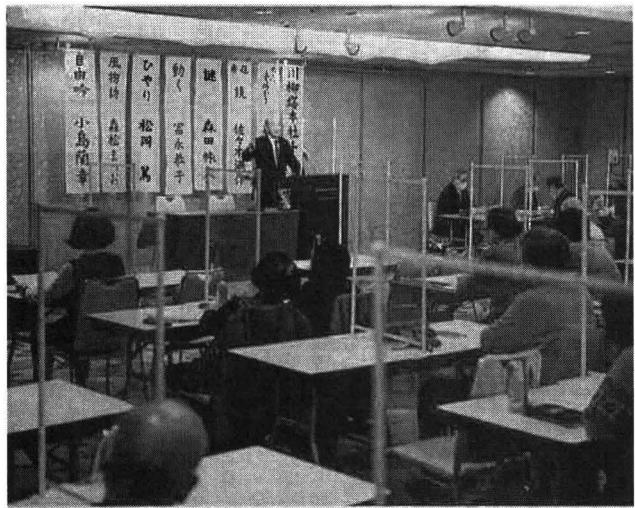
生活感情を重んじる事

○

村田 周魚

四、多読多作は、どの先輩も云うことであ
るが、真理である。凡ゆる傾向のものを
読み、理解を深め、然后自分の最も正
鵠と信ずる方向に信念を確立して進む
こと。と云えれば固苦しいが、要するに自
分の最も好きな方向に進むことである。

昨年12月7日本社句会に、共同通信社・上野敦氏が新葉館出版・松岡恭子氏の紹介で取材に来られました。以下の記事は、2月6日「山梨日日新聞」からの転載です。なお、「秋田さきがけ」「福島民報」「福井新聞」「岩手日報」「新潟日報」「山形新聞」「中国新聞」「山陰中央新報」にも掲載されました。(編集部)



「川柳塔社」の句会

大阪市天王寺区のホテル

「川柳」句会で 心生き生き

五七五、17音で成る川柳は、俳句と比べて約束事が少なく、作品が扱う間口が広い。失政を「ちくつ」と風刺したり、日常の風景を「くすつ」と笑ってみたり。花鳥諷詠に「むむ」となることも。この身近な文芸の今を探ってみた。

新聞投稿も

大阪市のホテルで開かれた「川柳塔社」の句会におじゃますると、高齢の参加者たちがにぎやかに歓談していた。「謎」「動く」といった題に沿って投句された参加者の作品を選者が選び、発表していく。妻や酒、老いといった日常が詠まれ、時折会場から笑いが漏れる。ウクライナでの戦争、五輪汚職などを扱った句もあった。

川柳塔社は大正期に設立され、100年近い歴史を持つ結社。編集人の桑原道夫さんによると、新型コロナウイルス禍の影響で句会が開けない時期があつたが、参加者の数は元に戻りつつある。川柳の創作と発表に加えて仲間に会えるという楽しみがあり、かけがえのない場となつている。

「句会は心を活性化してくれる。見学するだけでも大歓迎してくれます」と話す

のは「川柳マガジン」発行人の松岡恭子さん。同誌は結社の連絡先や句会の情報を多く載せている。一方で「あまり出歩きたくない」という方には、新聞や雑誌の川柳欄がある。その方のタイプに合った始め方でよいと思います」とも。

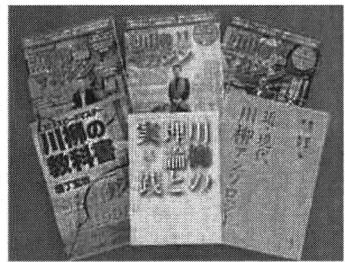
新聞の全国版では時事川柳が目立つが、松岡さんによると川柳全体の主流ではなかった。ここ20年ほどの間に、時事詠の価値が見直されていっているのだという。同誌は「回文川柳」「洒落川柳」といった多彩なコーナーを設け、雑詠の選から漏れが

先人の川柳作品の例

「近・現代川柳アンソロジー」新葉館出版より

実在の矛盾で皿が洗われる	根岸 川柳
聖書一冊薦一輪の二階也	麻生 路郎
三尺の机広大無辺なり	村田 周魚
何かこう樹の芽に物を言いたい日	川上三太郎
基督のやうな顔して饅みる	岸本 水府
七福神みんな笑うと気味悪し	前田 雀郎
寒そうな他人の顔のわが寒さ	延原句沙弥
元旦の豊早速酒を吸い	時実 新子
約束の場所に他人が立っている	尾藤 三柳
雨一夜すこし身になる雅語辞典	柏原幻四郎

参考書、「川柳の理論と実践」など



出典「共同通信配信記事」

ちな句を幅広く拾
おうとしている。

全日本川柳協会
の理事長でもある
小島蘭幸さんに、
初心者向けに作句
のコツを尋ねると

岡さんは「例句が多く掲載されているものが良い」と話す。松岡さんや栗原さんが「入門者でも、既に始めている人でも役立つ」と教えてくれたのは新家完司著「川柳の理論と実践」(新葉館出版)だ。

家さんは同書で「今の自分の姿、今
の自分の想いを表明する」という目標を抱くことを勧める。それは思う
ように句が作れなくなつた時の支え
になると説く。読み進めると「良い
川柳は、体験と体感から生まれる」
「先入観は観察の敵」「創作の敵は『無
関心』」といった箴言の数々。川柳
にとどまらない、日々の指針にもな
りそうだ。

日々の指針

「リズム良く詠む」「言いたいことを全部
は書かない」「匂を逃さない」と三つのポイントを挙げてくれた。「時事的な題材を
扱っていても、全く古びないすごい作品
もあります」

第46回全日本川柳 2023年広島誌上大会

投句 令和5年5月31日(水)締切

題と選者

一般(高校生も含む) 部門

「ワ イ ド」 門脇 かずお 選(鳥取)

「領 域」 今田 久帆 選(静岡)

「鳩」 鈴木 順子 選(愛知)

「川」 小笠原 望 選(高知)

「坂」 川崎 信彰 選(千葉)

「映 画」 高瀬 霜石 選(青森)

「乗 る」 田辺 与志魚 選(広島)

「乗 る」 田辺 与志魚 選(広島)

ジュニア(小中学生) 部門

「平 和」 仙波 草苑 選(愛媛)

「渡 る」 西 恵美子 選(宮城)

「ペ ン」 小梶 忠雄 選(滋賀)

「平 和」 仙波 草苑 選(愛媛)

岡崎 守(北海道)
安藤 波瑠(東京)
矢沢 和女(兵庫)
渡辺 松風(秋田)
赤松 ますみ(大阪)

第二次選者

専用用紙のない方は2×16cmの句箋紙一枚に一句を記入、各題二句無記名。封筒の裏面に住所、氏名明記。

投句料 二、〇〇〇円(定額小為替・現金書留)を同封して左記あてに郵送または郵便振替口座へ送金のこと。

(当日消印有効) 小中高生は投句料無料。

投句先 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北

1の11 ステップイン南森町905

一般社団法人全日本川柳協会 宛

電 話 06(6352)2210

F A X 06(6352)2433

郵便振替口座 00970-9-3575

外堀を埋めて守りを盤石に	坂 裕之	近寄るとあなただと逃げる母	敏森 廣光	真っ黒に近いグレーの朝帰り	川端 六点
日本捨て海外移住するヤング	坂上 淳司	ご近所はボツンボツンと一里先	島田 明美	墓仕舞い近所の寺へ呼ぶ先祖	矢倉 五月
日本の土地が外資に虫食まれ	水野 黒兎	絶滅の危機近付いてるヒト科	柿花 和夫	遠距離の恋愛はやっぱりつまらない	島田 握夢
人	川端 六点	学校の隣に住んでいて遅刻	稻葉 良岩	行きつけと言つてるけれど近いだけ	
コメントーター部著だから好きなど	坂上 淳司	お隣と長電話するお付き合い	上田 和宏		
地	水野 黒兎	近くまで来ても寄つてはなりません	島田 明美	正解に極めて近い不正解	今村 和男
外は雨うちは嵐の遺産分け	水野 黒兎	砂かぶりの和服の美女が気にかかる	森田 旅人	ひつそりとお傍で咲いていいですか	山崎 武彦
軸	荻野 浩子	近づくほど点しか見えぬ点描画	糸谷 和郎	いい事が近々やつて来るらしい	坂 裕之
外野からばかり吠えてるアカンタレ	水野 黒兎	球根の丸さに春はもう近い	鴨谷瑠美子	永久歯生えて脱皮の日も近い	木本 朱夏
三年振り嬉嬉としている外野席	水野 黒兎	義理チョコをいただいてから近くなる	小島 蘭幸		
兼題「近い」 中村 惠選	水野 黒兎	どきどきが聞こえはせぬか近すぎる	山田 耕治	あの世など公民館の裏あたり	新家 完司
すぐ横でほほえんでいた青い鳥	平井 美智子	すぐそばでじっくり見つめたらアカン	富永 恭子	退院は間もなく放つ千の鶴	山野 寿之
ふる里を友の訛りが近くする	水野 黒兎	距離感の近戸惑う初対面	青木 隆一		
忘れましょ5分たつたらもう明日	居谷 真理子	おお怖い軍靴の響き近くなる	藤井 宏造		
近すぎて妻の長所がわからぬ	平松かすみ	すぐ傍でにやりと立つて老化的	平井 美智子		
結婚は近いうちにでもう五年	斎藤 隆浩	爆発した母ちゃんちょっと近寄れぬ	森 菊江	子の未来近道だけは教えない	油谷 克己
駅近くへ引越しをする老い二人	奥澤洋次郎	ぴつたりと背中合わせの魔女淑女	柄尾 奏子	天	
近いから立ち寄つて行く古本屋	恵利 菊江	水音の近さと吐息がでてしまう	たむらあきこ		
近道をとり渋滞に巻き込まれ	伏見 雅明	這つても帰れるとこに飲み屋さん	新家 完司	もどかしい思いこんなに近いのに	
近過ぎて自分の鼻がよく見えぬ	太田 昭	陸橋を行けば近いと言われても	米田利恵子		
近すぎて手先届かぬ背の痒み	糸谷 和郎	タクシーを呼ぶには近い診療所	萩原 狂月	訳ありを加工で生かす農の知恵	北野 哲男
		不良品と違うワケアリですという			米田利恵子
		爺ちゃんの不良元気な証拠です			大内 朝子

成熟の不良気になる我が余生

藤井 則彦

不良から更生世界チャンピオン 油谷 克己

ちょいワルを未だに氣取る寂しがり 輸

手足腰多少不良も全自動

長谷川崇明

育ち過ぎは不良とされる野菜たち 水野 黒兎

きとうこみつ

ぐれてたが人を殺めたことはない

上田 ひとみ

整備不良とり替え部品ありません 古今堂蕉子

仁部 四郎

呑助のカルテ栄養不良なり

澤井 敏治

不良ぶる少年の意気秘密基地 上田 和宏

川本 信子

不良でも人気があつた人情派

平松かすみ

爺ちゃんもちょっとと不良がよくもてる 川端 六点

立藏 信子

不良品の方に仕分けをされている

青木ゆきみ

盛り場にいても不良と限らない 川端 六点

高杉 力

悪妻じやないの悪妻です 私

伊達 郁夫

電池切れのわたくし不良品かしら 川端 一步

木嶋 盛隆

傷一つ付いてリンゴは不良品

森 廣子

賞味期限切れたぐらいいは気にしない 川端 一步

藤田 雪菜

昔むかし番長だった好好爺

島田 明美

体調不良今日は主婦の座ゆずります 折田あきこ

島田 握夢

元不良今は立派な補導員

鈴木いさお

不良ばあちゃん気力体力金もいる 宇都満知子

立藏 信子

織りむらがあるから買った一張羅

居谷真理子

熱爛ならリズム整う不整脈 佳

澤井 敏治

エレキギター弾いて不良と言われた日

古今堂蕉子

チヨイ悪のオヤジになって羽ばたいた 西上 遊二

川端 一步

視界不良いやこれも加齢です

今井万紗子

うららかに視界不良の花霞 木本 朱夏

青木 隆一

大臣になつて見つかる不良品

奥澤洋次郎

終章はやんちゃな風と踏むマンボ 桑原すゞ代

田中 廣子

エラー切手エラーコインに付く高値

村田 博

ワルと思っていたのにどこか合う波長 たむらあきこ

藤田 武人

不良品ださぬ覺悟の町工場

森田 旅人

札つきのきみに溺れるこれも恋 たむらあきこ

高杉 力

荒野のならず者戦地のし歩く

小島 蘭幸

ジエムスティーン拗ねた瞳が好きだった 加藤江里子

齋藤さくら

不満仲間はみな出世しておりました

澤井 敏治

売り言葉に麻生太郎は喧嘩腰 地

田中 廣子

不良少女一皮むけて二児の母

水野 黒兎

不良餓鬼の悲しそうな日夕間暮れ 奥澤洋次郎

今井万紗子

返すあてあるか疑問の国ツケ

村田 博

少子化に売り場の減った子供服 水野 黒兎

高杉 力

スッと立ち席を譲つたりーゼント

柄尾 奏子

味気ない時代ネットで福袋 ぶつてるが本当は親が好きなんだ

齋藤さくら

議員席欠伸居眠り恥を売り

現品限りつて次々出してくる

仁部 四郎

「売ります」その気にさせるコマーシャル 川本 信子

ハウマッチ売り言葉なら買いまつせ

島田 握夢

縁日に売り子の声でついひとつ

物売りの声いまや昭和の風物詩

澤井 敏治

「売ります」その気にさせるコマーシャル 川本 信子

宝くじ売り場の景気いいのぼり

田中 廣子

乙羽信子えくぼが売りの大女優 鈴木いさお

安売りは元氣がないと行けません

齋藤さくら

押し売りに勝つよ大阪のおばちゃん

少子化に売り場の減った子供服

今井万紗子

宝くじ売り場の景気いいのぼり

少子化に売り場の減った子供服

高杉 力

宝くじ売り場の景気いいのぼり

少子化に売り場の減った子供服

齋藤さくら

宝くじ売り場の景気いいのぼり

少子化に売り場の減った子供服

高杉 力

勞わりを売っていますと涼しい瞳	柄尾 奏子	売り尽しセールの文字が呼んでいる	青木ゆきみ	見舞い客健康自慢して帰り	島田 明美
粗食にも耐えられるのが僕の売り	新家 完司	売り声に郷愁とうふ屋のラッパ	荻野 浩子	通夜の席株価の話しだす友	伊達 郁夫
売り物じやないと言われりや欲しくなる	斎藤 隆浩	僕の売りシヤイで無口で人見知り	新家 完司	読経中何食べたいと妻の声	田原 康雄
雑学を売り歩いてる評論家	柿花 和夫	人		着メロが八木節だった葬儀場	両澤行兵衛
一人ではうろうろ出来ぬこの売り場	木嶋 盛隆	押し売りもへつちやら妻がいてくれる	川端 六点	泣きもせず笑いもせずスマホ族	平井美智子
夢売りの駅の切符はさくら色	中村 恵	地		熱戦のグランドに猫迷い込む	初代 正彦
ゴシックで詩人と書いてある名刺	居谷真理子	肩書きを裏面にまでも刷つて売る	酒井 健二	熱戦へエラー追し出ししかくし球	川端 六点
安売りはしない遅咲きなんだから	桑原すみ代	売れるかも知れぬ鑑定団に出る	小島 蘭幸	残星の数は負けないタイガース	長谷川崇明
へべれけで覚えていない売り言葉	荻野 浩子	軸		飲み会へわざと遅れてくる美人	小野 雅美
初競りの大間まぐろが三千万	坂上 淳司	尻尾振り金魚媚を売つてている	乾杯はひと言だけでいいのです	乾杯はひと言だけでいいのです	山崎 武彦
直接で得意の喉を張り上げる	両澤行兵衛			常連と板前話し込んでいる	青木 隆一
ペットショップ売られる子犬よく懷く	今井万紗子				大久保真澄
売り言葉大阪弁で買いました	古今堂蕉子	兼題「しらける」	新家 完司 選	水鳥の里の自慢は鴨料理	斎藤さくら
Ｔシャツを売りしているゼレンスキ	藤井 宏造	餌別をもらい転勤やめになる	伏見 雅明	鍋囲みさあと思えばボン酢ない	青木ゆきみ
コロナ下の商売人は死んだよう	古今堂蕉子	落選で会釈返さぬ人になり	仁部 四郎	大声で説教しての酒の席	坂上 淳司
この国の売りは9条ですやんか	居谷真理子	お土産を買うのも公務公用車	水野 黒兎	ボスからの電話に熱爛も冷める	初代 正彦
売り出しの若い女優は目がきれい	田中 廣子	また同じゴピペうんざりだよ総理	割り勘へ二杯も飲むか森伊藏	少しならうけると言つて底がない	谷口 東風
売れば売るほど嫌われる媚びである	藤村 亜成	反省をしますと政治家ののつべらぼう	カラオケに下手な科白が入つてる	山田 耕治	谷口 東風
売り言葉受けて立つたら目がパンダ	田原 康雄	回答は善処しますともう三度	長谷川崇明	何故かしら男同士で観覧車	木嶋 盛隆
くちコミのパン屋焼きたて売り切れる	立藏 信子	異次元の子育て支援笑つちやう	木本 朱夏	上手くもないのにマイクを離さない	鈴木いさお
慣れているのか淀みないプロポーズ		慣れているのか淀みないプロポーズ	小野 雅美	祝辞中デカイ音たて鼻をかむ	山下じゅん子
自慢話のつべらぼうできいている		回答は善処しますともう三度	酒井 紀華	ネタバレと知らず演じている手品	桃谷 和郎
ブーチンに喧嘩売られたウクライナ	長谷川崇明	木本 朱夏		動員のサクラの拍手パラパラと	松岡 篤
売りものと言われてわたし育てられ					
平松かすみ					

お歳暮にまぎれ込んでた領収書 緒方美津子

容姿端麗に限ると念を押したのに 島田 握夢

妹と間違えられて誉められる 島田 握夢

最初はグ一、バーを出しているのは誰や 川端 一歩

あれこれと老後案じてくれた詐欺 川端 一歩

木枯しがピュートと私を抱きに来る 糜谷 和郎

しゃあないなあ妻の背中を搔いてやる 藤井 宏造

婆ちゃんが長湯している美人の湯 敏森 廣光

正直に生きて代償求めない 川端 一歩

一人遊びに風の囁き花の笑み 森 廣子

弱音吐くまぶたの裏の君にだけ 森 廣子

鯨でも一度迷うと戻れない 安福 和夫

婆ちゃんが長湯している美人の湯 藤井 宏造

レストラン出でレディオバチャに戻る 失 名

レストラン出でレディオバチャに戻る 失 名

恋占いお願いしますまだ傘寿 新家 完司

夕焼けへ旅も終わりの時刻表 桑原すゞ代

平凡な日々に添えますたまごやき 桜尾 奏子

婆ちゃんが長湯している美人の湯 小野 雅美

大好きな人の視線に友がいる 小野 雅美

こだわりは捨てた心が洗われた 青木 隆一

古今堂蕉子 たむらあきこ

スポットの当らぬ所にいた狸 柿花 和夫

もうすこしで逢える遺影と酌みかわす たむらあきこ

全員正解でスカみたないクイズ 島田 握夢

傘寿を前に美人薄命などと言う 矢倉 五月

弱音吐くまぶたの裏の君にだけ 稲葉 良岩

恋占いお願いしますまだ傘寿 新家 完司

夕焼けへ旅も終わりの時刻表 桑原すゞ代

記憶から失せぬ竹槍持ったこと 平松かすみ

最初はグ一、バーを出しているのは誰や 川端 一歩

あれこれと老後案じてくれた詐欺 川端 一歩

上下来する血圧をおちよくられています 島田 握夢

湯タンポ抱いてわたしの孤独温める 今井万紗子

たてがみは白く少なくはや傘寿 水野 黒兎

缶蹴り缶は持つてるけど独り 居谷真理子

最初はグ一、バーを出しているのは誰や 川端 一歩

あれこれと老後案じてくれた詐欺 川端 一歩

こだわりは捨てた心が洗われた 青木 隆一

古今堂蕉子 たむらあきこ

スポットの当らぬ所にいた狸 柿花 和夫

もうすこしで逢える遺影と酌みかわす たむらあきこ

全員正解でスカみたないクイズ 島田 握夢

傘寿を前に美人薄命などと言う 矢倉 五月

弱音吐くまぶたの裏の君にだけ 稲葉 良岩

恋占いお願いしますまだ傘寿 新家 完司

夕焼けへ旅も終わりの時刻表 桑原すゞ代

記憶から失せぬ竹槍持ったこと 平松かすみ

最初はグ一、バーを出しているのは誰や 川端 一歩

あれこれと老後案じてくれた詐欺 川端 一歩

こだわりは捨てた心が洗われた 青木 隆一

古今堂蕉子 たむらあきこ

最初はグ一、バーを出しているのは誰や 川端 一歩

あれこれと老後案じてくれた詐欺 川端 一歩

こだわりは捨てた心が洗われた 青木 隆一

古今堂蕉子 たむらあきこ

最初はグ一、バーを出しているのは誰や 川端 一歩

あれこれと老後案じてくれた詐欺 川端 一歩

こだわりは捨てた心が洗われた 青木 隆一

古今堂蕉子 たむらあきこ

最初はグ一、バーを出しているのは誰や 川端 一歩

あれこれと老後案じてくれた詐欺 川端 一歩

こだわりは捨てた心が洗われた 青木 隆一

古今堂蕉子 たむらあきこ

最初はグ一、バーを出しているのは誰や 川端 一歩

あれこれと老後案じてくれた詐欺 川端 一歩

こだわりは捨てた心が洗われた 青木 隆一

古今堂蕉子 たむらあきこ

最初はグ一、バーを出しているのは誰や 川端 一歩

あれこれと老後案じてくれた詐欺 川端 一歩

こだわりは捨てた心が洗われた 青木 隆一

古今堂蕉子 たむらあきこ

最初はグ一、バーを出しているのは誰や 川端 一歩

あれこれと老後案じてくれた詐欺 川端 一歩

こだわりは捨てた心が洗われた 青木 隆一

古今堂蕉子 たむらあきこ

最初はグ一、バーを出しているのは誰や 川端 一歩

あれこれと老後案じてくれた詐欺 川端 一歩

こだわりは捨てた心が洗われた 青木 隆一

古今堂蕉子 たむらあきこ

最初はグ一、バーを出しているのは誰や 川端 一歩

あれこれと老後案じてくれた詐欺 川端 一歩

こだわりは捨てた心が洗われた 青木 隆一

古今堂蕉子 たむらあきこ

最初はグ一、バーを出しているのは誰や 川端 一歩

あれこれと老後案じてくれた詐欺 川端 一歩

こだわりは捨てた心が洗われた 青木 隆一

古今堂蕉子 たむらあきこ

最初はグ一、バーを出しているのは誰や 川端 一歩

あれこれと老後案じてくれた詐欺 川端 一歩

こだわりは捨てた心が洗われた 青木 隆一

古今堂蕉子 たむらあきこ

最初はグ一、バーを出しているのは誰や 川端 一歩

あれこれと老後案じてくれた詐欺 川端 一歩

こだわりは捨てた心が洗われた 青木 隆一

古今堂蕉子 たむらあきこ

最初はグ一、バーを出しているのは誰や 川端 一歩

あれこれと老後案じてくれた詐欺 川端 一歩

こだわりは捨てた心が洗われた 青木 隆一

古今堂蕉子 たむらあきこ

最初はグ一、バーを出しているのは誰や 川端 一歩

あれこれと老後案じてくれた詐欺 川端 一歩

こだわりは捨てた心が洗われた 青木 隆一

古今堂蕉子 たむらあきこ

最初はグ一、バーを出しているのは誰や 川端 一歩

あれこれと老後案じてくれた詐欺 川端 一歩

こだわりは捨てた心が洗われた 青木 隆一

古今堂蕉子 たむらあきこ

最初はグ一、バーを出しているのは誰や 川端 一歩

あれこれと老後案じてくれた詐欺 川端 一歩

こだわりは捨てた心が洗われた 青木 隆一

古今堂蕉子 たむらあきこ

最初はグ一、バーを出しているのは誰や 川端 一歩

あれこれと老後案じてくれた詐欺 川端 一歩

こだわりは捨てた心が洗われた 青木 隆一

古今堂蕉子 たむらあきこ

最初はグ一、バーを出しているのは誰や 川端 一歩

あれこれと老後案じてくれた詐欺 川端 一歩

こだわりは捨てた心が洗われた 青木 隆一

古今堂蕉子 たむらあきこ

最初はグ一、バーを出しているのは誰や 川端 一歩

あれこれと老後案じてくれた詐欺 川端 一歩

こだわりは捨てた心が洗われた 青木 隆一

古今堂蕉子 たむらあきこ

兼題「自由吟」 小島 蘭幸 選

未来より過去が重たい歳になり 北野 哲男

小骨まで拾つてくれと言いません 太田 昭

おいしいと観光客が言う田舎 萩原 狸月

白菜がドンと届いて腕まくり 森 菊江

「私を信じて」と言える首相がいるドイツ きとうこみつ

号泣の隣で雲を追つて いる 中村 惠

生きるだけに力尽くして いる 中村 惠

代わつてやりたいと母は泣いていた 島田 明美

地球まだ元気ですよと寒波来る 藤田 雪菜

生きるだけに力尽くして いる 中村 惠

谷口 東風

生きるだけに力尽くして いる 中村 惠

卷之三

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようにお願い
いたします。

和歌山二幸川柳会

西川
千鶴報

農に生き農に死んでも悔いはない
思い切り笑って心お洗濯
一日一善笑顔の預金積み立てる
身の丈に暮らして笑顔忘れない
働くのが好きで始めたボランティア
ライバルにほほえみかけてくる遺影
一生をあなたに尽くす笑い皺
お子様ランチ旗がついてた百貨店
食欲の秋が笑顔で攻めてくる

眞智子	満喜子	南大阪川柳会	松岡	篤報
明子	この厚着脱皮したいな春よ来い	三智	蟻日路	
純子	もう一度脱皮のチャンスくださいな	楓楽		
彦弘	思春期の脱皮大人になるもだえ	弘子		
義泰	若き日の思い出抱くや赤い靴	直子		
あき子	赤字でもローカル線は残すべし	蕉子		
和美	赤提灯誘蛾灯にも似て誘う	志津子		
よしこ	赤提灯僕をまつすぐ帰らせぬ			

本音からボキボキ折れる音が出る
晩秋の記憶の中の頭文字
中立の旗がいちばん揺れている
定年で働き終えて職探し

窓際の机から見る遠い空

座つたら眠なくなつてくる机

鍵つきに忍ばす彼からの手紙

久方振り机に向かい賀状書く

テレワークにあわてて机買いました

地球上から自然を奪うヒトのエゴ

戦争で生命を奪う憎い奴

戦争は生活奪う敵ばかり

赤ちゃんがメロメロにして離さない

黙食は味と笑顔を奪つてゐる

極寒の戦地をどうか生き延びて

奪い合い笑顔を交わすノーサイド

ふところの金まで奪う物価高

ルリ子の唇奪つた旭大嫌い

大家族今日もおかげを奪い合う

サッカーは一瞬の隙の奪い合い

チャンネル権妻に奪われ五十年

川柳茶ばしら(愛知)

金子美千代報

宝くじ買って敵わぬ夢を見る

三樹夫

泰子 美しい百合もピンクで喪が明ける

耕して実らせたいが老い二人

みつこ 土壇場になると不思議に出る力

宏造 富柳会(大阪)

山野 寿之報

正義 どんばちが絶えて久しくなる地球

千鶴子 こみつ 和の文字を清水寺で書かせたい

かつ美 初夢が今年の無事を丸くする

専平 次世代に語り継ぎたいこの平和

ちづる 母の味つなぐお節にある矜持

大子 点滴の零輝く青い空

庸郷 触れないで私まだまだ準備中

洋一 母と娘で家の味継ぐ祝膳

一步 リモートの長い祝辞はお手洗い

いさお 凪の海二度と戦が無いように

久仁雄 足枷を無くしてたよりない歩幅

大食いのテレビを恥じよ飢餓の民

サッカーは一生の別れの添い寝母の通夜

防衛費もう空耳でない軍靴

三年ぶり帰省の駅も父も老け

今日も又頑張つたねと影が言い

まみ子 美千代

川柳ふうもん吟社(鳥取)山下 没句川柳供養大会 三才句

凱柳報

「有料」

義勇軍とは名ばかりの雇い兵

正義 グリーン車は金の匂いが強すぎり

核の傘レンタル料が高くつく

一文 「失礼」

寿峰 あかり 淋しくてカスタネットにする小皿

きみ子 耳掃除ますと風になる男

武人 わたくしのレールに知らぬ人がいる

由夏 美代子 「くすぐる」

文重 くすぐると人間らしい音がする

和子 くすぐると性善説は嘘を吐き

欣之 しがらみをくすぐつてゆく盆の風

圭 「儲かる」

章子 戰争が死の証人を太らせる

常男 汗のない儲け話の深い罠

きよみ ふくらまし粉まぶす儲かつた話

正邦 「悲しい」

折り鶴の悲しい過去を見てしまつ

健一 無限

寿之

ねえね

ねえね

一本の愛編み上げていく紳 寿之

喪中ハガキ一枚雨が雪になる

ねえね
侵攻は悲しい嘘で始まつた

「不自然」

真夜中に引っ越して家がある

宗鉄 良江 千代子

友の目が私を見ない何がある

「ただいま」とやけに元気だ負けたかな

「敗者復活吟」

どこまでが光か足を浸けてみる

異次元の世界で遊ぶ夫と住む

「1000グラム早産」とある母子手帳

久美子 あきこ 美智子

きやらぼく川柳会(鳥取)後藤 宏之報

のんびりと矢田の渡しで向こう岸 宏之

てんてこ舞いメモした紙が見当たらぬ 久直

忘却がちやんと理由になる老後 俊久

あのそのと言い訳ばかりギブアップ ひろし

だんだんと出来ない事が増えてきた 紀の治

うたいますおはこの歌はトーン落ち 菜々

やいコロナ人類いじめ楽しいか やく

よく当たる天気予報と仲良くし バンクシー適材適所描いてる

いつ逝くかわからないから生きられる 宣子

川柳の種を埋めて畠仕事

雪マーク心の準備しておこう

懸命に生きて今年もこの程度

締切日せっぱつまつて駄作でき

遠い国へ近くなつたぞ年の暮れ

この一年何もしないで押し詰まる

雨 奇

プラザ川柳(大阪) 藤塚 克三報

電車内吊り革にぎりもたれ寝る

救急車の牙えた音聞く冬夜明け

少子化で日本の夜明け不安定

九九出来ず叱られ泣いた老輩よ

夜明け待つ金剛山の初日の出

スキヤットが聞こえてきそう寒い朝

突然の揺れに震えた夜明け前

それぞれの家のルールにある競

古希から米寿五人姉妹の賑やかさ

保育園子どもの奇声ボクは好き

右往左往ほんに人生阿弥陀籤

インバウンドで賑わい送る戎橋

のんびりと矢田の渡しで向こう岸 宏之

てんてこ舞いメモした紙が見当たらぬ 久直

忘却がちやんと理由になる老後 俊久

あのその言い訳ばかりギブアップ ひろし

だんだんと出来ない事が増えてきた 紀の治

うたいますおはこの歌はトーン落ち 菜々

やいコロナ人類いじめ楽しいか やく

よく当たる天気予報と仲良くし バンクシー適材適所描いてる

いつ逝くかわからないから生きられる 宣子

川柳の種を埋めて畠仕事

酒愛しノルマに燃えた若き日日

理不尽は深呼吸して包み込もう

千代子

玲子

治代

多美子

美砂子

一歩

いさお

高志

高泰子

高秀雄

高泰子

高志

余生つてむしろ足りない日日ですが

することがあつて余生が足りません 銀杏

黙算の鍵を重ねていく余生 郁夫

一年が無事終わりそうありがとう 欣之

後子

予報士に言われて出した冬布団
ビール党寒い冬でもますますビール
勝てそうな予想ばかりの前夜祭
文末に冷たく丸を打ちました
過去の事みな美しく月の宴
追伸の辺りで母の風が舞う
生き様をすべて知つてゐる古日記
ふところに深く沈んでゆく夕日

勝弘	かずお	丸は丸四角は四角そう生きる
博泉	長い話一言でいう中味ない	けいこ
武人	お偉方逃げ口上は聞き取れぬ	佑子
弘子	はつきりと画いた眉毛が言つていてる	雄大
常男		日出子
信子	こつんこつん殻を破つて命	憲彦
恵子	老船頭こつんと岸にびたり着け	内藤
柳	こつんでも相手次第の車輌事故	朝子
凱	こつんよりキーンが高価備長炭	時雄
鯰	頭打ち父の苦言が効いてくる	五月
大	浮かれ過ぎ神のコツンと一撃が	尚邦
鯰	愛込めてオデコにこつん指パンチ	里子
青	廢炉への計画虚し再稼働	憲
道	書き初めに今年は天を取ると書く	志津子
春	百歳が見えて計画練り直す	恵子
由	出来る筈ない計画にファイト湧く	さくら
紀	計画があつてないよな老いの日々	(田)勝弘
美	百までの計画作り実施中	蕉子
恵	一献で昔の紳取り戻す	玄也
鬼	弁解をすれば縋れてゆく紳	佳子
一	改めて紳感じる家族葬	和夫
忠	里がえり深い紳の墓参り	ひろ子
露		
風		
重		
忠		

ふるさとの絆支えに終の家
仲間の絆あつてこの世もまた楽し
今頃は社長夫人の筈だつた
8050隱居計画狂わせる
予定通り事が運んだ旨い酒
米寿まで元気で生きるつもりです (江勝 弘
四人目は実は計画外でした
計画は旅立つ前のお楽しみ
計りごといつの時代もやみの中
計画はでっかく世界一周を
計画のない日があつてこそ自由
恐れ多い文句を言つて咎められ
岡田節のモットー「あれ」にトラ躍る 清
おもしろい儲け話に刺がある
奥の手をもういい頃と解き放つ
親ごころ戻らないでと嫁ぐ娘へ
オアシスを求めて探す都市砂漠
老い先はもう見えてきた峠越え
ふる里のララボーを待つエトランゼ
再起への勇気の種が芽生えだす
お隣からララボー離婚成立か
川柳塔なら
大久保眞澄報
（米）倣子 万紗子 素頓馬
ひさ子 楓 樂
いさお 廣子
富夫 萌
敏治 光 雄
満作 憲彦
世紀子 禮子
進

初戴天の恵みと口で受け

霞より万円札が降つて來い

珈琲の苦味を乗せて血は巡る

イノシシが汗の結晶盜んでる

混浴でちらちら巨乳盜み見る

良薬に少なくなつた苦い味

にんげんもムカゴも苦いのが混じる

豊中もくせい川柳会(大阪)初代

正彦報

雄大

ゆたか

余光

規雄

重忠

清明

完司

先生オシッコこの一言の深い意味

毎日を本氣で生きる笑い鍔

ヨシエ

なりたいとサッカー選手孫本氣

義明

輝かし功績光る内助の功

眠らない街輝く星に気づかない

コツコツと内緒領く待ち合わせ

窓際で靴音の主聞き分ける

本気でも妻に勝てない腕すもう

飲み仲間一声だけで五六人

輝いているね電話の中の張り

うねくねの旅路もやつと先の見え

自分らしさを出せと自分をつづく日日

サブリとはイワシの頭かもしけぬ

9条はいつも毅然と立つてゐる

この先に輝く余生あれば良い

輝いた過去を忘れぬちびた靴

走つてゐる孫の本気が写つてゐる

この先に輝く余生あれば良い

輝いた過去を忘れぬちびた靴

走つてゐる孫の本気が写つてゐる

この先に輝く余生あれば良い

輝いた過去を忘れぬちびた靴

走つてゐる孫の本気が写つてゐる

あかつき川柳会(大阪) 磯島福貴子報

公輔

ヨシエ

宅配の新聞読める国に住む

英旺

義明

英治

肇

敏澄

いさお

大吉

正彦

千鶴子

勝弘

眞澄

勝弘

千鶴子

大吉

正彦

大吉

大吉

大吉

大吉

大吉

大吉

質素でも嘘のない世と優しさと

はこべ

宅配の新聞読める国に住む

克己

戦争を知らずに生きて七十余年

足止めで春咲く苗をひとつ買う

麻也

家族皆揃つて食べるだけでよい

保州

戦争のない国に住む有難さ

いさお

大吉がぎゅっと兜の緒を締める

欣之

大吉をネット販売する神社

りゅうこ

大吉で使い切つたか今日の運

正彦

大吉で使い切つたか今日の運

正彦

大吉で使い切つたか今日の運

正彦

大吉で使い切つたか今日の運

正彦

大吉で使い切つたか今日の運

勇

はこべ

克己

英雄

和郎

英雄

ひろし

日本を潰す四十三兆円

防衛省敵基地省に早変わり

窓口が二倍で余命半分に

ロシアさんありがと兵器揃えます

黒には黒と叫び続ける太いベン

彬さんどう詠みますかウクライナ

大吉は努力次第と書いてあり

大吉が出るまで神社梯子する

大吉も凶も私の道しるべ

ほたる川柳同好会(大阪)水野 黒兎報

点滴は余命の脈に似たテンポ

点滴のゴムで縛った腕あわれ

点字ブロックの上に立つて不埒者

生きるとは今日と明日の点つなぎ

視野視力落ちて点字を意識する

日焼サロン ハワイの太陽まだ遠い

焼き芋もスイーツと呼ばれ上品に

古日記焼きすて再起志す

手を焼いた子にはやさしく支えられ

もち焼いて砂糖醤油が旨いのだ

山を焼き明日の緑を待つのぞむ

正治 和恵

ついうつかり酒が私をしゃべらせる 奈津子
遠い耳に字幕スーパーありがたい 春代
快眠の妻はグーピースーパーと チャーシュートとチーズをあてに日本酒 一 弥

川柳あまさき(兵庫) 大浦 初音報

サユリスト今も歌える「寒い朝」

窓ガラス結露で外の寒さ知る

新年は懐寒い子の帰省

生い立ちは寒いが生き様は熱い

省エネに古い湯タンポ出してくる

熱爛に湯豆腐添えて出す店主

金婚式寄り添い我慢五十年

パソコンの賀状に添える生の文字

パパ活ティに割箸添えてくれました

スパゲティに箸添えてくれました

きっとと来て言われなくとも行く飲屋

めぐみさんきっと帰ると母は待つ

生き残りきっとウイルス変異する

ザツストップ神様どうぞ 戦争を

女神様時は移ろい山の神

混乱の世にのんびりという負い目

またあすも同じお茶飲み同じ歌

雪菜

酒に酔いもらす秘密のネタが切れ
一期一会戦争なんぞするでない
針千本用意せぬまま指を切る

神様でも美人好きだと福娘

添えるには便利な言葉ありがとう

仲直りしたくて今夜鍋にする

川柳塔まつえ吟社(島根)相見

柳歩報

野を駆けて逞しかつた昭和の子

野次馬もネットの上で牙をむく

野に放し真っ先に行く美容院

野に咲いてどんな風とも響き合う

夕焼けの空に負けじと野火走る

喜んで買います規格外野菜

目薬を注して未来の夢を見る

うれしくて君の涙が治療薬

台風に飲ませる薬ないものか

ボイントが麻薬のように効いている

いけずやな高高指と薬指

手作りと手作り風は違うでしょ

折り鶴を折る指先に祈りあり

問いつめられ作り笑いで逃げを打つ

一流の作り話を売る書店

健二 勝弘

英坊

こみつ

紀惠

宏造

柳歩

青帆

小鹿

邦代

雪代

芳山

モナカ

桂子

和夫

和江

豊仙

聰美

柳歩

柳歩

モナリザの引越し銀河鉄道で

美智子

何がある妻が段々若返る

武彦

核ノート杯事をしませんか

みっこ

星空の遙か彼方のシュールな日

ビル

ブラボーと言つて今年を終りたい

新録

おつとつとこぼさんといて酔うてゐるな

勝弘

星の数ほど彼女が居たと言つておく

弘充

サスペンス小さなメモが謎をとく

真桜子

盃に託すとつても重いもの

ダン吉

西宮北口川柳会(兵庫)

緒方美津子報

俊雄

スタートは同じ友はどんどん上に行く

喜代子

懲りもせず一年の計立て始め

富次

無礼講きらり光つた上司の目

瑠美子

スタートで出遅れてその上こけた

一歩

穏やかな今日の幸せ栗おこわ

紀乃

飲み代は俺言つてはみたが空財布

千賀子

内緒ナイショ心にそつとメモして

いさお

いざ鎌倉日本の敵はどこですか

迪

一歩一歩確実に出すやばい足

下座

がいい酒はうまいし肩こらず

おじいちゃんもじもじして

いざ行かん奈落の底へ嘘抱いて

辻

チンをして食べろと妻のメモ用紙

美津子

おせちの隅へ追い出され

吹喜

わが国もいざに備えて地下シェルター

鈴木

列島を一つの渦にW杯

野薫

ビルの屋根に止まつた鳩も濡れて

慕情

さあ今日はどこへ行こうかフリーパス

宗鉄

寒い夜は好きな盃熱爛で

正義

想像で想像つかぬ被害で

災害

叱つても褒めても返事やバイツス

邦男

彼のハートに育毛剤を塗り込んで

公輔

おせちの脳は想像できません

吹喜

奈良の鹿青で信号渡ります

野鶴

書き留めたメモで歴史の謎を解き

ゆきみ

ビルの屋根に止まつた鳩も濡れて

慕情

さあ今日どこへ行こうかフリーパス

靖夫

寒い夜は好きな盃熱爛で

美津子

想像をする時酒の力借り

吹喜

いざとなればデキる男に変わります

敦子

彼のハートに育毛剤を塗り込んで

野鶴

寒い夜は好きな盃熱爛で

吹喜

メモの山整理するのにメモを取る

隆一

寒い夜は好きな盃熱爛で

正義

自肅三年想像力も低下する

吹喜

天国でしごれ切らして待つ夫

ばつは

いざとなればデキる男に変わります

正義

自肅三年想像力も低下する

吹喜

大掃除鍋を磨いて晦日そば

みよし

いざとなればデキる男に変わります

正義

自肅三年想像力も低下する

吹喜

地球儀を丸洗いして除夜の鐘

和宏

いざとなればデキる男に変わります

正義

自肅三年想像力も低下する

吹喜

父ちゃんはいざという時居りません

盛夫

いざとなればデキる男に変わります

久仁雄

いざとなればデキる男に変わります

吹喜

手を付けず拉致の風化を待つ政府

お口からお迎えにいく旨い酒

風来坊

衰えを想像しない若い日々

免許返納想像出来ぬ街を見る

地獄しか想像できずやりきれぬ

想像は秘密夢なら語ります

その胸の膨らみたわわ らりるれろ

未来図を描き足す暇はたんとある

ベルリンの壁より固い北の壁

憧れた未来想像だけで終え

食欲と戦つて待つ検診日

ランドセル永い期間で再始動

なんだかんだ言つても日本いい国だ

暑けりや脱ぎ寒けりや着るをくり返す

敬老日指にトンボが来てくれる

川柳さんだ(兵庫) 洋子

酒井 健二

則彦

孝子

隆樹

英子

霜石

ひとし

友二

久美子

英子

アキラ

流れ星願いを掛ける暇もなく

逃げ足の速い男の軽はずみ

P.K戦読みの速さでつく勝負

祭り太鼓聞けば歩みも速くなる

速報が途中で消えるテレビニュース

人生の欠けたページにある秘密

十八歳大人のページ仲間入り

昭和史に忘れてならぬ血のページ

核の無い輝くページ次世代に

愛読書ページに残るわが奇跡

終章に君の優しさ空けてある

自画像に朱を入れちょっと華やかに

自画像を描かせば何と好い男

夫婦でもそれぞれ描く老の道

孫が描いた似顔絵だから宝物

愛しててる背中に描いたラブレター

四コマの描写マンガに見る世相

A.Iと描く未来は夢無限

銀幕に小津が描いた家族愛

老いたなとやはり感じる記憶力

女系家族に入る余地なし婿養子

リニアが越すに越せない大井川

看護師に脈をとられて速くなる

物忘れ早くて遅い物覚え

玲子

博

俊朗

雅尚

和郎

敏夫

健二

修平

三ツ代

高志

哲夫

ヨシエ

好文

雄太郎

正和

宗鉄

えい子

千賀子

廣光

稠民

一子

万彩

厚子

雅子

重男

へそくりも非常袋に入れてある

あら国旗変なお家と言うタウン

見てしまふ絵馬に書かれた願いごと

英秋

私のご機嫌とっているワタシ

わがやま吟社(前月分) 松原 寿子報

サバイバル募集の中で生き残る

求人の歳に必ず引っ掛かる

嫁募集手ぶらで良いと書いておく

募集します夫の世話を出来る人

失ったものより得たものに感謝

失敗の傷にしみ込む人の口

失望の果てで居眠りしてしまう

へこんだ背中押されて出た勇気

今生に失う物は何もなし

記憶まだ失せてはいない筆燃える

失敗を恐れて一歩踏み出せず

過剰警護一つの過失があつてから

心だけちょっとふつくら年金日

ふつくらと味はともかく卵焼き

ふつくらと言われてニヤリ肥満体

富美子

小雪

佳子

夕胡

北九州市制60周年記念
第61回 北九州芸術祭川柳大会（誌上）

課題と選者（各題2句）

「期 待」 霧石 隆子 選
「ス リ ム」 尾藤 川柳 選
「そろそろ」 木本 朱夏 選
「描 く」 森中恵美子 選
「ほどほど」 赤井 花城 選
「アナログ」 新家 完司 選
「重 い」 古谷龍太郎 選

投句締切 4月30日（日） 当日消印有効

投句料 1000円

投句方法 所定用紙（コピー可）または便箋
各題2句（計14句）を列記。
郵便番号・住所・氏名・電話番号
を明記。

投句先 〒806-0051
北九州市西区東鳴水4-2-17
安川 聖 宛
電話・FAX 093-621-6570

発表表管 『川柳くろがね』7月号
北九州川柳作家連盟

第62回 春の区民文化祭
いきがい川柳誌上大会

課題・選者（各題2句）

「もれなく」 橋倉久美子 選
「そのまま」 四分一周平 選
「 愛 」 藤井 智史 選
「 私 」 赤松ますみ 選

投句用紙 投句用紙は投句先へ請求

参加費 1000円（切手不可）

発表誌呈（6月上旬発送予定）

募集期間 3月1日（水）～31日（金）
消印有効

投句先 〒178-0063

東京都練馬区東大泉3-49-14
練馬区川柳連盟

町井新一

電話 090-4618-9796

主催 練馬区川柳連盟

第33回「太平記の里」
全国誌上川柳大会

応募方法 投句用紙または用紙自由。
住所・氏名・電話明記。

投句料 1000円（郵便小為替）
同封。

課題 「家」（2句詠み。新作に限る）

選者 8名 共選
岡崎 守・竹田 光柳
霧石 隆子・北山まみどり
森中恵美子・本田 智彦
井原みつ子・平田 朝子

応募締切 3月31日（金）

結果発表 5月 大会記念誌

応募先 〒373-0844
太田市下田島町1243-65

主催 太田市川柳協会
原名 幸雄 宛

姫路 川柳水流会
第19回 誌上川柳大会

課題と選者（各題2句）

「傷」 しばたかずみ・村山 浩吉 共選
「汚れる」 潮田 春雄・くんじろう 共選
「味」 中野 六助・土橋 旗一 共選
「覗く」 小島 蘭幸・赤井 花城 共選

投句要領 所定用紙または便箋大用紙
1枚に各題2句を連記。郵便番号・
住所・氏名・電話・所属結社を明記。
重複投句不可。

投句料 1,000円（現金他・切手不可）
大会発表誌「縁津見」誌に掲載（5月頃）

締切 3月31日（金）当日消印有効

投句先 〒670-0884
姫路市城北本町9-15

濱遣稻佐岳 宛

連絡先 電話 090-3721-9295（稻佐岳）
主催 姫路 川柳水流会

柳界展望

あおい賞 山西 佳子 会。

▽訂正とお詫び△

△川柳塔誌電子化事業△
2月1日、西尾菜「水鶏

(10月7日)の兼題と選
者の決定。③会計中間報

言つた方の軽さ受けた
方の重さ

○二月号P3目次下1行

笛(昭45)、高橋操子「千

告④「100周年記念合同句

たばな賞 小林 八茶

○目、相本→相元。P27上

龟利(昭53)、羽原静歩

集」について⑤「100周年

楽しい句せめてひと時
笑おうか

○段後ろから6行目、竹

「足跡」(昭57)がアップ

について⑥同人・誌友の拡

柳誌上大会。同人成績。

○原県→竹原市。P79上段

された。

★令和4年錦秋龍ヶ崎川

○本文3行目、平成2年↓

常任理事会(2月7日)

平井美智子

○笛(昭45)、高橋操子「千

出席22名。①「第11回春

それを生きて家族

○柏原 夕胡

龟利(昭53)、羽原静歩

という和音

○抽斗を開けて笑顔にな

「足跡」(昭57)がアップ

天 宇都満知子

○大山滝句座

された。

いただいた恩がまつす

○斎尾くにこ

常任理事会(2月7日)

ぐ歩ませる

○吉野成子。P91中段「き

令和2年。P90上段12行

★第6回水の都まつえ川

○木本朱夏さん(和歌山市)

の記念講話「一閑人抄を

柳大会。同人成績。

○西宮北口川柳会

担当してー」が、「川柳

の川柳塔まつり」の締切

特選 平井美智子

○木本朱夏さん(和歌山市)

宮城野」1月号に掲載さ

前後の体制について②

魂を売りませんかと鳴

○柳大會。同人成績。

「第29回川柳塔まつり」

る電話 ○城北川柳会

○柳大會。同人成績。

柳大會。同人成績。

年間賞 大内 朝子

○柳大會。同人成績。

柳大會。同人成績。

年間賞 平凡な顔へきりりとア

○柳大會。同人成績。

アライン

○川柳塔わかやま

○柳大會。同人成績。

柳大會。同人成績。

不快指数ゼロふるさと
の風の中

○柳大會。同人成績。

柳大會。同人成績。

○川柳塔わかやま

○柳大會。同人成績。

柳大會。同人成績。

莫水賞 吉道あかね

○柳大會。同人成績。

柳大會。同人成績。

不快指数ゼロふるさと
の風の中

○柳大會。同人成績。

柳大會。同人成績。

▽令和4年度

▽各地句会年度賞△

第71回東北川柳大会での

「泡立つ」 湊 圭伍 選

「二周年」 暮田 真名 選

「生い立ち」 真島久美子 選

「無い袖」 八上 桐子 選

「ぶらり」 新家 完司 選

「雑詠」 クンジロウ 選

▽出版△

木本朱夏さん(和歌山市)

「新誌友紹介△」

高砂市 紹介者 加古川市 石賀 邦子

今津 美幸 平井美智子

紹介者 本荘 福子

5判190頁、岸和田川柳

京都市

宮城野」1月号に掲載さ

れた。

『合同句文集 強いペン』

高砂市 紹介者

「新誌友紹介△」

「泡立つ」 湊 圭伍 選

「二周年」 暮田 真名 選

「生い立ち」 真島久美子 選

「無い袖」 八上 桐子 選

「ぶらり」 新家 完司 選

「雑詠」 クンジロウ 選

▽新誌友紹介△

木本朱夏さん(和歌山市)

「新誌友紹介△」

高砂市 紹介者 加古川市 石賀 邦子

今津 美幸 平井美智子

紹介者 本荘 福子

「泡立つ」 湊 圭伍 選

「二周年」 暮田 真名 選

「生い立ち」 真島久美子 選

「無い袖」 八上 桐子 選

「ぶらり」 新家 完司 選

「雑詠」 クンジロウ 選

▽出版△

木本朱夏さん(和歌山市)

「新誌友紹介△」

高砂市 紹介者 加古川市 石賀 邦子

今津 美幸 平井美智子

紹介者 本荘 福子

「泡立つ」 湊 圭伍 選

「二周年」 暮田 真名 選

「生い立ち」 真島久美子 選

「無い袖」 八上 桐子 選

「ぶらり」 新家 完司 選

「雑詠」 クンジロウ 選

▽出版△

木本朱夏さん(和歌山市)

「新誌友紹介△」

高砂市 紹介者 加古川市 石賀 邦子

今津 美幸 平井美智子

紹介者 本荘 福子

「泡立つ」 湊 圭伍 選

「二周年」 暮田 真名 選

「生い立ち」 真島久美子 選

「無い袖」 八上 桐子 選

「ぶらり」 新家 完司 選

「雑詠」 クンジロウ 選

▽出版△

木本朱夏さん(和歌山市)

「新誌友紹介△」

高砂市 紹介者 加古川市 石賀 邦子

今津 美幸 平井美智子

紹介者 本荘 福子

「泡立つ」 湊 圭伍 選

「二周年」 暮田 真名 選

「生い立ち」 真島久美子 選

「無い袖」 八上 桐子 選

「ぶらり」 新家 完司 選

「雑詠」 クンジロウ 選

▽出版△

木本朱夏さん(和歌山市)

「新誌友紹介△」

高砂市 紹介者 加古川市 石賀 邦子

今津 美幸 平井美智子

紹介者 本荘 福子

「泡立つ」 湊 圭伍 選

「二周年」 暮田 真名 選

「生い立ち」 真島久美子 選

「無い袖」 八上 桐子 選

「ぶらり」 新家 完司 選

「雑詠」 クンジロウ 選

▽出版△

木本朱夏さん(和歌山市)

「新誌友紹介△」

高砂市 紹介者 加古川市 石賀 邦子

今津 美幸 平井美智子

紹介者 本荘 福子

「泡立つ」 湊 圭伍 選

「二周年」 暮田 真名 選

「生い立ち」 真島久美子 選

「無い袖」 八上 桐子 選

「ぶらり」 新家 完司 選

「雑詠」 クンジロウ 選

▽出版△

木本朱夏さん(和歌山市)

「新誌友紹介△」

高砂市 紹介者 加古川市 石賀 邦子

今津 美幸 平井美智子

紹介者 本荘 福子

「泡立つ」 湊 圭伍 選

「二周年」 暮田 真名 選

「生い立ち」 真島久美子 選

「無い袖」 八上 桐子 選

「ぶらり」 新家 完司 選

「雑詠」 クンジロウ 選

▽出版△

木本朱夏さん(和歌山市)

「新誌友紹介△」

高砂市 紹介者 加古川市 石賀 邦子

今津 美幸 平井美智子

紹介者 本荘 福子

「泡立つ」 湊 圭伍 選

「二周年」 暮田 真名 選

「生い立ち」 真島久美子 選

「無い袖」 八上 桐子 選

「ぶらり」 新家 完司 選

「雑詠」 クンジロウ 選

▽出版△

木本朱夏さん(和歌山市)

「新誌友紹介△」

高砂市 紹介者 加古川市 石賀 邦子

今津 美幸 平井美智子

紹介者 本荘 福子

「泡立つ」 湊 圭伍 選

「二周年」 暮田 真名 選

「生い立ち」 真島久美子 選

「無い袖」 八上 桐子 選

「ぶらり」 新家 完司 選

「雑詠」 クンジロウ 選

▽出版△

木本朱夏さん(和歌山市)

「新誌友紹介△」

高砂市 紹介者 加古川市 石賀 邦子

今津 美幸 平井美智子

紹介者 本荘 福子

「泡立つ」 湊 圭伍 選

「二周年」 暮田 真名 選

「生い立ち」 真島久美子 選

「無い袖」 八上 桐子 選

「ぶらり」 新家 完司 選

「雑詠」 クンジロウ 選

▽出版△

木本朱夏さん(和歌山市)

「新誌友紹介△」

高砂市 紹介者 加古川市 石賀 邦子

今津 美幸 平井美智子

紹介者 本荘 福子

「泡立つ」 湊 圭伍 選

「二周年」 暮田 真名 選

「生い立ち」 真島久美子 選

「無い袖」 八上 桐子 選

「ぶらり」 新家 完司 選

「雑詠」 クンジロウ 選

▽出版△

木本朱夏さん(和歌山市)

「新誌友紹介△」

高砂市 紹介者 加古川市 石賀 邦子

今津 美幸 平井美智子

紹介者 本荘 福子

「泡立つ」 湊 圭伍 選

「二周年」 暮田 真名 選

「生い立ち」 真島久美子 選

「無い袖」 八上 桐子 選

「ぶらり」 新家 完司 選

「雑詠」 クンジロウ 選

▽出版△

木本朱夏さん(和歌山市)

「新誌友紹介△」

高砂市 紹介者 加古川市 石賀 邦子

今津 美幸 平井美智子

紹介者 本荘 福子

「泡立つ」 湊 圭伍 選

「二周年」 暮田 真名 選

「生い立ち」 真島久美子 選

「無い袖」 八上 桐子 選

「ぶらり」 新家 完司 選

「雑詠」 クンジロウ 選

▽出版△

木本朱夏さん(和歌山市)

「新誌友紹介△」

高砂市 紹介者 加古川市 石賀 邦子

今津 美幸 平井美智子

句会名	日 時 と 領	会 場 と 投 句 先
川柳塔 さかい	14日(火) 14時締切 うらはら・泥 折句:す・み・れ	会場 東洋ビルディング(堺東駅北西改札口から2分) 欠席投句先 〒599-8122 堺市東区丈六77-4 斎藤さくら
川柳 あまがさき	14日(火) 14時締切 疑う・食(連記)・やれやれ 自由吟	会場 東園田町総合会館2F 阪急園田駅北口徒歩2分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
岸和田 川柳会	18日(土) 14時締切 裏・配る・救う・エコ	会場 岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄岸和田駅東へ徒歩5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-18-27 雪本珠子
川柳 たちばな	18日(土) 13時45分締切 席題・おまけ・弱い・自由吟	会場 東園田町総合会館2F 阪急園田駅北口徒歩2分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川柳塔 みちのく	18日(土) 17時締切 大笑い・それぞれ・肩車	会場 -未定 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稻見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川柳 藤井寺	19日(日) 14時締切 予想外・わいわい	会場 パーブルホール4F 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
豊中 もくせい 川柳会	20日(月) 14時締切 主婦・吹く・ぽかん・自由吟	会場 豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川柳 ねやがわ	21日(火) 13時締切 卒業・うろつく・輝く 美味しい・自由吟	会場 寝屋川市産業振興センター 〒573-1104 枚方市楠葉丘1-9-13 藤村亜成
川柳 さんだ	21日(火) 13時30分締切 無力・悪い・ノック・離れる 自由吟	会場 キッピーモール 6F (JR三田駅前) 投句先 〒669-1324 三田市ゆりのき台3-14-9 上田ひとみ
川柳塔 すみよし	24日(金) 14時締切 銀・歌う・しつこい	会場 住吉区民ホール集会室4(図書館棟2F) 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
和歌山 三幸 川柳会	25日(土) 13時15分締切 旗・趣味・卒業	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
はびきの 市民 川柳会	26日(日) 14時締切 緑・溢れる・エピソード・席題	会場 陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鶴」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川柳 ふうもん 吟 吟社	26日(日) 13時から 自由吟・並べる・週末 恋しい・席題	会場 県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町2-1 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所(06-6779-3490)へご連絡ください。

★上記は年初の予定。諸般の事情のため、詳細は各柳社にお問い合わせください。

3月各地句会案内

(開催日順)

句会名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
川柳塔 な ら	2日(木) 14時締切 節目・うんざり・兆す	会場 奈良市中部公民館 近鉄奈良駅奈良駅③番出口徒歩5分 奈良県磯城郡川西町結崎421-64 長谷川崇明
城 北 川柳会	4日(土) 14時締切 鋭い・あほ・忖度・自由吟	会場 旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川 柳 とんだばやし 富 柳 会	4日(土) 14時締切 使う・ここから・自由吟・席題	会場 富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0066 富田林市錦織北1-14-6 中村 恵
倉 吉 川柳会	4日(土) 14時締切 流行・顔・夜・席題	会場 倉吉市明倫公民館 投句先 〒682-0722 東伯郡湯梨浜町はわい長瀬1028-1 天野道春
川 柳 塔 ま つ え 吟 社	4日(土) 13時40分締切 簡単・工夫・編む・寒い	会場 雑貨公民館 投句先 〒690-0012 松江市古志原7-19-19 中筋弘充
おりひめ☆ ひこぼし 川柳会	7日(火)消印有効 あの日・よりそう・それいけ	投句先 〒573-0095 枚方市翠香園町2-7 『おりひめ☆ひこぼし川柳会』 藤田武人 TEL・FAX 072-395-5453
あかつき 川柳会	10日(金) 肌・再建・どっぷり・時事吟	会場 大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F203会議室) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
六 甲 川柳会	11日(土) 14時締切 席題・心配・きっと・選ぶ 自由吟	会場 瀬区民センター 5階 E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒658-0083 神戸市東灘区魚崎中町2-12-5 敏森廣光
川 柳 塔 打 吹	11日(土) 13時30分締切 席・浮く・ことこと・席題	会場 倉吉市上灘町9 上灘コミュニティーセンター 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 川柳塔打吹 事務局
川 柳 塔 わかやま 吟 社	12日(日) 14時10分締切 兼 題=輪郭・よだれ・セーフ 課題吟=もう	会場 和歌山県JAビル11階 兼 題 〒640-8482 和歌山市六十谷1188-14 川上大輪 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町2-208-5 乗原道夫
南 大 阪 川柳会	13日(月) 15時締切 予約・任せる・ポイント・雑詠	会場 大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1116 高槻市白梅町5-15-1008 松岡 篤
西 宮 北 口 川柳会	13日(月) 13時30分締切 席題・漢字・こだわる・ぼつん 自由吟	会場 西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「プレラにしのみや」 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫
ほ た る 川 柳 同 好 会	14日(火) 13時30分締切 時代・洗う・印象吟	会場 豊中市立螢池公民館 阪急・モノレール螢池 螢池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兎

★40数年間抱いていた些細な疑問が解けた、他愛もない話です。

★大阪市千日前に、「天井の店」という名のカウンター5席だけの小さな天井屋がある。初代店主の頃から通っているが、海老2尾と海苔天だけの天井。海老は嗜み味を残すため身を開いていない。タレは東京風でなくサラッとしている。天井650円、赤だし50円。

★往時は夏の1月間は休業していた。休み明けに行つたところ、海老が3尾出たことがあった。休み明けのサービスかと思つたのだが、その理由を聞かず40数年過ぎた。

★今の店主は三代目だが、客が私だけの時に、その理由を聞いてみた。今もたまたまが海老を3尾出しがあると言

う。天然の海老を使っているので、店で使つてあるサイズの海老(決して大きくはない)が入らないことがある。その時は、海老を3尾出しているということでした。(道夫)○年々どんどん臭くなつて、乗ろうとした電車のドアが目の前で閉まつたり、降りるつもりの駅で降り損ねたり、照れくさいやら悔しいやら、そして諦めて、次の策を考える。

○ある時、環状線の車内のこと、ドアが閉まり、いざ出発というとき、運転席のドアを叩くご婦人がいた。運転手さんが慌てて開けて訳を聞いた。

「私降りるんです」

○いつたん閉まつたドアが開いた。えつ!

○彼女が降りた後、車内はどよめいた。ありえへん(そうや)、急いでるのに(私も)、そんなんありか(ほんまや)、などなど。

▲5月本社句会のお話に

コロナ共存の中で

2019年の春から夏、パリに3ヶ月滞在したのち、翌年コロナ

びフランスへ。ニースの学校へ2ヶ月その後パリへ戻り1ヶ月、

今回はウクライナのこともあり、少し心配の種もあるが、チャンスが目の前にあるならと決心。予定

ひとこと

○ある時、乗りたいバスがバス停に近づいているのに、おばあさんの足では辿りつけない。私達の

意識を察したか、運転手さんが待つてくれていた。すみませんありがとう!

▲「姿勢に注意」①体幹の改善」「姿勢に注意」「意識が肝心」「肩痛の防止」

②全身を放鬆(力を抜く)③頭頂を天に向けてする④首筋を伸ばす意識をする

④足裏全体で床を踏み締めたいと思う。

▲「意識が肝心」①筋力

技術に頼らず意識に頼る

②体が固く難しい人でも

③全身へ「意識」を巡らせて、笑顔で続けること

が肝要。以下2項目は次回に掲載。(憲彦)

を立てたのち娘の妊娠が分かり少しだけ前に日程をずらし、親としてはこちらも心配の種。行つたら行つたでまたあれこれ前回以上の

ハプニングに巡り合うことだろう。これも人生、さて箱を開け

ているのだろうか。開ける前からばどんな色の私のステージが待つ

ワクワク、スリッケースに夢詰め

て、さて飛び立とう。

こと

川柳塔(同人)・水煙抄(誌友)投句用紙

種目「」発表(5月号)

地名

市
県
府
道
都
姓
雅
号

きりとりせん

◎8句を楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

同人・誌友 マルで囲んでください。

投句先 〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201

「川柳塔」への投句について

- (1) 川柳塔欄への投句は同人・水煙抄欄へは誌友（誌代半年分以上前納の定期購読者）に限り、本誌綴込みの投句用紙を使用してください。
- (2) 愛染帖・檸檬抄・一路集・インスピレーション・ナビ（印象吟）への投句は、同人・誌友に限ります。初歩教室は誌友のみとします。愛染帖・一路集・初歩教室は川柳塔柳箋（本社事務所取り扱い）、檸檬抄は本紙綴込みの投句用紙を使用してください。
- (3) 各欄への投句は、必ず氏名と住所（県・市名）を明記してください。
- (4) 各欄への投句数および投句締切期日の厳守をお願いします。ファックスでの投句は御遠慮下さい。

川柳塔本社事務所へのご連絡は、土・日曜、祝日を除く平日の10時から14時までにお願いいたします。

檸 檬 抄 投 句 用 紙

「抜 く」(3月15日締切)

5月号発表

永見 心咲 選 —— 共選 —— 江島谷勝弘 選

	B	A		B	A
地名			地名		
県 市			県 市		
府 道 都			府 道 都		
姓 雅 号			姓 雅 号		

切らないで下さい

左右に同じ句を書いて下さい

◎楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。
きりとりせん

川柳塔誌新規購読申込書

きりとりせん

年 月 日

紹介者	電話	住所	氏名
○ ○	〒 —		
年 月から半年 月から一年	— —		
5 0 0 0 円 9 8 0 0 円			
該当の方に○をつけて下さい			

〒543
-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201

川柳塔社

(電話 06-6779-3490)

振替 00980-4-298479

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい

作品募集

6月号 檸檬抄「しつこい」
一路集「あきらめる」「そろそろ」
初步教室「 本 」

本社句会欠席投句のお薦め

*幅4.5センチ×長さ25センチの句箋一枚
に一句ずつを書き、裏面に題とお名前
を記入のこと。

*投句料1000円（切手不可）。

*句会日の前々日までに事務所に必着のこと。

本社 3 月句会

会 費	兼 席 題	と き	3月7日(火)	13時開場・13時40分締切
投句料	「おはなし」「薰風さんさん」	天王寺区石ヶ辻町19-12	電 06-6772-1441	ところ アウイーナ大阪 3階 葛城の間
1000円(切手不可)	「好 意」	来 原 道 夫 氏		
	「ノ一(NO)」	高 杉 力 漢		
	「自 由 吟」	石 田 ひろ子 漢		
		山 下 じゅん子 漢		
		江 吉 村 久仁雄 漢		
		小 島 煙 哲 男 漢		
		島 蘭 哲 男 漢		
		(各題2句以内)		

本社4月句会
10日(月)午後1時から
兼題「片方」「あきれる」「とろり」
「簡単」「自由吟」

川柳・俳句・エッセイ・小説
新聞・広告・ポスター・伝票等



美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10

TEL (06) 4800-3018

FAX (06) 4800-3028

メール bikenart@ea.mbn.or.jp

ホームページ <https://www.bikenart.com>

定価 八百円(送料100円)
半年分 五千円(送料共)
一年分 九千八百円(同)
二〇二三年(令和五年)三月一日発行
発行人 小島和幸
編集人 粕原道夫
印刷所 美研アート
大阪市天王寺区大道二一一四一七
花野ビル201号室
振替 〇〇九八〇一四一九八四七九〇番
電話 〇六六七七九三四九〇番
発行所 川柳塔社

川柳塔のホームページアドレス <https://senryutou.net>

箸がとまらん極うま塩昆布

「直火仕込み製法」により炊き上げた濃厚な旨さ

職人の技術で、超とろ火の火加減により、
秘伝の煮汁にじっくり溶けだした旨味を、昆布に染み込ませています。



お友達LINE
QRコード

舞昆のお友達にな
って下さい。

舞昆のこうはら

商品のお問い合わせはこちらまで(ご試食承ります)

フードイヤル 0120(11)5283
イイコブヤサン

心を尽くし 思いを尽くし 知性を尽くし
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

医療法人社団 湯川胃腸病院



消化器科 放射線科 脳神経外科
緩和ケア (ホスピス)
デイサービスセンター併設



大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2 TEL 06-6771-4861

<http://www.yukawa.or.jp>